

JICA中部

2018年度 開発教育指導者研修 報告書



独立行政法人国際協力機構
中部センター（JICA中部）

目次

巻頭グラフ

I 開発教育指導者研修の概要 -----	1
1 ● 開発教育指導者研修の目的	
2 ● 「実践編」の概要	
3 ● 「初級編」の概要（岐阜県、三重県、静岡県浜松）	
II 開発教育指導者研修（実践編）第1回 -----	6
6 ● 開催概要、第1回のねらい	
6 ● プログラムの内容	
III 開発教育指導者研修（実践編）第2回 -----	14
14 ● 開催概要、第2回のねらい	
14 ● プログラムの内容	
IV 開発教育指導者研修（実践編）第3回 -----	24
24 ● 開催概要、第3回のねらい	
24 ● プログラムの内容	
V 実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップ -----	33
33 ● 実践体験ワークショップ検討会の内容	
34 ● 実践フォローアップの内容	
VI 実践報告シート -----	35
35 ● 実践報告シート一覧	
36 ● 実践報告シート43人分	
VII 開発教育指導者研修（実践編）第4回 -----	79
79 ● 開催概要、第4回のねらい	
79 ● プログラムの内容	
VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2019 -----	83
83 ● 開催概要、開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2019のねらい	
83 ● プログラムの内容	
87 ● 実践体験ワークショップの内容	
91 ● ふりかえりシート	
IX 研修全体のふりかえり・評価 -----	93
93 ● 研修の期待と満足度について	
93 ● 研修を受けた自分自身の意識の変化について	
95 ● 開発教育・国際理解教育の実践について	
99 ● 学習者の変化や周りへの波及効果について	
102 ● 全体を通して	
105 ● 研修・実践報告フォーラムをより良くするための提案	

研修の様子～第1回 開発教育指導者研修(実践編) <6月>



▲全体アイスブレイキング「参加者アンケート」



▲日本と他国～つながりに気づき、つながりを築く



▲発散と収束～人と社会に役立つロボット企画提案



▲テーマについて学ぶ～SDGsについて知る

研修の様子～第2回 開発教育指導者研修(実践編) <7月>



▲世界と出会うトリビアクイズ



▲課題の原因は何だ～情報カードを用いた因果関係図



▲持続可能な〇〇をデザインしよう！



▲持続可能なよりよい未来を創るための提言

研修の様子～第3回 開発教育指導者研修(実践編) <8月>



▲自己紹介「たぶんあなたはこんな人、実は私はこんな人」



▲プログラム作りステップ②「テーマを理解する」



▲教師海外研修報告



▲実践！ファシリテーション！

研修の様子～第4回 開発教育指導者研修(実践編)/実践報告フォーラム2019 <2月>



▲第4回研修：受講者実践の共有



▲実践報告フォーラム：実践報告ポスターセッション



▲実践報告フォーラム：実践体験ワークショップ



▲実践報告フォーラム：つながりワークショップ

I 開発教育指導者研修の概要

■ 開発教育指導者研修の目的

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、開発途上国の現状や日本との関係に関する「知見の還元」および自分に何ができるかを「考える機会の提供」、地域における「橋渡し役」に重点を置いた開発教育支援を実施している。JICAの国内機関である中部センター（以下、「JICA 中部」）は、中部地域（愛知・岐阜・三重・静岡）における開発教育支援として、①JICAが直接受け手に対して指導等行う事業（国際協力出前講座、JICA 施設訪問プログラム等）と、②開発教育に取り組む担い手を育成するもの（教師海外研修、開発教育指導者研修）を実施している。特に、指導者育成の事業においては、①初めて開発教育に取り組む人材を対象とした開発教育指導者研修（初級編）と、②より中核的な指導者となることが期待される人材を対象とした開発教育指導者研修（実践編）、及び③教師海外研修を実施し、それぞれの事業を有機的に結びつけることにより相乗効果の拡大を図っている。

このうち、開発教育指導者研修（実践編）は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成すること、かつ指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、①開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習、あるいは②実際の開発途上国への訪問による開発途上国の実情および日本の国際協力の状況に対する理解の促進および教育材料の収集等のための研修を実施している。

また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開する他、JICAの開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待されている。



開発教育指導者研修・教師海外研修プログラムの「学びの好循環」

■ 「実践編」の概要

- (1) 日時 第1回 2018年6月16日(土) 13:00~17:17 -17(日) 10:00~15:20
 第2回 2018年7月14日(土) 13:00~17:16 -15(日) 10:00~15:21
 第3回 2018年8月25日(土) 13:00~17:17 -26(日) 10:00~17:15
 第4回 2019年2月10日(土) 10:00~18:00
 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2019(以下、実践報告フォーラム2019)
 2019年2月11日(日) 第1部 10:00~15:20/第2部 15:30~17:00
- (2) 場所 JICA 中部 なごや地球ひろばセミナールーム
- (3) 対象 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、教育委員会、自治体関係者、
 NPO/NGO、JICA ボランティア OB/OG など
- (4) 運営委託先 (特活) NIED・国際理解教育センター
- (5) 後援 愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、静岡県教育委員会、
 名古屋市教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会
- (6) 参加者数 43名(うち8名は教師海外研修参加者)、他 JICA スタッフ等も参加
 実践報告フォーラム2019:164名(一般参加者)
- (7) 参加費 無料
- (8) 講師 (特活) NIED・国際理解教育センター代表 伊沢令子
- (9) 内容 テーマ、ねらい、プログラムは、次のとおり

テーマ「ESD(持続可能な開発のための教育)とグローバル人材」

- 開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方と、ESDを始めとする他の教育との関連性を理解する。
- 「知り・考え・気づく」場の提供と、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「参加・協力」の力を育てることを通して、人の行動変容を支える「参加型」についての理解を深め、習熟する。
- 人がよりよく学び、よりよく変わることに寄り添う「ファシリテーターの役割」とそのための手立てを確認し、習熟する
- 3回までに学んだことを基に、各自の現場で開発教育・国際理解教育のプログラムを実践し、その成果と課題を第4回に持ち寄り共有し、よりよい質の教育(BQOE[※])につなぐ。
- 1年間に及ぶ本研修の成果を、仲間と共に一般の人々に向けてフォーラムで発表することを通して、次なる担い手を増やし、「学びの好循環」を作る。

※BQOE...Better Quality of Education

◆ 第1回：『開発教育・国際理解教育の概論』

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② 国際社会・地域社会を振り返り、自分たちが生きる社会の現状と課題を把握する。
- ③ ESDやSDGsと開発教育の関わりを理解し、特にSDG4についての理解を深める。

◆ 第2回：『「知り、考え、気づく」と「気づき、考え、行動する」をつなぐ』

- ① 知り、考え、気づくことと、気づき、考え、行動することをつなぐプログラムを体験する。
- ② 「自ら考え行動する力」を育む、参加体験型学習のポイントと参加型の有効性を確認する。
- ③ 持続可能なよりよい未来の実現に向け、教育者かつ実践者としてできることを考え共有する。

◆ 第3回：『開発教育・国際理解教育 参加型のデザイン』

- ① 流れのあるプログラム作りと、多様な参加型手法の活用方法を学ぶ。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ 開発教育を各自の現場で実践し、様々な場で参加型を活用するためのイメージを持つ。

◆ 第4回：『評価と展望 開発教育の可能性と学びの好循環』

- ① 研修での学びを基にした各自の実践の成果と課題を共有する。
- ② 1年を通した研修をふりかえり、開発教育の意義と可能性を確認しあう。
- ③ 開発教育について学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を築く第1歩を共に踏み出す。

◆ 実践報告フォーラム2019『ヒントが見つかる！仲間に出会える！』

- ① 【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ② 【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得る。
- ③ 【主催者】国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ 「初級編（岐阜県）」の概要

- (1) 事業名 開発教育指導者研修初級編（岐阜県）
岐阜県総合教育センター「国際理解教育講座」
- (2) 日時 2018年8月24日（金）9：30～16：00
- (3) 場所 岐阜県総合教育センター
- (4) 主催 岐阜県教育委員会、JICA 中部
- (5) 参加者 13名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：国際理解教育講座

- ① 演習「国際理解教育ワークショップ」
～教師海外研修、開発教育指導者研修（実践編）の活用と、実践を通して～
講師：岐阜県多治見市立小泉小学校 教諭 後藤 純子
- ② JICA 岐阜デスクより事業案内
- ③ 講義「JICA 国際協力出前講座を体験してみよう！」
～日系社会青年ボランティア体験談～
講師：可児市立桜ヶ丘小学校 教諭 小泉 美也子
- ④ 「パネルトーク」～多文化共生と学校～
パネリスト：岐阜県多治見市立小泉小学校 教諭 後藤 純子
可児市立桜ヶ丘小学校 教諭 小泉 美也子
岐阜県国際協力推進員 世古 英弘
- ⑤ 研修まとめ

■ 「初級編 (三重県)」の概要

- (1) 事業名 2018年度開発教育指導者研修 in 三重 (初級編)
～今日から使える！国際理解のすすめ～
「実践に学ぶ 国際理解教育研修」～多文化共生の視点から～
- (2) 日時 2018年8月8日 (水) 13:00～16:30
- (3) 場所 三重県総合教育センター
- (4) 主催 三重県、三重県教育委員会、JICA 中部
(「2018年度国際理解教育研修」(三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課)、
「三重県総合教育センター研修」(三重県教育委員会)との協働事業)
- (5) 参加者 18名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：今日から使える！国際理解のすすめ

- ① 参加型ワークショップ I
講師：三重大学教育学部附属中学校 教諭 中垣 尚子
・アイスブレーキング「4つのわたし 1つはウソ」
・「世界のいろんな国について知る」
・「キルギス紹介」
- ② 参加型ワークショップ II
講師：伊賀市立阿山中学校 教諭 大澤 健人
・アイスブレーキング「きっとあなたはこんな人」「実はわたしはこんな人」
・「ジェインがやってきた」
・「外国人は困った人？困っている人？」
・「みんなで一緒に考えよう～ジェインのこと・クラスのこと～」
・「パラグアイの紹介」
- ③ 質疑応答
- ④ JICA 三重県デスクより事業案内

■ 「初級編 (静岡県浜松)」の概要

- (1) 事業名 国際理解教育ファシリテーター養成講座 2018 (全4回連続講座)
- (2) 日時 第1回 2018年10月27日 (土) 13:30～17:00
第2回 2018年11月10日 (土) 13:30～17:00
第3回 2018年12月2日 (日) 13:30～17:00
第4回 2018年12月8日 (土) 10:00～17:00
- (3) 場所 クリエイト浜松 ((公財) 浜松国際交流協会)
- (4) 主催 はままつ国際理解教育ネット
- (5) 共催 (公財) 浜松国際交流協会
- (6) 協力 JICA 中部

- (7) 後 援 浜松市教育委員会
- (8) 参加者 65 人 (全 4 回合計)
- (9) 参加費 各回 500 円 (4 回申込みの場合 1,500 円) * 学生、HICE 会員無料
- (10) 内 容 テーマ、プログラムは以下のとおり

- 第 1 回 「国際理解と多文化共生」
～世界の人と共に暮らすためのまちづくりを考えよう～
- 第 2 回 「援助と国際協力」
～「援助」する前に考えよう～
- 第 3 回 「環境問題と労働問題」
～やってみよう！アクティブラーニング：パーム油の話～
- 第 4 回 「あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター」
～ワークショップをデザインするヒント～

II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2018年6月16日(土) 13:00～17:17、17(日) 10:00～15:20
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者40名、JICA7名、NIED6名、オブザーバー3名 合計56名
[2日目] 受講者42名、JICA3名、NIED6名 合計51名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第1回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育の概論

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② 国際社会・地域社会を振り返り、自分たちが生きる社会の現状と課題を把握する。
- ③ ESDやSDGsと開発教育の関わりを理解し、特にSDG4についての理解を深める。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 6/16 13:06～15:13

1. 主催者挨拶／本研修の目的および概要説明 13:06～[16]

- ◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言した。
- ◇ ファシリテーターより、本研修の概要を説明した。
- ◇ JICA 中部連携推進課内島が主催者を代表して挨拶し、JICA の活動、研修を通じて受講者に期待することなどについて伝えた。



2. 1年間の指導者研修のポイントと第1回のねらいの確認 13:22～[05]

- ◇ 本研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、本研修の参加型での進め方について、レジュメを基にファシリテーターが説明し、確認した。

3. 全体アイスブレイキング～参加者アンケート① 13:27～[18]

- ◇ 会場に4つのコーナーを作り、ファシリテーターが出す質問に対して当てはまるところに移動した。4つのどれにも当てはまらない場合は、会場中央のスペースに移動した。質問④は選んだ理由を聞き、それぞれの考え方を共有した。

＜ファシリテーターが出した質問と4つのコーナー＞

- ①居住地…愛知県、岐阜県、三重県、その他
- ②所属…教員：小中高特別支援、行政、企業、市民活動
- ③好きな麺…そば、ラーメン、うどん、パスタ
- ④日本は平和な国だと思う…はい、どちらかといえばはい、
いいえ、どちらかといえばいいえ



- ◇ ファシリテーターコメント…答えは同じでも理由は違うように、価値観は多様である。多数派でも少数派でも、違いを認め合い、否定や排除されないことが参加型の特長。自分と違う考え方も受け入れ合う場を作ろう。

4. 全体アイスブレイキング～パースデーライン 13:45～[05]

- ◇ 言葉を使わずに誕生日を伝え合い、日付順になるように輪になって並んだ。

- ◇ ファシリテーターコメント…伝えるツールは言語だけではない。今持っている「あたりまえ」から、少し離れてコミュニケーションを取ろう。

5. グループアイスブレイキング～名刺で自己紹介 13:50-[29]

- ◇ 誕生日の早い人から順に1～9の番号を言い、指定の番号のテーブルに着き、グループを作った。
- ◇ A4用紙を名刺に見立て、次の5つのテーマについての自己紹介内容を個人で書き出し、グループで伝え合った。
 - ①自分を表す漢字1文字
 - ②最近嬉しかったこと
 - ③自分と世界とのつながりを感じるもの、こと
 - ④国際理解教育と聞いて思い浮かぶこと
 - ⑤この研修への期待
- ◇ ファシリテーターコメント…単なる属性ではなく、人となりが分かるような自己紹介を行った。相手を知り、自分を知ってもらうことで、参加への安心感が生まれる。キーワードは「対等」。誰にでも話す権利があり、聞いてもらう権利がある。少しずつ自己開示をしていくために、アイスブレイキングや自己紹介を繰り返し行う。

6. 参加者アンケート② 14:19-[29]

- ◇ 「名刺で自己紹介」の5つのテーマをグループメンバーに1つずつ割り振り、全体を自由に立ち歩いてペアを作り、質問をし合い回答を集めた。
- ◇ 同じテーマを担当した者同士で集まり、アンケート結果を集計、分析し、そこから分かる事、言えることを3つの文章にまとめて模造紙に書き出し、全体へ発表した。
- ◇ ファシリテーターコメント…協力作業は、1人1人が貢献できる。みんなで取り組むと、より多くのことが見える。参加型の特徴は、「協力」「尊重」「信頼」。協力して作業をし、お互いを尊重し、信頼関係を作る。



- 休憩 - 14:48-[10]

7. グループ替え、自己紹介 14:58-[15]

- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 名前の頭文字で始まる自分を表す言葉や文を添えて自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…長い時間をかけてアイスブレイクを行った。自分自身への興味関心＝自己理解が、他者への興味関心＝他者理解につながり、社会への興味関心＝国際理解につながると考える。関心を持つことが理解への第一歩。学習者に「関心を持たせる」よりも、「関心を持つための投げかけをする」のが国際理解教育の工夫。

● セッション2 「私たちと世界のつながり」 6/16 15:13-17:17

1. 先週1週間お世話になったもの／わたしの社会相関図 15:13-[42]

- ◇ 今週1週間を振り返り、自分がお世話になったものをA4用紙に個人でリストアップし、次の2点で振り返った。
 - ①自分にとってなくてはならないもの、なくなるとは困るものTOP3に印を付ける。
 - ②外国と関わりがあるものに★印をつけ、どのような傾向があるか考える。
- ◇ A4用紙に、自分が今関わっていると思う人、もの、ことを個人で派生させて書き出し、そこから分かったことをグループ内で発表した。
- ◇ 個人の振り返りを共有したうえで言えることは何か、グループで意見を出し合った。

2. 日本と他国～つながりに気づき、つながりを築く 15:55-[22]

- ◇ グループに10ヶ国のつながりカードと白地図を配付。次の手順で、他国とのつながりを考えた。
 - ①カードを地図上に配置する。
 - ②日本との関係カードを配付。どの国とどのような関係があるかを考え、マッチングする。
 - ③影響カードを配付。そのつながりによって起きている影響を同様に考える。
 - ④答え合わせの後、良い影響と課題を生んでいる影響に分ける。



<出題国>
 エルサルバドル/カナダ/ギニア/コスタリカ/コンゴ共和国/ソロモン諸島/チュニジア/
 パラグアイ/バングラデシュ/マレーシア

- ◇ ファシリテーターコメント…もし、つながることで課題を生んでいるのなら、そのつながりは見直す必要がある。どこでつながっているのか、どのようなつながり方をしているのかに気づき、両国にとって良い関係になるつながりを築こう。そのためには、まずは知ることから始めよう。

- 休憩 - 16:17-[08]

3. グループ替え、自己紹介 16:25-[05]

- ◇ じゃんけんで勝った人と負けた人が移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 「今の気分を色で例えると」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

4. グローバル化の恩恵～世界とのつながりが一切なくなったら？ 16:30-[22]

- ◇ グローバル化を、「人、もの、お金、情報がより遠く、より速く移動可能になった時代」と定義し、「世界とのつながりが一切なくなったら」と逆説的な視点に立ち、今の世界を俯瞰して派生的に意見を考え、模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を隣のグループと交換し、共感した意見に★印を付けた。
- ◇ 模造紙を元のグループに戻し、このままではいけないと思うことに×印を付けた。

【「世界とのつながりが一切なくなったら」の成果例】



- ・ 外国の食べ物が入ってこない→食糧不足・外食産業がなくなる
 - ・ 石油や天然ガスなどの資源が入ってこない→産業衰退
 - ・ 災害時に海外からの支援が入らない→復興に時間がかかる
 - ・ 文化交流がなくなる→視野が狭くなる→偏見を持つ
 - ・ ハーフの子が親と離れる・家族がバラバラになる
 - ・ 情報不足 ・閉鎖的・偏ったニュース ・貿易ができない ・留学がなくなる ・子どもの将来の選択肢が減る
 - ・ 色々な文化を楽しめない ・人の活躍の場が減る ・教育の質が低下 ・つまらない
 - ・ 情報不足→人と人とのつながりが密になる ・国内労働機会が増える ・農業・林業・漁業が盛んになる
 - ・ 日本ならではの文化の見直し ・外来種が減る→日本固有種が守られる
- <このままではいけないと思うこと>
- ・ 情報不足 ・閉鎖的・偏ったニュース ・貿易ができない ・資源がなくなる ・食糧不足
 - ・ 視野が狭くなる ・教育の質が低下

- ◇ ファシリテーターコメント…参加型とは、単にみんなで一緒に作業をすることではない。みんなで答えや方向性を見出すために効果的な手法を使う。★印を付けるなどして、共感や賛成などの肯定的な反応をしながら学ぶことも工夫の1つ。

5. グローバル化によるグローバル・イシュー 16:52-[11]

◇ 世界のグローバル化によって起こる課題として思い付くことを、模造紙に書き出した。

【「世界のグローバル化によって起こる課題」の成果例】

・児童労働 ・犯罪 ・貧困 ・難民 ・資源取り合い ・貿易摩擦 ・海面上昇 ・地球温暖化 ・ごみ
 ・外来種 ・高齢化少子化 ・ネット被害 ・少数派が軽視されやすくなる ・国産業衰退
 ・外国教師へのプレッシャー ・英語以外の言葉の需要 ・日本独自の文化がなくなりかける

◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育のテーマと目的についてレクチャーした。

＜開発教育・国際理解教育のテーマ＞

- ・人権系課題…人の尊厳に関わる課題
- ・環境系課題…人が生きる土台に関わる課題

大きくは人権、環境という普遍的なテーマがあるが、プログラムでは、「グローバル化によって起こる課題」で書き出したもの全てがテーマになる。

＜開発教育・国際理解教育の目的＞

人権・環境・開発・共生・平和など、人類共通の課題について理解し、課題を解決しながらよりよい未来を共に創るために、知識だけではなく「力」を育む教育。

◇ ファシリテーターコメント…私たちは課題のある社会に生きている。ビジョン（自分たちが望むよりよい未来）と現実との間にあるギャップを埋めていこうとするのが国際理解教育。学習者の「知る」「気づく」を行動につなげ、課題解決に関わる人を育て、共に取り組む力を育む教育である。

6. 1日目のふりかえり 17:03-[05]

◇ 1日目の感想をグループ内で伝え合った。

7. JICA TIME/事務連絡 17:08-[09]

◇ JICA 職員後藤より、ささしまライブの施設紹介を行った。

◇ 事務局より、研修時の宿泊、記録、懇親会会場について連絡を行った。

★ 17:17 終了

● セッション3 「開発教育・国際理解教育の目的」 6/17 10:00-11:55

1. 1日目のふりかえり、自己紹介 10:00-[10]

◇ 1日目の流れと内容をファシリテーターが説明し、2日目のねらいとプログラム内容を確認した。

2. 「参加」と「協力」、「発散＝自由に広げる」と「収束＝民主的にまとめる」を練習しよう 10:10-[49]

◇ 発散の練習…ファシリテーターが出す質問に対して、グループでブレインストーミングをし、意見を書き出した。各質問に対して特徴的なものを1つ選び、全体へ発表した。

＜ファシリテーターが出した質問＞

- ①グループメンバー全員に共通すること ②6月とえば？ ③人と社会に役立つものと言え？

＜ブレインストーミング5つのルール＞

- ①質より量 ②否定しない ③発展と結合 ④斬新なアイデア大歓迎 ⑤みんなはみんなの応援団

◇ 収束の練習…次の場面設定において、民主的な話し合いのプロセスを意識しながら話し合いをし、アイデアを模造紙にまとめ、全体へプレゼンテーションした。

場面：とある会社の若手精鋭社員になる。社長から、「6月らしい、人と社会に役立つロボットを10分間で企画提案せよ」との指示。グループで企画会議を行い、①ロボットの姿、②名称、③工夫した機能をプレゼンテーションする。

- ◇ 1人3点を持ち点とし、投票によりランキングを行った。ただし、自分のチームには入れない、1チームへの投票は最高2点までのルールとした。

<民主的な話し合いのプロセス>

- ①肉体的、身体的のどちらも暴力禁止
- ②自分の意見は非攻撃的に自己主張する、他者の意見を傾聴する
- ③代案、提案を繰り返し、全員の合意点を見つける
- ④話し合いのプロセスを簡単にメモしておく、振り返るときに役立つ

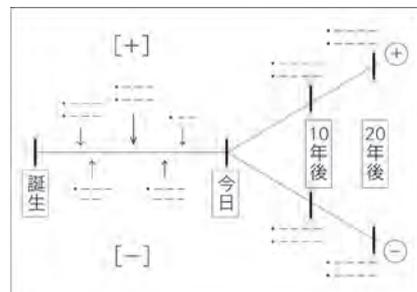
【「発散と収束の練習」の成果例】



- ◇ ファシリテーターコメント…参加型学習では、発散と収束を繰り返す。「発散」で発想を自由に広げることで、多様な意見が出る。「収束」では、持論に固執せず、より良いアイデアを探す。

3. 人生のタイムライン 10:59-[33]

- ◇ じゃんけんで勝った人と負けた人が移動し、グループ替えを行った。
- ◇ A4用紙に右図のように軸を書き、これまでの人生を振り返り、自分に影響を及ぼした出来事について、プラスに働いた事とマイナスに働いた事を上下に分けて記入した。
- ◇ 今日を分岐点に、10年後と20年後の自分について、「こうなっていたい」というプラスの未来と「このまま流されたらこうなってしまうかもしれない」というマイナスの未来を想像して書き出し、作業から分かったこと、気づいたことをグループ内で共有した。



4. 日本と世界の現状 11:32-[13]

- ◇ ファシリテーターから、今の社会について次の問いかけをした。
「私たちの社会は、私たちが「こうありたい」と思う社会、「こうありたい」と思っていることが可能になる社会になっているだろうか？」
- ◇ 資料『SDGs から見た世界と日本の現状』『地球と日本の数字』『11の真実+シャンパンガラスの世界』を配付。1人1種類を担当し、①何について書かれた資料だったか、②分かったこと言えること、③最も印象に残ったことをグループ内で発表し、内容を共有した。

5. 開発教育・国際理解教育の目的～育てたい3つの力 11:45-[04]

- ◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育において育てたい3つの力についてレクチャーした。

<開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力>

- ① わたしに関わる力…自己理解、自己尊重、セルフエスティーム
- ② あなたに関わる力…他者理解、多様性尊重。コミュニケーション力
- ③ みんなに関わる力…参加協力、合意形成・対立解決、アドボカシー（社会的提言）

- ◇ ファシリテーターコメント…自分自身の人生を、自分らしく十分に生きる権利を全員が持っている。同時に、他者の思いを実現させられる社会を作ることにも貢献する。願いが叶えられる社会になっているのか、そうでなければ何が課題か、何が課題を生んでいるのか、自分たちでできることは何かを考え、課題のある現実からビジョン実現へのプロセスをつなぐ。

6. ふりかえり、昨日からここまでに使ったスキル 11:49-[06]

- ◇ 1日目からここまでで、どのようなスキルを使ったかを振り返り、グループで感想を共有した。

- 休憩 - 11:55-[55]

● セッション4 「開発教育・国際理解教育のテーマと育みたいスキル」 6/17 12:50-14:40

1. グループ替え、自己紹介 12:50-[11]

- ◇ ファシリテーターが1~10の番号を振り、指定のテーブルについてグループ替えを行った。「白いご飯が一番合うもの」をテーマに、自己紹介を行った。

2. 開発教育・国際理解教育とSDGs 13:01-[19]

- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育とSDGs』を配付。印象に残った部分3カ所に下線を引きながら個人で読み、下線を引いた理由をグループ内で伝え合った。

3. テーマについて学ぶ（知る）、テーマを通して学ぶ（気づく）、テーマのために学ぶ（行動する） ～SDGsをテーマに「知り」「気づき」「行動する」をつなぐアクティビティ体験 13:20-[80]

3-1. テーマについて学ぶ～SDGsについて知る 13:20-[31]

- ◇ SDGsの17のゴールが書かれたカードをグループに配付。気になるカードを1人2枚選び、カードの要点をグループ内で発表し合い、内容を共有した。
- ◇ 資料『SDGs解説「世界を変えるための17の目標」』を配付。17のゴールの内容を確認した。
- ◇ 17枚のカードを模造紙上に分類し、カテゴリーごとにタイトルを付けた。他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で全体共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…自分達で気づくために、分類したり好きなものを選んでたりなどの作業や問いかけをすることで、学習者の主体性が生まれる。



3-2. テーマを通して学ぶ～SDGsを通して気づく 13:51-[30]

- ◇ 模造紙を半分仕切り、左側に途上国、右側に先進国とする。SDGsの17のゴールのうち、途上国が優先的に取り組むべきと思うもの3つを途上国側に、先進国が優先すべきと思うもの3つを先進国側に、重なっていると思うものは中央に置き、社会の課題を分析した。

<途上国が優先的に取り組むべきと思うもの>

- ・ 貧困をなくそう ・ 飢餓をゼロに ・ すべての人に健康と福祉を ・ 質の高い教育をみんなに
- ・ 安全な水とトイレを世界中に

<先進国が優先的に取り組むべきと思うもの>

- ・ 貧困をなくそう ・ すべての人に健康と福祉を ・ 質の高い教育をみんなに
- ・ エネルギーをみんなにそしてクリーンに ・ つくる責任・つかう責任 ・ 気候変動に具体的な対策を
- ・ 平和と公正をすべての人に

- ◇ 『SDGsワークシート』を配付。個人で解決したいと思うことをEに書き入れた。

- ◇ ワークシートA~IがSDGsのどのゴールにつながるのかを考えた。どのゴールと関わりのある課題かを考える。

<ワークシート項目>

- A: お腹が減っているのに、今日も明日も食べるものがありません
- B: 国民の意見を無視した政治が行われている
- C: 将来、マグロが食べられなくなるって、ホント?
- D: 私立の学校や留学に行けるのは限られた人たち
- E: わたしが問題だと感じていること
- F: まだ消費期限が残っているのに、たくさんの食べ物が捨てられている
- G: 仕事、育児、勉強で悩んでいるけれども、相談できる人がいません
- H: 今日、時間外の労働をして、残業代が出なかった。ブラック・バイトかな?
- I: わたしは女性なので、政治について意見が言えません

- 休憩 - 14:21-[09]

3-3. テーマのために行動する～SDGsと自分とのつながり 14:30-[10]

- ◇ 隣り合わせのグループ同士で半分ずつ人数を入れ替え、グループ替えをし、「自分の得意なこと」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ SDGsが取り組む課題を自分事につなげるアクティビティ例を、ファシリテーターから伝えた

<アクティビティ例>

- ・派生図「もしもSDGsゴールを達成できなかつたら」「もしも取り組む人が少なくなつたら」

- ◇ ファシリテーターコメント…国際理解教育は、個人の行動変容を支える。個人の行動が変われば社会が変わる。「知る→気づく→行動する」が参加型学習のプログラムのパターン。

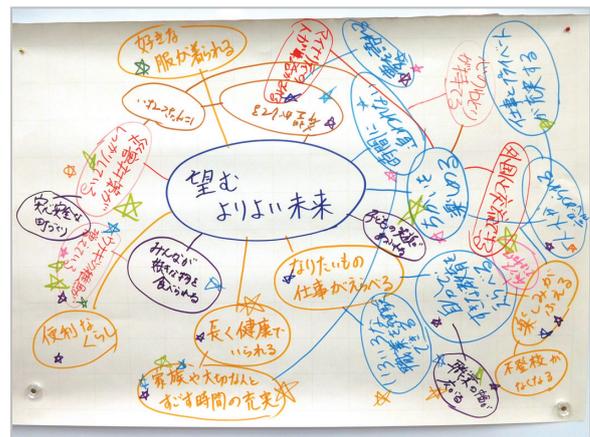
● セッション5 「よりよい未来のビジョンと教育者の使命」 6/17 14:40-15:20

1. 人権、環境が守られる持続可能なよりよい未来の具体像 14:40-[19]

- ◇ 模造紙の中央に「望むよりよい未来」と書き、私たちが望む未来を実現できる社会の要素を、できるだけ多くの視点から考え、派生的にアイデアを書き出した。
- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で意見を読み、共感・納得したものに★印をつけ、自分のグループの模造紙に書き足した。



【「持続可能なよりよい未来の具体像」の成果例】



- ・戦争・暴力・犯罪がない
- ・世界中の国が協力
- ・人種差別がない
- ・文化交流
- ・違いを楽しめる
- ・マイノリティが生きづらさを味わうことがない
- ・「助けて」と言うと助けてもらえる
- ・自由に感情を出せる
- ・休める
- ・病気になっても生活に困らない
- ・地域社会が見守っている
- ・それぞれに居場所がある
- ・チャンスではなくチョイス（選択肢）がある
- ・子ども達が将来に夢を抱く
- ・大切な人と過ごす時間の充実
- ・目の前にいる人を大切にできる心の余裕
- ・困っている人を助けることができる
- ・全ての人が自分を大切にできる
- ・自然豊かな環境
- ・美しい海
- ・生物多様性
- ・未来に不安がない
- ・明日が来るのが楽しみ

- ◇ 書き出された要素を振り返り、個人で、よりよい未来の具体像を「〇〇な社会」という5カ条にまとめた。文章は、「～がある社会」「～ができる社会」といった肯定的な表現とした。
- ◇ ファシリテーターコメント…課題解決に取り組むとき、「こんな未来だといいいね」「じゃあそこまで行こう」といったビジョン達成型で考えると、大変でも苦ではない気持ちが生まれやすい。

2. ビジョン実現のために必要なこと・役立つこと～ソーシャルアクションを考える 14:59-[07]

- ◇ ワークシート『ソーシャルアクション4つの分類』を配付。よりよい未来の具体像5カ条を実現するために必要なこと、役立つことを個人で付箋に書き出し、4つのソーシャルアクションのうちどれに当てはまるのかを考えた。

＜ソーシャルアクション4つの分類＞

- ①支援系…寄付、支援プロジェクト実施、支援系ボランティア
- ②しくみを変える系…アドボカシー（政策提言）、意見を集めて発信、ボイコット&バイコット
- ③コミュニティをつくる系…グループの立ち上げ、他団体と一緒に、他団体に任せる・伝える・広める
- ④自分をソーシャルにする系…知る・調べる・選ぶ、イベントやスタディツアーに参加、ライフスタイルを変える、文化スタイルを発信

3. ふりかえり 15:06-[09]

- ◇ 隣り合う人とペアになり、①よりよい未来の具体像5カ条、②5カ条実現のために必要なこと、役立つこと、③2日間の感想を伝え合った。

4. 事務連絡 15:15-[05]

- ◇ Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回からの懇親会について、事務局が伝えた。
- ◇ 「授業で使える10映像集」をJICA中部より、本第1回研修の参考資料『持続可能な開発とSDGsゴール』『グローバル教育レポート』をNIEDより配付した。

★ 15:20 終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・『つながりカード』エルサルバドル/カナダ/ギニア/コスタリカ/コンゴ共和国/ソロモン諸島/チュニジア/パラグアイ/バングラデシュ/マレーシア…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国編にNIED補足作成
- ・『SDGsから見た世界と日本の現状』…JANIC <http://www.janic.org/world/about/>
- ・地球と日本の数字
 - 『地球の数字』…ワールドウォッチ研究所『地球白書2008-2009』、『同地球白書2009-2010』ワールドウォッチジャパン
 - 『日本の数字』…池上彰、協力・池田香代子『日本がもし100人の村だったら』マガジンハウス（2009年）
- ・11の真実+シャンパンガラスの世界
 - 『今、地球で起きている11の真実』…阿部治監修・浦本典子イラスト「あなたの暮らしが世界を変えるー持続可能な未来がわかる絵本」を基にNIED作成
 - 『富の偏在化～シャンパンガラスの世界』…(特活) オックスファム・ジャパン <http://oxfam.jp/news/cat/press/201799.html>
- ・『開発教育・国際理解教育とSDGs』…NIED
- ・『世界を変えるための17の目標』…JANIC <http://www.janic.org/world/about/>
- ・『SDGsワークシート』…(特活) 開発教育協会「SDGsハンドブッカー持続可能な開発目標を学ぶ」2017年
- ・『ソーシャルアクション4つの分類』…(特活) 開発教育協会「Social Action Handbook」

参考資料

- ・『持続可能な開発とSDGsゴール』…UNDPウェブサイト情報を基にNIED作成
- ・『グローバル教育レポート』…教育協力NGOネットワークウェブサイト http://jine.org/doc/2016_gemr_summary_japanese.pdf
 ※JANIC…認定NPO法人国際協力NGOセンター/JICA…独立行政法人国際協力機構/
 NIED…特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

III 開発教育指導者研修(実践編) 第2回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2018年7月14日(土) 13:00～17:16、15(日) 10:00～15:21
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者 38名、JICA 3名、NIED 8名 合計 49名
[2日目] 受講者 38名、JICA 1名、NIED 7名 合計 46名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第2回のねらい

★「知り、考え、気づく」と「気づき、考え、行動する」をつなぐ

- ① 知り、考え、気づくことと、気づき、考え、行動することをつなぐプログラムを体験する。
- ② 「自ら考え行動する力」を育む、参加体験型学習のポイントと参加型の有効性を確認する。
- ③ 持続可能なよりよい未来の実現に向け、教育者かつ実践者としてできることを考え共有する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 7/14 13:00-13:59

1. 主催者挨拶 13:00-[03]

◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言した。

2. 第2回のねらいの確認と開発教育・国際理解教育の学びの柱の確認 13:03-[12]

◇ 第1回のねらいと内容をふりかえり、レジュメを基に第2回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング～名刺で自己紹介 13:15-[20]

◇ 3～4人のグループを作り、次の3つのテーマについての自己紹介内容を個人でA4用紙に書き出し、グループ内で伝え合った。

- ① 自分の得意なこと・苦手なこと
- ② 人から言われて嬉しい言葉・態度、人から言われて気分が下がる言葉・態度
- ③ 自分について思いつくことを自由に

◇ ファシリテーターコメント…紙に書き出すことによって人と話す準備ができ、他者と関わる時の安心材料となる。テーマの中に、個人の苦手なこと(②)を入れた。

お互いの苦手なこと、嫌なことを知っておくことで、これからのコミュニケーションや関係性作りの配慮となる。



4. 第1回ふりかえり 13:35-[24]

◇ 開発教育・国際理解教育の目的と育てたい3つの力をファシリテーターが読み上げ、確認した。

<開発教育・国際理解教育の目的>

人権・環境・開発・共生・平和など、人類共通の課題について理解し、課題を解決しながらよりよい未来を共に創るために、知識だけではなく「力」を育む教育。

<開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力>

- ① わたしに関わる力…自己理解、自己尊重、セルフエスティーム
- ② あなたに関わる力…他者理解、多様性尊重、コミュニケーション力
- ③ みんなに関わる力…参加協力、合意形成、対立解決、アドボカシー（社会的提言）

- ◇ 第1回研修の記録を配付。印象に残った部分3カ所に下線を引きながら個人で読み、下線を引いた部分とその理由をグループ内で伝え合った。

● セッション2 「気づきから行動へ ―世界のSOSに耳を傾けよう―」 7/14 13:59-17:16

- ◇ 課題を知り、学び、解決方法を考えるための、小学生を対象にしたプログラムを行った。

1. 世界のSOSをキャッチしよう

1-1. 世界と出会う 13:59-[38]

- ◇ アクティビティで取り上げる6カ国を記した世界地図を各グループに配付。対象国の課題から知るのではなく、肯定的に出会うことから始めるのがこのゲームの特徴であるとファシリテーターから伝え、次の手順で対象国について知った。

- ① 対象国6カ国の位置を記した世界地図と、資料『世界と出会うトリビアクイズ6カ国』を配付。自分のグループの担当国を確認する。
- ② 個人でクイズを解き、解答を確認し、担当国について知る。
- ③ グループ内で国の情報を共有し、「おもしろい」と思ったものを基準に他のグループに出すクイズを考える。
- ④ その国に関心をもってもらえるような出題方法、解答方法を考え、全体へクイズを出し、答えと解説を発表する。

<対象国>
 インドネシア/ガーナ/クロアチア/チャド/フィリピン/バリーズ



1-2. 課題を知る 14:37-[18]

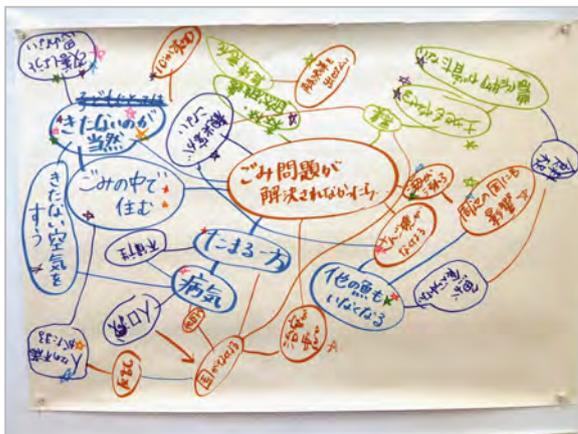
- ◇ どの国にも共通しているのは「良さがあること」と「課題があること」であるとファシリテーターから伝え、次の手順で担当国が抱えている課題について知った。

- ① 資料『6カ国分の課題』を配付。個人で読み、どのような課題があるのかを知る。
- ② グループ内で国の情報を共有し、他のグループに伝える内容を考える。
- ③ その国が抱える課題を全体へ伝える。

1-3. もしも課題が解決されなければ 14:55-[15]

- ◇ その国の課題が解決されなかったら何が起るか、派生的に意見を考え、模造紙に書き出した。
- ◇ ギャラリー方式で他のグループの意見を見て、「なるほど」などと共感、納得したものに★印をつけた。
- ◇ グループに戻り、課題が解決されなかったらどうなるか、また、なぜ私たちは世界のSOSに耳を傾けなければならないのかを話し合い、感想を全体で共有した。

【「もしも課題が解決されなければ」の成果例】



< 「なぜ私たちは世界のSOSに耳を傾けなければならないのか」話し合いの感想 >

- ・課題はどれも、先進国に住む私たちに責任があった。原因を作っているという意識が生まれた。
- ・モノカルチャーでは、作る物を自分たちで決められず、生産者の自立を阻む。そうして作られた作物を食べているのは私たち。世界を考える中で、日本の問題も見えてきた。
- ・格差が広がっている。貧困→教育が受けられない→さらに貧困になる。私たちがその原因の当事者になっている部分がある。

- ◇ ファシリテーターコメント…資料や発問は、学習者に合わせてフリガナをつけたり表現を変えたりなどして、作り変えて使用している。例えば「1-3.もしも課題が解決しなければ」の派生図では、「一番困ることに×印をつけてみよう」といった表現にして問いかける。「戦争になる」「貧乏になる」などに印が付き、「問題を放っておくと自分にも関わる問題につながる」と見出すことができる。

- 休憩 - 15:10-[15]

1-4. グループ替え、自己紹介 15:25-[12]

- ◇ ファシリテーターが1~8の番号を振り、指定の机に移動してグループ替えを行い「小学校低学年の頃に好きだった遊び」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。
- ◇ 世界のSOS（世界で起きている課題）について、6カ国以外で思いつくものを挙げた。

< 「世界のSOS」について思いつくもの >

- ・温暖化 ・海面上昇 ・大気汚染 ・電力不足 ・エネルギー問題 ・難民問題 ・子ども兵士 ・医療

2. 世界のSOSの「なぜ?」「どうして?」を追究しよう

2-1. 原因は何だ 15:37-[27]

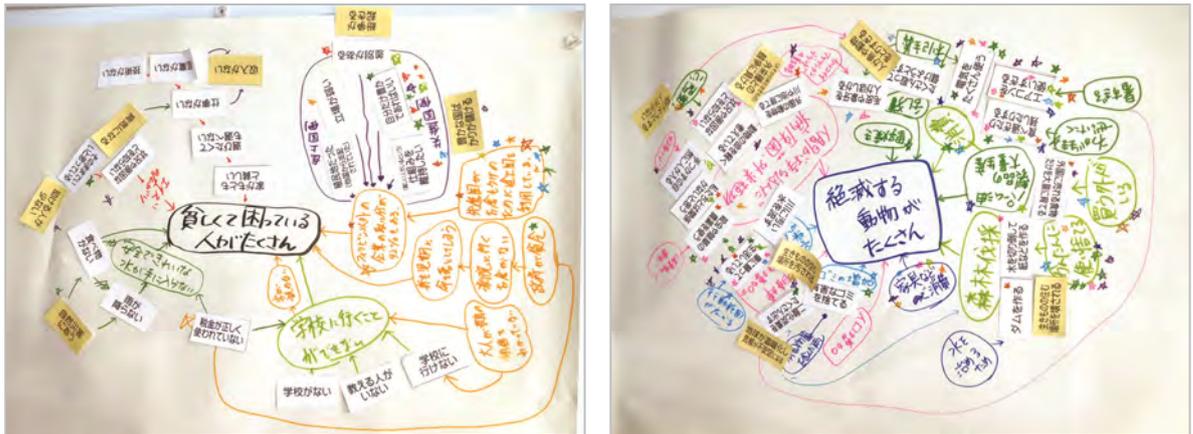
- ◇ どの課題も共通しているのは、放っておいたら命に関わる問題になることであるとファシリテーターから伝え、国際理解教育の両輪である人権と環境をテーマに、次の手順でそれぞれの課題を掘り下げて考えた。
 - ① 全グループを2つに分け、人権と環境を割り振る。
 - ② グループに担当する資料『問題の原因（人権版）貧しくて困る人がたくさん!なぜ?』『問題の原因（環境版）絶滅する動物がたくさん!なぜ?』を配付、原因だと思う部分に下線を引きながら個人で読む。
 - <資料> 人権版『バナナを作って売って、得しているのは誰?/フィリピン』
『5歳未満児死亡率・平均余命・成人の識字率/ベナン』
 - 環境版『オランウータンを救え!/インドネシア』
『生ものの楽園 ガラパゴス諸島の問題/エクアドル』
 - ③ グループで主な原因だと思うことを資料から出し合い、模造紙に書く。
 - ④ 直接原因カードを配付。書き出した原因に関係しているカードを、③と同様に掘り下げる形で貼る。
 - ⑤ 直接原因の原因だと思うことを書き込む。
 - ⑥ 間接原因カードを配付。関連するところに貼る。
 - ⑦ 間接原因の原因を考え、書き足す。

2-2. 原因と私たち 16:04-[15]

- ◇ 「2-1. 原因は何だ」で書き出した原因のうち、自分にも関わりがあると思うものに★印をつけた。
- ◇ 他のグループの模造紙を見に行き、同様に★印をつけた。
- ◇ 書き出した原因のうち、私たちが加担している、または作り出してしまっていると思うものをグループで2つ選び、この原因と関わる私たちの日常の行動や考え方をA4用紙に書き出し、全体共有した。



【「原因は何だ」因果関係図の成果例】



< 「原因と私たち」 成果例 >

- ・安い働き手を求めている→私たちが安い商品、便利快適な生活を求めている
- ・自分だけ豊かであればいい→過程を知らずに買う。目の前にある製品しか見ていない。
- ・日本の食卓→食べたい物をすぐに食べられる、食べ過ぎてしまう。安いものを選びがち。残飯。
- ・森林伐採→使いすぎ、使い捨て。普段使っているものが何からできているか分からず、どんどん使う。知識不足。
- ・大量生産、大量消費→本当は必要のないものをたくさん買っている。プラスチック製品を大量に買い大量に捨てている。
- ・経済的に豊かな国ばかり儲ける→心の余裕がなく、自分のことしか考えていない。

◇ ファシリテーターコメント…世界で起きている課題に私たちが関わっているなら、私たちの選択や知恵で課題を解決できるはずである。

3. セッション2の工夫 16:19-[05]

◇ 小学生を対象にしたプログラムにおいて工夫した点を、ファシリテーターから伝えた。

< 工夫点 >

- ・対象者の年齢によっては、「人権」「環境」という大きなテーマでは考えにくいかもしれない。人権は貧困、環境は野生動物の絶滅などのように、1つのテーマに焦点を当ててみる方法がある。
- ・資料や原因カードなど、考え進めるために必要な情報を提供した。対象者がある程度情報や知識を持っている場合は、参加者が意見を出し合う形で良いが、そうでない場合は情報提供も大切。

- 休憩 - 16:24-[09]

4. 平和を創り出すわたしたちになるう 16:33-[03]

- ◇じゃんけんをし、勝った人と負けた人が移動してグループ替えを行った。
- ◇「今、一番楽しいこと」をテーマにグループ内で自己紹介を行った。

4-1. 課題解決の方法 16:36-[27]

◇ ここまでに使った参加型の手法「派生図」「因果関係図」をファシリテーターからレクチャーした。

- ・派生図…ある事柄に関して、そこからどんなことにつながるかを考える
- ・因果関係図…ある事柄に関して、何が原因かを掘り下げて考える
- ・「直接的な原因→間接的な原因→自分と関わりのあること」という順で考えていくと、課題を自分事として捉えやすい。

- ◇ ワークシート『課題策を創り出すわたしシート』を配布。「2-2原因は何だ」因果関係図で★印がついたもののうち、自分自身にもあてはまるものをシートに書き、課題を解決するためには何をしたらよいかを考え、書き出した。
- ◇ 書き出した内容をグループ内で伝え合い、特徴的なアイデアを全体へ発表した。

【「課題解決の方法」の成果例】

- ・よく考えて選んで買う。生産過程、流通過程を考えて買う。
- ・積極的にコミュニケーションを取る。ニュースなどで情報を得る。少数意見に耳を傾ける。
- ・エコはクール。価値観をおしゃれに変える。
- ・電気の消費量を減らすために大人数で一緒にいる。No スマホデー。
- ・エアコンの設定温度を適切にして、子どもの頃に汗腺を育てる。健康な体は健康な心を育てる。
- ・ゆとりをもって生活する。アロマなどで涼しく。

◇ ファシリテーターコメント…「優しくする」とは、どのような言葉を使うのか、どのような態度なのかなど、自分にできることを具体的な文章にすると行動につながる。具体的な行動案を持ち帰ることができれば、「知っている」から「できる」につながる。毎日の行動や考え方が世界の課題につながっているかもしれないと気づけたなら、自分の行動が変われば社会を変えることができる＝自己効力感が高まると期待できる。

4-2. 国際理解教育の学びの柱 17:03-[02]

◇ 国際理解教育の学びの柱をファシリテーターからレクチャーした。

<国際理解教育の学びの柱>

- ① 多様な人・国と肯定的に出会う
- ② 多様性・同一性に気づく
- ③ 自分・他者・地域・世界・未来のつながりに気づく
- ④ 共通の課題を知り、共に越える
- ⑤ 「わたし」「あなた」「みんな」に関わるスキルを身につける



◇ ファシリテーターコメント…「課題がある、大変な国だ」よりも、「おもしろい国だね、もっと知りたいな」から始めよう。

4-3. 持続可能な未来を創る9つの方法 17:05-[03]

◇ 資料『世界の課題を解決する9つの方法』『世界の課題を解決する9つの方法の具体例』を配付。9つの方法 A～I までを個人で読み、どれが有効かを個人でランキングする。Iは自分の意見を入れる。

<世界の課題を解決する9つの方法の具体例>

- A) 書籍やウェブなどで地球の抱える問題について調べ、現実を知る
- B) 問題解決に取り組む団体の講座やイベントに参加し、人々とつながる
- C) 寄付やボランティアなどで問題解決に取り組む団体を応援する
- D) 世界や地域で、地球の抱える問題解決に向けた直接的な活動を行う
- E) 便利さ・効率・利益などを追及する生活のあり方を根本的に見直す
- F) エコでフェアな商品を選択する
- G) 行政や政治に関心を持つ
- H) 家庭、地域、学校における共育を通して、行動できる人を増やす
- I) (自分の意見)

◇ ファシリテーターコメント…シートを使うことで、募金以外にもできることがもっとあると気づくことができる。具体例を情報提供することで、より多様な課題解決の方法があると伝えることができる。

5. 1日目のふりかえり 17:08-[05]

◇ 1日目を振り返り、感想をグループ内で伝え合った。

6. 事務連絡 17:13-[03]

- ◇ 受講生から、第2回懇親会の案内を行った。
- ◇ 教師海外研修受講生から、訪問先クラウド・ファンディング共同寄付協力のお願いについて伝えた。

★ 17:16 終了

● セッション3 「開発教育・国際理解教育の内容と方法」 7/15 10:00-10:34

1. 1日目のふりかえり、自己紹介～60秒メッセージと傾聴 10:00-[19]

- ◇ 1日目の内容をファシリテーターから伝え、確認した。
- ◇ 近くの人とペアになり、「今まで見た中で一番素晴らしいと思った景色」というテーマで、次の手順で傾聴を用いた60秒メッセージにて自己紹介を行った。
 - ① ペアになり、話し手と聞き手を決める。
 - ② 話し手が、自分の経験を60秒間のメッセージとして聞き手に伝える。
聞き手は、メモを取ったり質問をしたりせず、傾聴する。
 - ③ 聞き手から話し手へ、聞いたことをそのまま相手に伝え返す「振り返し」をし、内容と意思疎通の確認を行う。
 - ④ 役割を交代し、同様に伝える。



<傾聴とは>

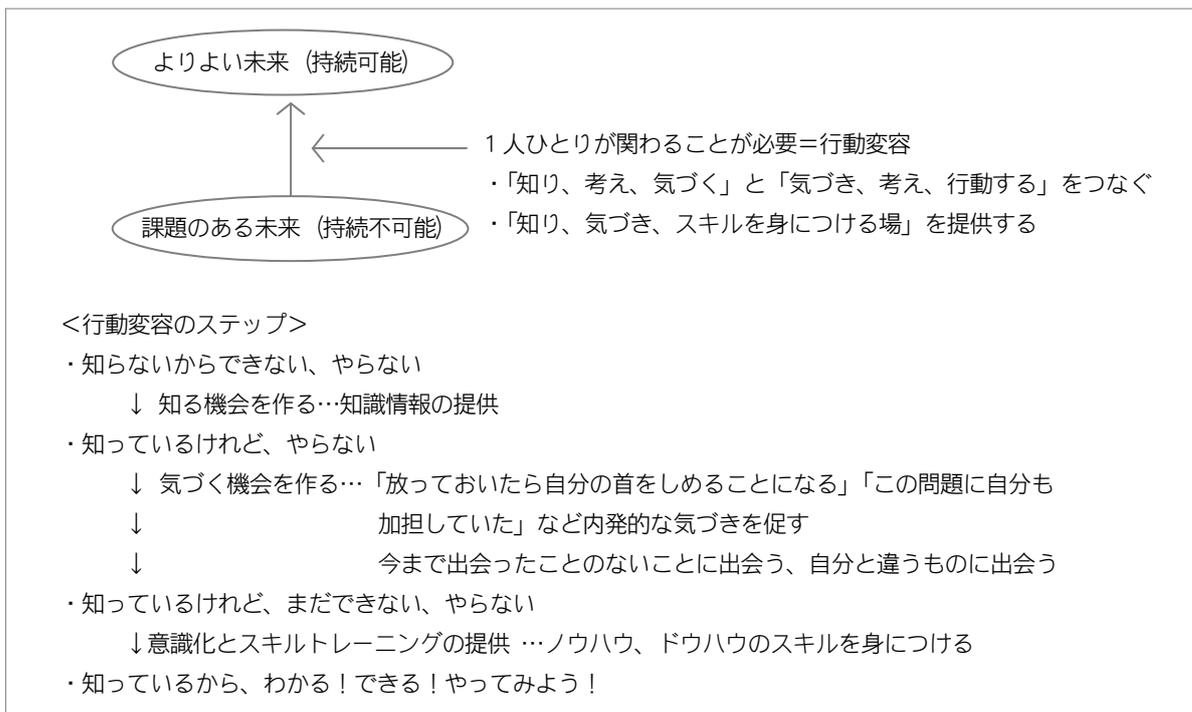
相手に心を寄り添わせ、全身で共感を表しながら聴く聞き方

- ・質問はしない…質問をするのは、「自分の聞きたいことを効率的に話して」というサインになる
- ・体を傾けて聴く…全身で共感の態度をもって聞く。どのような態度かは自分で考える
- ・心を使って聞く…心を相手に寄り添わせながら聴く。
- ・メモはとらない…メモを取りながら聞くと、話し手はちゃんと聞いてもらっていると思にくい場合がある

- ◇ ファシリテーターコメント…普段の会話の中でも、間違っていて理解されたことを修正したり、伝えきれていなかったことを追加したりできれば、コミュニケーションは深まる。コミュニケーションとは、情報の伝達と共有。コミュニケーションスキルは最初から持っているものではなく、「考える」「伝える」「聴く」の3つの要素を練習することで向上する。参加型ワークショップは、参加者同士が自分の考えを伝え合う、常にコミュニケーションのスキルトレーニングの場であると言える。

2. 開発教育・国際理解教育の「学びの柱」とそのねらい 10:19-[15]

- ◇ 「昨日食べたものでおいしかったもの」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。
- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育の学びの柱とねらい例/行動変容を支える参加型』を配付。ファシリテーターから補足説明し、開発教育・国際理解教育の学びの柱と行動変容のステップを確認した。



- ◇ ファシリテーターコメント…人の行動を変えるには、情報、気づき、スキルトレーニングが3大要素。参加型ワークショップでは、この3つを体験できるようにプログラムを組み立てる。人は、価値観が変わると行動が変わる。プログラムの中で、価値観が変わるようなゆきぶりや問いかけをしていく。

● セッション4 「気づきから行動へ 一有限な共有物『地球』の持続可能な使い方」 7/15 10:34-15:21

1. 地球環境は今 ~地球環境クイズ 10:34-[27]

- ◇ 資料『地球環境クイズ1/生物・エネルギー編』『地球環境クイズ2/ゴミ・食べもの編』を配付。グループ内で2チームに分かれ、資料を割り振り、それぞれ資料のクイズに答えた。
- ◇ 相手チームに出したい情報を選び、お互いにクイズを出し合う形で内容を共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…クイズは、関心を持つためには有効な参加型の手段。読み物は「そうなんだ」で終わりがちだが、クイズはまずは自分で考えるため発見があり、印象に残りやすく、もっと知りたいという関心の高まりにつながる。クイズを出し合うと、場の活性化にもなる。

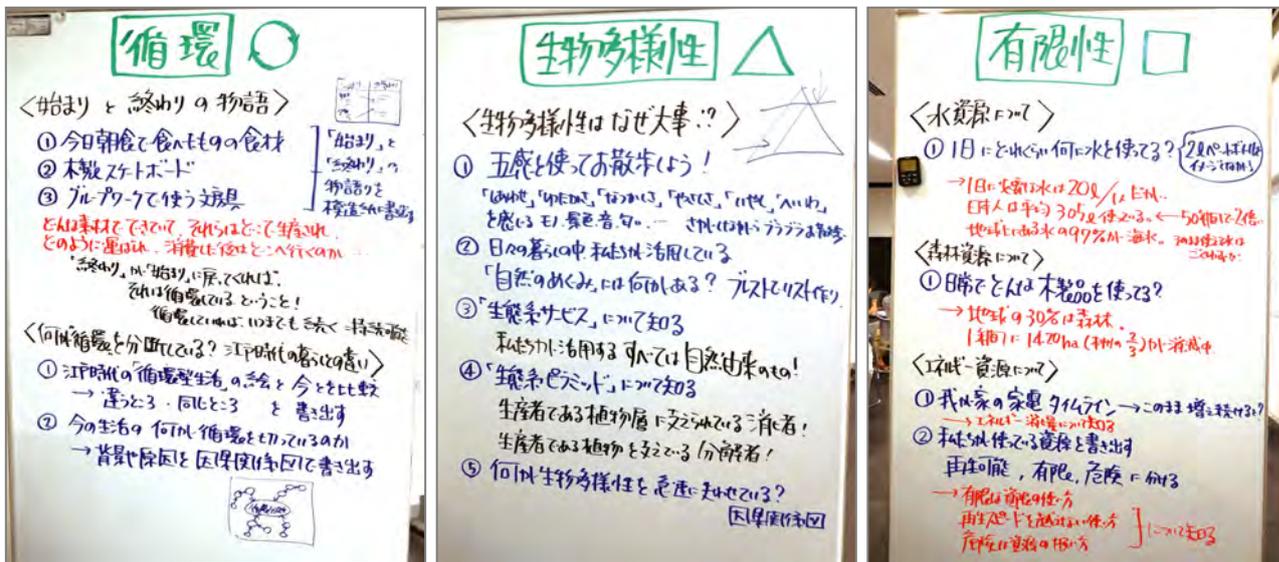
2. 持続可能な環境のための3つの原則+1 11:01-[27]

- ◇ 学習者の「知り、考え、気づく」と「気づき、考え、行動する」をつなぐためのプログラムの種類について、本研修第2回を例にファシリテーターからレクチャーした。

<プログラムの種類>
 「知り、考え、気づく」気づきのプログラム
 …「そうだったんだ」と何かを知ったり気づいたりする←第2回1日目
 「気づき、考え、行動する」築きのプログラム
 …「自分に何ができるのか」「どうしたらいいんだろう」と考え、そのうえでどうしたらいいか行動を考える←第2回2日目

- ◇ 資料『持続可能な環境を築くためのヒント』を配付。資料を基に、持続可能な環境の3原則+1（循環・生物多様性・有限性+低炭素）をテーマにした気づきのプログラム例を、ファシリテーターからレクチャーした。

<持続可能な環境の3原則「循環」「生物多様性」「有限性」プログラム例>



<+1「低炭素」プログラム例>
 ・二酸化炭素をなるべく出さない生活をするには？

3. 持続可能な〇〇をデザインしよう！ 11:28-[158]

- ◇ ジャンケンをし、勝った人と負けた人が移動してグループ替えを行った。
- ◇ 町のスペースをデザインするアクティビティを行うことをファシリテーターから伝え、①学校、②飲食店、③駅前広場、④アミューズメントパーク、⑤その他好きな場所のうちどこをデザインしたいかをグループで決めた。

◇ そのスペースが持続可能な場であるための7つの条件と時間配分をファシリテーターから伝え、本研修第1回セッション3で行った「発散と収束」をふまえてグループでアイデアを出し合い、「名称」「ハード面」「ソフト面」「外観」を模造紙にまとめた。

＜持続可能な場であるための7つの条件＞	＜時間配分＞
① 持続可能性のための4つのポイント（循環・生物多様性・有限性・低炭素）の達成度	11:30～12:00 発散
② 人権の視点（マイノリティへの配慮・多様性受容・人々のつながり・エンパワーなど）	11:30～12:00 休憩
③ SDGsの意識度	13:00～13:30 収束
④ 7世代後へのメッセージ性	13:30～ プレゼンテーション
⑤ ステキ度、インパクト度と楽しさ	
⑥ 無関心層へのアピール度	
⑦ 実現可能性	

◇ 全体へプレゼンテーション後、7つの条件を評価の指標に投票を行った。

【「持続可能な〇〇をデザインしよう！」の成果例】



◇ このアクティビティで育まれるスキルを、ファシリテーターから伝えた。

プロジェクト作り…意見を出し合い、話し合う → コミュニケーションスキル
 絵に描く…お互いの考えを伝え合い、共有する → 合意形成スキル

◇ ファシリテーターコメント…東日本大震災の後、同じように持続可能なまちを考えるプロジェクトがあった。思いを実現させるには、具体的なイメージを持つことと、それを提案していくことが大切。

- 休憩 - 14:06-[09]

4. グループ替え、自己紹介 14:15-[07]

- ◇ ファシリテーターが1~8の番号を振り、指定の机に移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 「自分についてグループメンバーに知ってもらいたいこと」をテーマに自己紹介を行った。

5. 持続可能なよりよい未来を創るための「私たちからの提言」 14:22-[36]

- ◇ 資料『地球温暖化の影響と原因』『地球温暖化コラム』を配付。地球温暖化について確認した。
- ◇ 資料『環境問題解決に役立つこと5種類』を配付。分担して読み、①どのような内容だったか、②持続可能な未来を作るポイントは何か、③印象に残ったことを伝え合い、内容を共有した。
- ◇ 持続可能なよりよい未来を創るための手立てや行動を「私たちの提言」として7つの文章にまとめ、全体へ発表した。文章は「~する」などと肯定的な表現とした。

【「持続可能なよりよい未来を創るための私たちからの提言」の成果】

① 声を上げよう！！	① 学校科目に「未来」を創設しよう
② 仲間を増やそう！！	② エコツーリズムを多様化しよう (雪下ろしから草むしりまで)
③ 5R (Reduce、Reuse、Recycle、Repair、Refuse)	③ クリーンアップトライアスロンをしよう (生ごみ、資源ごみ、不燃ごみ)
④ 節電・節水しよう	④ 無関心な人を目覚めさせよう
⑤ 地産地消しよう	⑤ 残飯をエネルギーに変えよう
⑥ 賞味期限の近いものから食べよう	⑥ 原子力を地熱発電に転換運動をしよう
⑦ 人と物を大切にしよう	⑦ 活動の目標を立てよう

① パーム油製品を必要な分だけ買おう	① なるべく歩く、自転車、公共交通機関
② プラスチック製品を繰り返し使おう	② 買い物の工夫、食べきる、ごみ削減
③ クリーン大作戦を開こう	③ 緑のカーテンで涼しく！！
④ 学校から地域を変えよう	④ 風呂の残り湯の有効利用
⑤ 分別を徹底しよう	⑤ 地元の活動に関心をもつ
⑥ 世界の現状を知ろう	⑥ SDGsについて周りと会話
⑦ お互い声を掛け合おう	⑦ SDGs 標語を作り、家や職場に貼る

① 公共交通機関を使おう！	① 自分ごととして捉えよう
② リユースをしよう！…古着もちゃんと回して使うヨ♡	② 世界の現状を正しく知ろう
③ リサイクルをしよう！…資源をリサイクルするヨ♡	③ わかったことを伝えよう
④ リデュースをしよう！…ムダづかいは控えるヨ♡	④ 自分にできることを話し合おう
⑤ リフューズをしよう！…要らないものは断るヨ♡	⑤ 多様性を大切にしよう
⑥ 話し合うことで解決しよう！	⑥ 子ども達に受け継ごう
⑦ 相手の立場を知り、尊重する！	⑦ 技術を発達させ継承しよう

① 個人の生活を見直そう！	① 先人の教えを引き継ごう…昔の文化を学ぶ
② 地域・集団で考え、行動しよう！	② 7世代先を考えて行動しよう…子ども・孫を大切に
③ 地産地消。地域資源を見直そう！	③ 地球規模で考え、地道な一歩を …節電・節水・ごみの分別
④ いろんな人が関われる場を作ろう！	④ 社会を信じ、みんなを巻き込もう …ひとりじゃなんにもできないさ
⑤ 自分・人間よがりにならず、人間以外の動植物のことを考えよう！	⑤ ヤバイよ！ヤバイよ！からの脱却 …あきらめない、マイナス報道の一步先へ
⑥ 汚いところ、見たくないところから目を背けず に、みにくい所を見よう！	⑥ 思いやりの心を大切に、つながろう …いろんな人とおしゃべりする
⑦ 都市と農村が交流しよう！	⑦ ココで学んだことを広めよう

6. ふりかえり 14:58-[12]

- ◇ 2日間の研修を、①第2回研修を通して気づいたこと、②第2回研修を通して嬉しかったこと、③第2回研修を通してがっかりしたこと、④教育者として、かつ実践者として、これから実行しようと思うことの4つの視点で振り返り、個人でA4用紙に書き出し、グループ内で発表し合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…ワークショップでの気づきを文字にしたり話したりすることで意識化され、記憶に残り、日常の中に持ち帰ることができる。日常に持ち帰ることができると、普段の行動の変化につながる。

7. 事務連絡 15:10-[11]

- ◇ 受講生から、各自が関わるイベントの告知を行った。

★ 15:21 終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・『世界と出会うトリビアクイズ6カ国』『6カ国分の課題』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国教材（インドネシア／ガーナ／クロアチア／チャド／フィリピン／ベリーズ）
- ・問題の原因（人権版）貧しくて困る人がたくさん！なぜ？『バナナを作って売って、得ているのは誰？／フィリピン』『5歳未満児死亡率・平均余命・成人の総識字率／ベナン』、問題の原因（環境版）絶滅する動物がたくさん！なぜ？『オランウータンを救え！／インドネシア』『生ものの楽園 ガラパゴス諸島の問題／エクアドル』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国教材
- ・『世界の課題を解決する9つの方法』『世界の課題を解決する9つの方法の具体例』…名古屋市「環境学習実践者向け ESDガイドブック [ESDはじめの一步]」
- ・『開発教育・国際理解教育の学びの柱とねらい例／行動変容を支える参加型』… NIED
- ・『地球環境クイズ1／生物・エネルギー編』『地球環境クイズ2／ゴミ・食べもの編』…「はじめよう、未来へのアクション！地球教室 基礎編」朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会
- ・『持続可能な環境を築くためのヒント』… NIED
- ・『地球温暖化の影響と原因』…「はじめよう、未来へのアクション！地球教室 基礎編」朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会
- ・『地球温暖化コラム』…開発教育協会『若者と学ぶESD・市民教育 - グローバル社会に生きる私たち』2014年
- ・環境問題解決に役立つこと5種類『パルネオ・オランウータン・サミット／マレーシア』『みんなで考え、みんなで植える／チョウを育て、森を守る／ケニア』『永続的にクリーンなクリスマス島にするために行った様々な活動／キリバス』『エネルギー自給率130%の国／デンマーク』『環境先進国ドイツ！の取り組み／ドイツ』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国教材

※NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2018年8月25日(土) 13:00～17:17、26(日) 10:00～17:15
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者 38名、JICA 5名、NIED 5名 オブザーブ 2名 合計 50名
[2日目] 受講者 39名、JICA 5名、NIED 6名 オブザーブ 1名 合計 51名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第3回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育 参加型のデザイン

- ① 流れのあるプログラム作りと、多様な参加型手法の活用方法を学ぶ。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ 開発教育を各自の現場で実践し、様々な場で参加型を活用するためのイメージを持つ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 8/25 13:00～14:43

1. 主催者挨拶 13:00～[03]

◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言した。

2. 第3回のねらいの確認と開発教育・国際理解教育の学びの柱の確認 13:03～[09]

◇ レジュメを基に第3回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング①～大陸アンケート 13:12～[22]

◇ テーブルに世界の大陸（ヨーロッパ、北米、アフリカ、中東・アジア、中南米、オセアニア）が書かれたネームプレートを一つつ置き、ファシリテーターが出す質問に対して自分の答えに当てはまる大陸へ移動した。

◇ 質問ごとに、同じ大陸を選んだ同士で理由を話し合った。



〈ファシリテーターが出した質問〉

- ① 今、気になっている地域 ③ もしも生まれ変わるならどこの国の人になりたいか
② 今、一番行ってみたい国 ④ 最近見聞きしたニュースで気になったこと、その地域

4. アイスブレイキング②～4つのコーナー 13:34～[07]

◇ 会場に「はい」「どちらかといえばはい」「いいえ」「どちらかといえばいいえ」の4つのコーナーを作り、ファシリテーターが出す質問に対して当てはまる場所に移動し、選んだ理由を全体へ発表した。

〈ファシリテーターが出した質問〉

- ① 経済発展と環境保全は両立できると思う ② わたしは地球に優しい生活をしていると思う

5. グループ作り 13:41～[04]

◇ 言葉を使わずに誕生日の日にちを伝え合い、日にち順になるように輪になって並んだ。

◇ 1日の人から順に1～9の番号を言い、指定のテーブルに移動し、グループ作りを行った。

6. アイスブレイキングの発展応用 13:45-[04]

- ◇ 資料『アイスブレイクからの発展』を配付。アイスブレイクは、プログラムの導入や伏線としても使えることをファシリテーターから伝え、資料を基にアクティビティ例を紹介した。

7. アイスブレイキング③～名刺で他己紹介・自己紹介「たぶんあなたはこんな人」13:49-[30]

- ◇ グループ内で、自分の右隣の人について次の4つを想像してA4用紙に書き出し、「たぶん〇〇（右隣りの人）はこんな人」と他己紹介を行った。
 - ① 好きな色 ② 子ども時代に夢中になっていた遊び
 - ③ 青春時代に熱中していたこと ④ これから実現したいこと
- ◇ 書き出した用紙を本人に渡し、自分の長所やチャームポイントを2つ加え、自分に対して書かれた内容が違っていった場合は訂正しながら「実はわたしはこんな人」と自己紹介した。
- ◇ 自己紹介のねらい「自己理解」「自己尊重」「他者尊重」「多様性受容」を確認した。

「自己理解」わたしはこういう人だったんだと知る
 「自己尊重」わたしはわたしでいいと思える…セルフエスティームを育てる
 「他者尊重」あなたってこんな人だったんだと理解する
 「多様性受容」思っていたこととは違うけど、それもいいね、それもいいね、と発見と共に受け入れる

- ◇ ファシリテーターコメント…自己紹介もねらいをもって行っている。自分のいいところを伝えたとき、否定されたり茶化されたりせずに受け止めてもらえる肯定的な環境が大切。自分への誤解を「言っても仕方ないな」などと言わずにいと、小さな誤解が大きな誤解になってしまう。小さな誤解のうちに解決していけば、相互理解につながる。

8. 第2回ふりかえり 14:19-[24]

- ◇ 第2回研修の記録を配付。印象に残った部分3ヵ所に下線を引きながら個人で読み、下線を引いた部分とその理由をグループ内で伝え合った。

● セッション2「開発教育・国際理解教育「学びの目標」についての理解を深める」8/25 14:43-16:36

1. 開発教育の「開発」の意味 - 「豊かな社会」にとって大切なこと - 14:43-[40]

- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育「学びの目標」』を配付。学びの目標を確認した。
- ◇ 『豊かな社会にとって大切なことカード』を配付。25枚のカードのうち、豊かな社会にとって大切だと思う9枚を選び、25枚以外で思いついたことがあればカードに加え、最終的に5枚を選んだ。
- ◇ 2～3人の小グループになり、選んだ項目とその理由を話し合った。

<豊かな社会にとって大切なこと 25枚のカード>

- 1: おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすぐ手に入る
- 2: 誰もが尊厳を持って、仕事の量や内容に見合った対価を得ながら働くことができる
- 3: 自分の住む地域で、大規模な土木建設や、有名な商業施設や娯楽施設を呼び込むことで、地域経済が活性化されている
- 4: 自分の住む地域で、地産地消が進み、地元の商店街に人がたくさん集まっている
- 5: 環境にやさしいライフスタイルで、資源を使いすぎない
- 6: 大気、土壌、海洋汚染や森林破壊、生物の絶滅がこれ以上すまない
- 7: 誰かを傷つけない限り、意見表明が自由にでき、誰からも制限されない
- 8: 少数意見であっても尊重され、簡単に切り捨てられない
- 9: 自分達の地域のことは住民が話し合って決める
- 10: 銃などの武器が簡単に手に入らない
- 11: 性別、人種、考え方、行動や生活様式などの「違い」を理由に攻撃されたり排除されたりする心配がない
- 12: 長時間の通勤・通学や満員電車で悩まされない
- 13: 広くてゆとりある居住空間を得る
- 14: 自分の自由な時間がある

- 15：大人も子どもも、自分が希望する教育をいつでもどこでも受けることができる
- 16：家族の経済状況や社会的地位、人種、性別、国籍、思想信条などにかかわらず、自分の能力にあった教育を受けられる
- 17：エリートを育成する教育を進め、厳しい選抜試験に合格した者だけがチャンスを得て高収入を得ることができる
- 18：「女性だから～」「男性だから～」「〇〇だから～」という考え方に、自分の生き方を縛られない
- 19：地域に気軽に集まれるような居場所がある
- 20：生活や地域、社会の課題を一緒に考えて取り組む仲間がいる
- 21：いざというときに頼ることができる人がいる
- 22：税金は高いが、医療や福祉、教育に多く使われ、無料でサービスが受けられる
- 23：国籍がなくても、住民なら誰でも社会保障を受けられる
- 24：防衛予算を増額して、軍事力や同盟国との関係を強化する
- 25：十分な金融資産があり、利子や株式配当だけで生活することができる

◇ 視点を変え、豊かな社会にとって大切だと思う5枚を選び、グループで意見を話し合った。

- ① 日本の子ども達にとって大切なこと
- ② 社会的に不利益を受けがちな人々にとって大切なこと
- ③ 世界中の人たちと、自然や未来の世代も豊かであるために大切なこと

◇ 資料『フリードマンとセンの豊かさと貧困と開発の定義』『豊かさレーダーチャート』を配付。開発の意味と、ジョン・フリードマン氏が唱える豊かさの8つの指標を確認した。

<開発とは>

自分たちが暮らす国や社会や地域がそれぞれに持っている様々な「力」（例えば自然、文化、歴史、行政、教育、経済、産業、技術、資源など）を発揮して、生活や社会を「よりよく」「より豊かに」していくこと。そして、どのような生活や社会が「よりよい生活」であり「より豊かな社会」であるかを常に考えていくこと。開発教育は、それぞれが持っている潜在能力を発揮できるようにサポートする。

<ジョン・フリードマンによる豊かさの8つの指標>

- ① 教育：能力に応じて、容易に高等教育まで受けることができるか
- ② 意志決定：自分が関わる組織や、地域の様々を決めるのに、自分の意志を反映させることができるか
- ③ 所得や賃金：どの程度の収入があるか、利子の安い資金が簡単に借りられるか
- ④ 健康と安全：容易に医者にかかれ、健康で長生きができ、危害を受ける危険性が少ないか
- ⑤ ネットワーク：人とのつながりがたくさんあって、互いに支えあうことができるか
- ⑥ 持続可能な環境：環境破壊が少なく、快適な生活環境が保たれているか
- ⑦ ゆとりある空間と時間：余暇時間（労働、通勤、家事以外の時間）がどれほどあるか、又、プライバシーを保てるだけの広さの家があるか
- ⑧ 文化とジェンダー：文化が大切にされているか、異なる文化をどの程度まで受け入れているか、男性または女性に特定の役割が負わされていないか

◇ ファシリテーターコメント…経済だけを豊かさの指標とすると、格差が広がる。お金だけでは測れない豊かさを、「子どもにとって」「社会的少数派にとって」「世界中の人にとって」など、視点を変えて多様な人々と共に考えていこう。

－ 休憩 － 15:23-[12]

2. グループ替え、自己紹介 15:35-[08]

- ◇ ファシリテーターが1～8の番号を振り、指定のテーブルに移動してグループ替えを行った。
- ◇ 「今の気分を色で表すと」をテーマにグループで自己紹介を行った。

3. 開発教育・国際理解教育「学びの目標」と「学びの目的」 15:43-[19]

- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育「学びの目標」』より、8つの学びの目標をグループに1つずつ割り振り、担当する目標を学ぶ目的を「〇〇が△△になる」「☆☆を□□できるようにする」などの文章で書き出した。

◇ 他グループの模造紙を見て回り、印象に残ったものを中心にグループ内で伝え合い、8つの目標を学ぶ目的を共有した。

＜開発教育・国際理解教育の学びの目標＞

- A：多様な人や世界と肯定的に出会う
- B：人や世界の多様性と同一性を理解する
- C：自分と他者と社会（地域、世界）のつながりに気づく
- D：地球的課題の現状と原因を理解する（人権、環境、平和）
- E：課題を越えるために、できること・役立つこと（解決の手立て）を考える
- F：自己理解・自己尊重・自己肯定感＝セルフエスティームを育てる
- G：他者理解・他者尊重＝多様性受容力と共感力を身につける
- H：合意形成・対立解決・アドボカシー＝対話と参加協力の力を身につける



【「開発教育・国際理解教育を学ぶ目的」の成果】

A：多様な人や世界と肯定的に出会う

- ・多文化共生を推進できる ・他人事が自分事になる ・価値観が豊かになる ・世界に興味を持てる
- ・世界が楽しくなる、広がる、怖がらない ・日本文化と比較できる ・差別がなくなる、見た目で判断しない
- ・優しくなれる ・ステレオタイプを脱却できる、常識が広がる ・文化・習慣を学ぶことができる
- ・発想がCreativeになる ・“当たり前”がなくなる ・もっと知りたくなる ・他人の意見に寛容になる

B：人や世界の多様性と同一性を理解する

- ・自分と自分の国を客観的に見ることができる ・異文化を楽しむことができる ・人に優しくすることができる
- ・価値観が広がる ・他者や他国等に興味を持つ ・みんなが違うことが当たり前と思えるようになる
- ・相手に共感したり受容できたりできる ・仲間ができる ・偏見や差別がなくなる→マイノリティに配慮
- ・少数派の意見を聞ける ・誰もが自分らしく生きられるようになる

C：自分と他者と社会（地域、世界）のつながりに気づく

- ・自分だけじゃないとわかる ・外国で起きている困難が自分にも原因があると気づく ・人じゃないと気づく
- ・考えて買い物ができるようになる ・自分の行動を変えようと思う ・意識が変わる（行動は同じでも）
- ・物の見方（価値観）が変わる ・知ったことを伝えようと思う ・他者・社会を身近に感じる ・優しくなれる

D：地球的課題の現状と原因を理解する（人権、環境、平和）

- ・世界の課題が自分事になる ・意識が変わる→生活が変わる ・情報を得るために行動する
- ・外国とのつながりや課題の原因が自分の生活に関わっていることを意識できる ・人に対しての見方・捉え方が変わる

E：課題を越えるために、できること・役立つこと（解決の手立て）を考える

- ・課題を自分のこととして捉えられるようになる ・課題の原因に気づき考えられるようになる ・柔軟性が身につく
- ・コミュニケーション力が身につく ・自分の考え方・視野が広がる ・当たり前の中から疑問を持てるようになる

F：自己理解・自己尊重・自己肯定感＝セルフエスティームを育てる

- ・自分の長所をもっと伸ばすことができる ・自分を知ることによって自分を好きになる
- ・自分を知ることによって自分に自信が持てる ・自分を尊重することで相手も尊重できる
- ・自分の意見を堂々と言えるようになる ・他者との違いを気にしない ・他者との関わりで自分の役割がわかる
- ・他者との関わりでコミュニケーション能力が高まる

G：他者理解・他者尊重＝多様性受容力と共感力を身につける

- ・誰もが人を大切にできるようになる ・他者と肯定的に出会えるようになる
- ・違いを認める（活かす）ことができるようになる ・その人や国の目線から考えることができるようになる
- ・自らの考えが全体の選択肢になる ・けんか（争い）がなくなる（みんな仲よし） ・自分を好きになる

H：合意形成・対立解決・アドボカシー＝対話と参加協力の力を身につける

- ・話し合いをすることで、よりよいものになる ・戦争・宗教などの対立を解決できる
- ・平和的な解決の仕方を学ぶことができる ・いろいろな考え方を知ることができる

- ◇ ファシリテーターコメント…「何について学ぶのか」より「何のために学ぶのか」。私たちは、今書き出したような行動変容を作り出すために学び、実践する。「何のために学ぶのか」が教育者として落とし込めていることが大切。

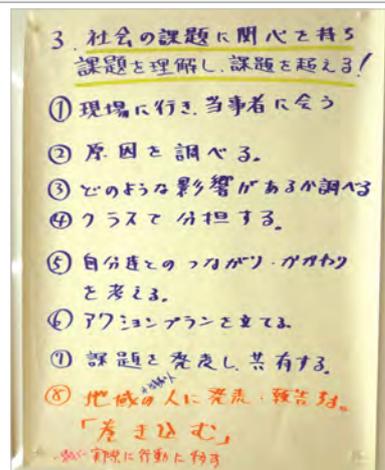
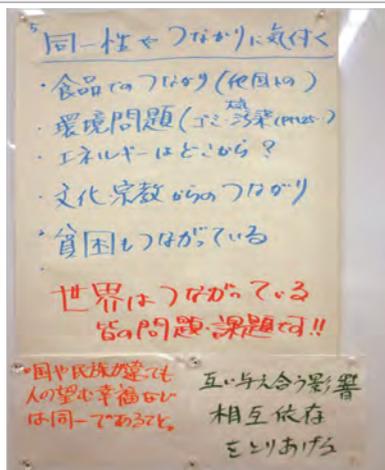
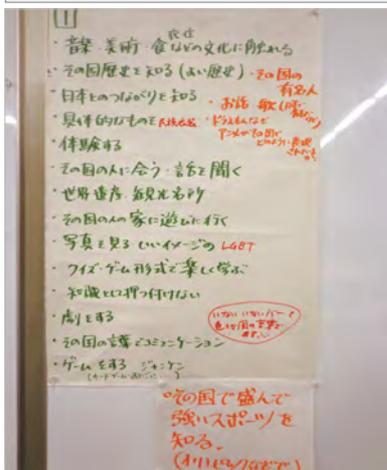
4. 国際理解教育「3つの柱」ー学ぶための工夫ー 16:02-[25]

- ◇ 国際理解教育3つの柱「①多様な人や国と肯定的に出会う」「②人や世界の同一性に気づく、つながりを理解する」「③共通の課題について共に考え・共に越える」をグループに割り振り、担当の柱を学ぶための工夫や学ぶために役立つことを模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を隣のグループへ回し、思いついたことを書き足した。
- ◇ 他のグループの模造紙を見て回り、3つの柱を学ぶための工夫を全体で共有した。



【「国際理解教育3つの柱を学ぶための工夫」の成果例】

- ① 多様な人や国と肯定的に出会う
 - ・クイズやゲーム形式で楽しく学ぶ ・知識として押しつけない ・食べ物を食べる ・ホームステイ
 - ・人と交流する ・友達になる ・文化に触れる（工芸品・お祭りに参加・民族衣装・人気のスポーツ・観光名所など）
 - ・アニメなど日本文化がどのように表現されているか知る ・歴史を知る ・日本とのつながりを知る
 - ・いい所探し ・いいイメージの写真を見る ・劇をする ・地域の方を講師として招く ・アイスブレイク
- ② 人や世界の同一性に気づく、つながりを理解する
 - ・自分達の生活の中から外国とのつながりを見つける（食事、家電、衣類、文化、宗教、エネルギー等）
 - ・夢や大切なものなど、子どもの気持ちを比較してみる→同じところ、違うところに気がつくことができる
 - ・環境や貧困など、共通の課題を見つける→世界はつながっている
 - ・自分達の行動が他国の課題に関係しているということに気づく+自分達の行動で改善できることにもつながる
 - ・「幸せとは」「豊かさとは」などのテーマで話し合う ・互いに与え合う影響、相互依存を取り上げる
- ③ 共通の課題について共に考え・共に越える
 - ・シミュレーションやロールプレイで体験的に知る、学ぶ ・仲間を作る ・グループ学習
 - ・現地の人・現地へ行った人・課題解決に取り組んでいる人の話を聞く ・当事者の人と共に課題を考える場を設定する
 - ・フィールドワークやスタディツアーに参加する ・その国の本当の課題を見極める
 - ・自分が今、何に困っているか考える ・課題と自分達とのつながり、関わりを考える ・課題の原因を調べる
 - ・どのような影響があるか調べる ・個人・国レベルに分けてフォーカス ・自分達で何ができるかをみんなで考える
 - ・マニフェスト・行動目標・プロジェクト・アクションプランを作る ・行動の成果が見えるように評価する
 - ・地域の人に発表、報告する→巻き込む



- ◇ 作業を振り返り、国際理解教育のプログラムの何に当てはまるかをファシリテーターから説明した。

「学びの目標」何を学ぶのか…プログラムのテーマ
 「学びの目的」何のために学ぶのか…プログラムのねらい
 「学びの工夫」どのように学ぶのか…プログラムで使用する手法

－ 休憩 － 16:27-[09]

● セッション3 「開発教育・国際理解教育 参加型プログラムの作り方を学ぶ」 8/25 16:36-17:17

1. グループ替え、自己紹介 16:36-[08]

- ◇ グループの半数が隣のテーブルに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 「国際理解教育のプログラムのテーマとして関心があること」をテーマに、グループで自己紹介を行った。

2. 「プログラム」とは － 「ねらい」「ストーリー(流れ)」「アクティビティ(参加型手法)」 － 16:44-[09]

- ◇ 資料『参加型プログラム作りのノウハウ』『行動変容を支える参加型』『参加型手法の解説～12 のものの見方・考え方から』『参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法』を配付。プログラムの作り方と参加型手法をファシリテーターから説明し、確認した。

<プログラムとは>

- ・ある時間の流れで展開する教育学習内容のまとまりのこと。
- ・アクティビティをいくつかつなげて、ねらいを達成するもの。
- ・「学習者の意識に沿う」＝意味のあるつながりとして、学習者が発見できるようなストーリー性があるもの。理論の展開のこと。

<プログラム作りはストーリー作り>

プログラムで大切なのは、「ストーリーライン」あるいは「流れ」という、アクティビティーひとつひとつに含まれる概念をつなぎ合わせていく論理の構成。一つひとつの概念や知識にストーリー性を持たせることがプログラムの役目。プログラムが、アクティビティのやりっぱなし、あるいはアクティビティ相互のつながりのわからないアクティビティの羅列にならないようにすることが大切。参加型プログラム＝参加者の気づきや発見によって学びの共有化が図られるような配慮がある。

<プログラム作りの5つのステップ>

- ① テーマを決める…実践で扱いたいテーマをA4用紙に書く。
- ② テーマを理解する…テーマからイメージするものをブレインストーミングで書き出す。
- ③ ねらいを明確にする…プログラムを通して学習者が「何に気づくと良いか・何をどのようにすると良いか」「何について考え・どう行動するようになるか」と対比表に書き出し、プログラムのねらいを設定する。
- ④ プログラムの流れを作る…学習者の意識の流れを考え、書き出した対比表に順番をつける。
- ⑤ プログラムを組み立てる…プログラムの起承転結を定め、それ沿ってアクティビティを当てはめる。

- ◇ ファシリテーターコメント…プログラムは「ねらい」「流れ」「アクティビティ」が3点セット。流れに沿って教えていくのではなく、流れに沿ってアクティビティを行い、流れに沿って問いかけていく。

3. プログラム作り「5つのステップ」 16:53-[11]

- ◇ 2～3コマの実践を行うと仮定し、プログラム作り5つのステップのうち①②を個人で行った。

4. 2日目の作業の説明 17:04-[08]

- ◇ 資料『プログラムづくりの流れ』を配付。2日目の作業として、ステップ③～⑤の概要をファシリテーターから説明した。

5. 1日目のふりかえり 17:12-[05]

- ◇ 1日目の感想をグループ内で伝え合った。

★ 17:17 終了

● セッション4 「教師海外研修報告」 8/26 10:00-10:25

- ◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、①パラグアイダンス、②パラグアイの概要、③訪問先の紹介、④受講生一人ひとりの印象に残ったこと、⑤研修を通して気づいたことについて、現地の写真および音楽と共に紹介した。



● セッション5 「みんなでプログラムを作ろう！」 8/26 10:25-13:49

1. 1日目のふりかえり 10:25-[07]

- ◇ 資料『プログラムづくりの流れ』を基に、1日目の振り返りを行った。

2. 個人プログラム作りステップ③④⑤ 10:32-[54]

- ◇ プログラム作りステップ③④⑤の方法をファシリテーターから説明し、個人で作業を行った。

3. テーマ毎に7つのグループ・マッチング 11:26-[143]

- ◇ グループで1つのプログラムを作ることをファシリテーターから説明し、個人で作成したプログラムが次の7つのテーマのどれに当てはまるかによってグループ作りを行った。

<プログラム7つのテーマ>

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| ① 肯定的な出会い+ステレオタイプを塗り替える | ④ 人権問題/貧困問題 気づきから行動へ |
| ② 多様性受容+多文化共生 | ⑤ 地球環境問題 気づきから行動へ |
| ③ 自分と世界のつながり+よりよい社会を築く当事者であるわたしたち | ⑥ 豊かさ/SDGs+グローバルな生き方 |
| | ⑦ わたし、あなた、みんなに関わるスキル・ビルディング |

- ◇ 次の手順で、テーマごとにグループでプログラム作りを行った。13:40よりプログラムの発表と部分ファシリテーション実践を行うことをファシリテーターから伝え、グループごとに休憩を取った。

- ① 個人で作成したプログラム案をグループ内で共有し、どれをグループプログラムのベースにするかを選ぶ
- ② プログラムの対象者、ねらい、流れの再確認と再設定を検討する
- ③ 使用するアクティビティと手法を考え、プログラムを作り上げる
- ④ 全体へファシリテーションする部分を選び、実践の準備をする

● セッション6 「実践！ファシリテーション！&ふりかえり+フォーラムに向けて」 8/26 13:49-17:15

1. ファシリテーション実践 13:49-[154]

- ◇ 1グループの持ち時間を13分（プログラム概要説明3分+部分ファシリテーション実践10分）として、役割決めなどの準備をグループで行った。
- ◇ グループごとにプログラム説明と実践を行った。体験者は、フィードバック（良かった点、改善提案）を付箋に記入し、全グループ発表後に各グループに渡した。



【プログラムのねらいと展開】

1. 肯定的な出会い+ステレオタイプを塗り替える：どこ？何？それ？パラグアイ編 / 対象：小学校6年生

<p><u>ねらい</u> ・世界のいろいろな国について知る（今回はパラグアイ）</p> <p>・ステレオタイプを塗り替える</p>	<p><u>展開</u> 1) パラグアイについてのイメージを出し合う</p> <p>2) パラグアイについて知ろう</p> <p>3) パラグアイの文化を体験しよう</p> <p>4) イメージをふくらませよう</p>
--	--

2. 多様性受容+多文化共生：強制か共生か？… / 対象：中学校2年生

<p><u>ねらい</u> ・共生することの難しさ、大切さについて知る</p> <p>・共生していくために、どんな方策があるか考える</p>	<p><u>展開</u> 1) クラスの中の多様性のよさについて知る</p> <p>2) 多様性を認める社会と認めない社会を対比する</p> <p>3) 多様性があるがため起こっている問題について知る</p> <p>4) わたしたちは身近な生活でどんなことに気がついていきたいかを考える</p>
--	---

3. 自分と世界のつながり+よりよい社会を築く当事者であるわたしたち：私の理想の未来 / 対象：小学校高学年

<u>ねらい</u> ・自分と世界のつながりに気づく ・理想の世界につながる一歩を考える	<u>展開</u> 1) 理想の世界をイメージする 2) 世界と日本のつながりを知る 3) 良くないつながりの原因を考える 4) 理想の世界に近づくための一歩を考える
---	--

4. 人権問題/貧困問題 気づきから行動へ：わたしの自慢のファッション / 対象：高校生

<u>ねらい</u> ・自分のファッションがどこから来たのか気づく ・持続可能な社会について考える	<u>展開</u> 1) どんな観点で物を買っているか気づく 2) 服がどこで誰によって作られているかを知る 3) 外国での服づくりの自分自身や世界全体への影響を理解する 4) 身近なファッションが世界の人権・環境につながっていることに気づく
--	--

- 休憩 - 14:55-[10]

5A. 地球環境問題 気づきから行動へ：命をつなぐ水のゆくえ ～君は未来の地球を守れるか？～ / 対象：小学校高学年

<u>ねらい</u> ・身近な「水」をテーマに命をつなぐ資源について知り、持続可能な地球環境について考える	<u>展開</u> 1) 「水」について自分との関わりを考える 2) 日本・世界の水事情を知る 3) 水をとりまく課題を指標に表し分析する 4) できることを考える
---	---

5B. 地球環境問題 気づきから行動へ：サルが去る！とりもどせ森林！！ / 対象：小学年

<u>ねらい</u> ・自分の生活と環境がつながっていることに気づく ・持続可能な環境のためにできることを考える	<u>展開</u> 1) 森に住んでいる動植物について関心を持つ 2) 資料で実際の現実を知る 3) 自分の生活の中で使っているものをふりかえる 4) 持続可能な環境についてできること
---	---

6. 豊かさ/SDGs+グローバルな生き方：幸せが長続きする豊かな世の中へ / 対象：中学生・高校生・一般

<u>ねらい</u> ・地球の課題について知り、自分事であることに気づく ・自分達に何ができるかを考える	<u>展開</u> 1) 世界の課題に興味を持つ 2) SDGsを知り、仲間と共有する 3) 自分事であることに気づき、課題を放置するとどうなるか考える 4) 自分達に何ができるかを考える
---	---

7. わたし、あなた、みんなに関わるスキル・ビルディング：めざせ、ハートフルクラス

/ 対象：ちょっとギクシャク気味の中学生

<u>ねらい</u> ・自分にとって居心地の良いことは周りにとっても居心地が良いと気づく ・居心地の良い集団にするために自分ができることを考える	<u>展開</u> 1) 幸せ度の感じ方の違いに気づく 2) 違和感の正体を言語化する 3) 居心地の良い集団のイメージを共有する 4) 居心地の良い集団にするために自分にできること
---	--

- ◇ ファシリテーターコメント…良かった点のカードがあるから改善提案を受け入れられる。良い評価をしてもらうと提案も受け止めようと思える。提案カードの採用不採用は自分次第。よりよくなると思うものを選びブラッシュアップさせる。

2. 実践報告フォーラム 2019 で提供したい4つのプログラム選び 16:22-[13]

- ◇ プログラム発表と体験をふまえ、実践報告フォーラム 2019 で行う4つの実践体験ワークショップで提供するプログラムを次の視点で選び、持ち点1人4票、1つのプログラムにつき2票まで入れることができる「重みづけランキング方式」で投票し、上記番号1、4、5B、6を選定した。

- ＜プログラム選考の視点＞
- ・参加者主体かどうか
 - ・対象に合う明確なねらいかどうか
 - ・参加者の意識の流れに沿う流れかどうか
 - ・知るばかりではなく気づきや発見があるか
 - ・新たな情報や知識が得られるか
 - ・適切で多様な手法が使われているかどうか
 - ・楽しさがあるかどうか
 - ・「自分達でできた」など、参加者の効力感が得られるか
 - ・「もっと知りたいと思うようになる」など、次につながるものがあるか

－ 休憩 － 16:35－[05]

3. 実践報告フォーラム 2019 の概要説明と準備のお願い 16:40－[13]

- ◇ 資料『実践報告フォーラム 2019 のプログラムとお願い』を基に、実践報告フォーラムの内容、実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップスケジュールについて事務局から説明を行った。



- ＜実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップスケジュール＞
- 第1回：10/20（土）
 第2回：12/16（日）
- ①10:00～12:00 教師海外研修報告検討会
 ②13:00～15:30 実践体験ワークショップ検討会
 ③15:30～17:00 実践フォローアップ会

4. ふりかえり 16:53－[11]

- ◇ 2日間を振り返り、気づいたことや大切だと思ったこと3つをグループ内で発表し合い、感想を共有した。

5. 実践報告フォーラム 2019 実践体験ワークショップ担当決め 17:04－[04]

- ◇ 実践報告フォーラム 2019 にて実践体験ワークショップを担当する有志を募り、メンバーを決めた。

6. 事務連絡 17:08－[07]

- ◇ 受講者から、各自が関わるイベントの告知を行った。

★ 17:15 終了

－ 研修で使用了教材の出典等一覧 －

- ・『アイスブレイクからの発展』…DEAR ウェブサイト <http://www.dear.or.jp/book/book01.html>
- ・『開発教育・国際理解教育「学びの目標」』
 国際理解教育の学びの柱…NIED
 開発教育の学びの柱…DEAR
- ・『豊かな社会にとって大切なことカード』…DEAR 「豊かさで開発－Development for the Future」
- ・『フリードマンとセンの豊かさで貧困と開発の定義』…DEAR 「貧困と開発－豊かさへのエンパワメント」 2005 年の資料を基に NIED 作成
- ・『豊かさレーダーチャート』…DEAR 「貧困と開発－豊かさへのエンパワメント」 2005 年
- ・『参加型プログラム作りのノウハウ』『行動変容を支える参加型』…NIED
- ・『参加型手法の解説～12 のものの見方・考え方から』…ERIC 編 「参加型で伝える 12 のものの見方・考え方」 1997 年
- ・『参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法』…「環境学習実践者向け ESD ガイドブック 「ESD はじめの一步」」 2015 年、名古屋市（NIED 伊沢令子執筆箇所）
- ・『プログラムづくりの流れ』…JICA 中部 2013 年度開発教育指導者研修（実践編）第3回成果物

※JICA…独立行政法人国際協力機構／ERIC…ERIC 国際理解教育センター／
 DEAR…（特活）開発教育協会／NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

V 実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップ

■ 開催概要

- ◆ 日時：第1回 2018年10月20日(土)／第2回 2018年12月16日(日)
実践体験ワークショップ検討会 13:00～15:30、実践フォローアップ 15:30～17:00
- ◆ 場所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：実践体験ワークショップ検討会
[第1回] 受講者20名、JICA1名、NIED5名 合計26名
[第2回] 受講者21名、JICA1名、NIED5名 合計27名
実践フォローアップ
[第1回] 受講者21名、JICA1名、NIED5名 合計27名
[第2回] 受講者16名、JICA1名、NIED5名 合計22名
- ◆ 実践体験ワークショップ検討会ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 実践体験ワークショップ検討会・実践フォローアップのねらい

- ① 実践報告フォーラム2019における受講者有志による実践体験ワークショップの実施支援、受講者の各現場での実践状況を共有し助言する。

■ プログラムの内容

● 「実践体験ワークショップ検討会」

1. 第1回 10/20 13:00-15:30

- ◇ 開発教育・国際理解教育の目的をファシリテーターが説明、再確認した。

＜開発教育。国際理解教育の目的＞

「知る・考える・気づく、気づく・考える・行動する」

人権、環境、平和など、人類共通の課題を理解し、課題を解決し、望むよりよい未来を共に築くための力を育む教育



- ◇ 第3回研修で作成した、実践体験ワークショップの基となるプログラムの確認および他グループからの提案を共有した。
- ◇ 次の指標と流れで、実践報告フォーラム2019で提供する90分間のプログラムに再構築した。当日の参加予定人数は30～40名(4～5人×7～8グループ)と設定した。

＜プログラム再構築の指標＞

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・ねらいは明確か(対象者に合っているか) | ・手法に偏りはないか |
| ・ねらいを達成しうる内容と流れか | ・参加者が主役か |
| ・「気づき」はあるか | ・時間配分は適切か |
| ・あたらしい情報(知識)と出会えるか | ・「発散」と「収束」のバランスはどうか |
| ・楽しさはあるか | ・次につながるものはあるか |

＜流れ＞

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ① ねらいを見直す | ④ プログラム詳細を考える |
| ② 流れを再設定する | ⑤ ワークショップのタイトルを決める |
| ③ メインとなるアクティビティを選定する | |

- ◇ プログラム概要を模造紙に書き出し、全体へ発表した。
- ◇ 他グループが、プログラムをより良くするための質問をした。
- ◇ 質問を受け、プログラムのブラッシュアップ版を作成するためのスケジュールをグループで検討し、ミーティング日時などを決めた。

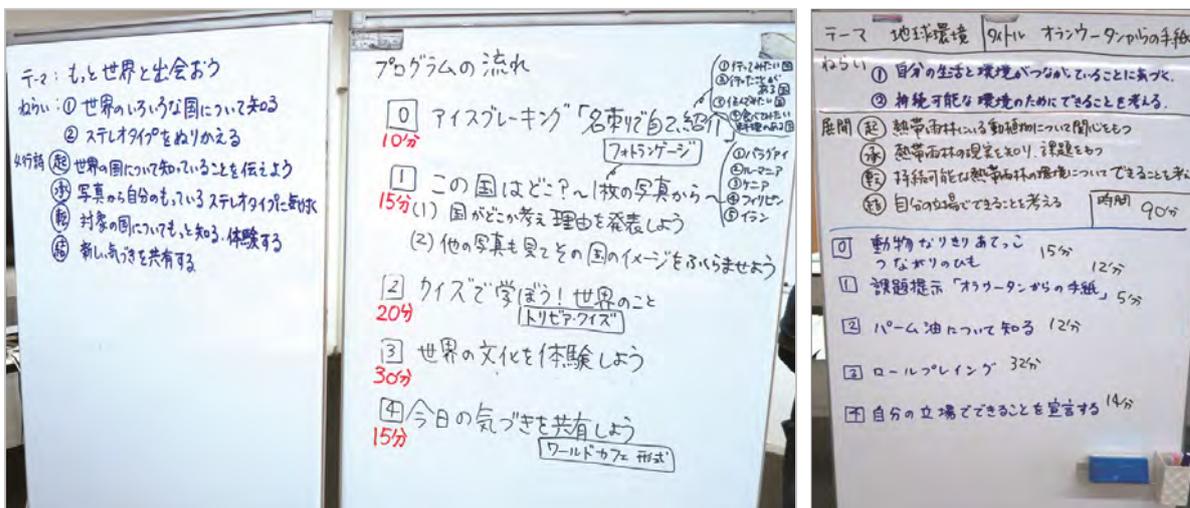


2. 第2回 12/16 13:00-15:30

- ◇ ブラッシュアップ版概要をホワイトボードに書き出し、全体へプログラムの説明を行った。
- ◇ 他グループが、プログラムをより良くするための質問をした。
- ◇ 質問を受け、グループで再度プログラムをブラッシュアップさせるための話し合いをした。
- ◇ 当日までに準備が必要なものの確認と役割分担を行った。
- ◇ 当日の配付資料も含め、1月末までにプログラム最終版を提出するよう、事務局から依頼した。



【ブラッシュアップ版プログラム概要例】



★ 15:30 終了

● 「実践フォローアップ」

1. 第1回 10/20 15:30-17:00

- ◇ 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者が出席、参加した。
- ◇ 少人数のグループに分かれて相談会を行った。受講者一人ずつ、実践で予定している内容と、検討事項や悩みなどを伝え、アイデア出しや提案、アドバイスをを行った。
- ◇ グループには、NIED メンバーもアドバイザーとして加わった。

2. 第2回 12/16 15:30-17:00

- ◇ 第1回と同じく、希望者が参加し、フォローアップを行った。



★ 17:00 終了

VI 実践報告シート

■ 実践報告シート一覧 (五十音順)

No.	名前	対象	時間数	タイトル
01	五十嵐めぐみ	小学校5年生(40名)	4時間	世界とつながろう！(共生)
02	石田 秀憲	高校1年生(40名)	4時間	『食』と『貿易』～私たちにできることはゴマンとある！～
03	伊藤 聡子	中学校2年生(40名)	6時間	「食」を通して考える世界とのつながり
04	浦田 美穂	中学校2年生(100名)	11時間	学校に行けない？
05	大島 将嗣	一般(10～20人程度)	1.5時間	自分を活かす！貴方を活かす！組織も活かす！～Keep ourselves alive!
06	岡田 大祐	中学校3年生(95名)	18時間	問題意識を形に～わたしの行動宣言～(SDGs)
07	諏訪部 景子	小学校6年生(39名)	17時間	私もあなたもみんなも世界の大切な一人
08	加藤 寿恵	小学校6年生(100名)	20時間	開こう！世界へのとびら(共生)
09	加藤 美紅	一般(10名)	2時間	Smart!?Phone × 私(I) × コンゴ～身近なものからわたしと世界のつながりを知ろう！～
10	加藤 理絵	大学1～4年生(70名)	1.5時間	お隣さんは外国人(多文化共生)
11	川合 孝弥	高校2年生(32名)	5時間	環境問題～私たちにできること～
12	川口 徹	大学生(80名)	1.5時間	地球の課題とSDGs
13	河村 有紀	中学校1年生(35名)	20時間	ウガンダとのアートマイルを通して、世界を変える担い手に！
14	北澤 泰子	高校1年生の寮生(15名)	4時間	「わたし」「あなた」「みんな」に関わる力を育てるピア・サポート
15	小林 祐輝	中学校1年～高校2年生(44名)	6時間	オープン・スペース・テクノロジーによる国際理解教育の実践
16	近藤 勝士	小学校1～6年生(250名)	1～3時間	Sustainable Development Goals！～今日からはじめるSDGs～
17	坂口 朋寛	大学生(社会人含む)(10名)	1.5時間	SDGs～未来を変えるのは“わたしたち”～
18	櫻井 美香	中学校2年生(160名)	12時間	多文化共生の学校づくり～学校を元気にする外国人生徒の力
19	清水 歩美	小学校6年生(332名)	7時間	みんなで考える、みんなの地球
20	相山 紗希	小学校5年生(13名)	6時間	虹～無限の色でみんなスマイル～
21	須古井 京子	中学校3年生(75名)	8時間	わたしが見つけたSDGs！！
22	高橋 泉名	小学校5年生(36名)	9時間	世界へ旅に出掛けよう
23	高山 裕里	中学校2年生(63名)	12時間	より良い未来のためにできること～世界の現状を知ることから～
24	田口 亜紀子	小学校6年生(18名)	9時間	未来がよりよくあるために(環境)
25	塚本 裕孝	中学校2年生(40名)	1時間	タロウ先生になってみよう！～多文化共生～
26	富塚 裕美	小学校1年～中学校1年生(10名)	33時間	緑のプログラム～自然とわたしたちのつながり～
27	中垣 尚子	中学校2年生他(140人)	2時間+α	プラスチックごみから考える私たちの未来
28	夏目 江里加	高校3年生(16名)	15時間	LET'S MAKE “OMIYAGE”(異文化理解・共生)
29	丹羽 かよ	高校1年・2年生(40名)	3時間	未来へのアクションを起こそう！(SDGs)
30	野々山 尚志	小学2年生(28名)	10時間	よりよい未来を創るための価値観・スキルを身に付けるために
31	箱山 園江	高校3年生(36名)	2時間	わたしの自慢のファッションは？(人権・環境)
32	濱田 蒼太	中学校3年生(145名)	12時間	“地球”の持続可能な使い方～1コぶんのくらしをしよう！～
33	藤川 純子	小学校6年生(54名)	17時間	Think Globally, Act Locally—世界の中の日本とわたしたち—
34	前田 昌美	高校2年生(44名)	3時間	(仮想)動物裁判:“That’s enough!”人間ども訴えてやる!!
35	宮川 勇作	小学校1年生(29名)	10時間	世界授業「いいね！」っていいね！(共生)
36	三宅 聡子	小学校5年生(34名)	12時間	共に生きる
37	村上 偉代	高校1年生(40名)	7時間	「わたし」と「社会」はつながっている！
38	MORI Keiko	中学校1～3年生と支援員(7名)	23時間	SDGs クイズで授業をしてみよう
39	森本 真央	小学校2年生(17名)	11時間	わたしの世界のお友だち、〇〇さん～世界のお友だちとの出会いから、2年生にできることを考える～
40	森 友紀乃	高校1年生(35名)	2時間	SNS利用について考えよう(メディアリテラシー)
41	保田 知里	小学校1年生(24名×2)	5時間	たくさんの水！どれくらいの水？
42	山口 郁子	中学校3年生(145名)	9時間	「SDGsに向かおう！」～私が感じた世界の問題を発信しよう！～
43	脇田 佐知子	小学校5年生(117人)	9時間	水について考えよう～水はつながっている～

世界とつながろう！

所属	愛知県あま市立正則小学校	実践者	五十嵐 めぐみ
対象	小学校5年生(40名)	実践日	2018年11月
実践教科	学級活動	時間数	4時間
ねらい	<p>テーマ【受容・共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の多様性に気づき、その多様性を肯定的に受け取ることができる。 違いを認め合い、他者や世界と積極的に関わろうとする気持ちを育てる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○違うって面白い</p> <p>①【アイスブレイキング】～いつもと違う自分を発見しよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パスデーチェーン」を通して、言葉以外で心を通わす。 「友達に質問します」を通して、友達の知らない部分を知る。 「〇〇にたとえると」を通して、自分の違う一面を知る。 <p>② 自分や友達を違う角度から見てどう感じたか考えをまとめる。</p>	<p>出会いのカード</p> <p>ワークシート</p>
	2	<p>○日本と違う国・マレーシアを知ろう！</p> <p>① 写真を見ながら、マレーシアの概要を知る。 (国・人・暮らし・宗教・文化・教育・マレーシアの日本人の生活)</p> <p>② 人・暮らし・宗教・文化・教育のグループに分かれて、日本との違いについて考える。</p>	<p>パワーポイント</p> <p>ワークシート</p>
	3	<p>○世界とつながるといことは・・・</p> <p>① 世界とつながることの良さを考える。 ・映像教材を視聴する中で、ハンバーガーが作られるまでの課程を知り、輸入・輸出の関係の良さを考える。</p> <p>② 世界とつながることで困っていることを考える。 ・写真と本を見て、マレーシアのプランテーション・ポテトチップスが自分の生活にどのように関わっているかを知る。 ・マレーシアの人が困っていることを知り、その原因を考える。</p>	<p>NHK for school (社会科)</p> <p>本 著:横塚真己人 「ゾウの森とポテトチップス」</p>
	4	<p>○世界とつながろう！</p> <p>① 現在、もし日本が鎖国をしていたらどのようなになっているか考える。 【派生図】</p> <p>② 世界でつながることの大切さを考える。</p> <p>③ よりよくつながるために、自分にできることを考える。</p>	<p>派生図用のペン・紙</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 違いを認め合う活動を通して、「他者をより知ろう」とする気持ちをもてるようになった。 日本と違う国に興味をもち、自国と他の国との関連に関心をもつようになった。 		
課題	<p>今回は学級活動の4時間で「世界とのつながり」について考えを深めることをねらったが、決して十分ではなく、他教科と関連させて、より深く考えさせたいと思った。</p>		
備考			

『食』と『貿易』 ～私たちにできることはゴマんとある！～

02

所属	愛知県立松蔭高等学校	実践者	石田 秀憲
対象	高等学校1年生（40名）	実践日	2018年10月～11月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	3時間
ねらい	<p>テーマ【環境、共生、キャリア、コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴマ(食物)を通して貿易や環境問題を自らの関わることだと理解する。 ・国際問題を解決するために国・企業・個人という3つのレベルで取り組むべき課題を見つける。 ・外国の方や異文化にルーツをもつ方々と共に課題に向き合う態度を身につける。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○パラグアイについて知ろう／パラグアイと日本の課題を知ろう</p> <p>① 「バースデーラインナップ」で、グループを作る。【アイスブレイキング】</p> <p>②パラグアイがどんな国か想像する。【ブレーンストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民族衣装、写真、映像、土産などを見ながらグループで行う。（肯定的な出会いができるよう、工夫する。関心をもたせる。） ・質問に答えながら、パラグアイの紹介を行う。 <p>○ゴマから考えるパラグアイと日本の課題を知ろう</p> <p>①パラグアイ産のゴマのシェアが日本で減った理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本はパラグアイからゴマを長年輸入していることを知る。 ・パラグアイ産のゴマのシェアが日本で減った理由を考える。 <p>②パラグアイのゴマの残留農薬問題と、日本の食料自給率を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留農薬に関してのパラグアイや日本、国際的なルールを知る。 ・自分の身体の何%が外国産でできているか考える。【イメージ図】（自給率が低いいため、良好な関係を他国と築く重要性を伝える。） 	<p>【アクティビティ参考】</p> <p>「参加型アクティビティ集 コミュニケーション編」(特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター)</p> <p>【資料作成参考】</p> <p>農林水産省ホームページ 政府広報オンライン 財務省 貿易統計 滝本浩司氏(JICA 専門家)提供資料 フェアトレード・ラベル・ジャパンホームページ 特定非営利活動法人ローハスクラブホームページ TABLE FOR TWO 公式サイト</p>
	2	<p>○貿易に関するプチ国際会議シミュレーションをやってみよう</p> <p>①貿易に関するプチ国際会議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの仮想国について、与えられたデータを読み取り課題を考える。（主な輸出入品・食料自給率・貿易収支・輸入品残留農薬基準値など） ・グループ毎に割り当てられた仮想国で国際会議の場で発言する。 	
	3	<p>○私たちにできること、マニフェストを作ろう</p> <p>①JICAの専門家派遣の様々なメリットを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、日本が国レベルでできることを考える。 ・残留農薬問題解決のための専門家派遣の意義を考える。【派生図】 <p>②日本の企業レベル、個人レベルでできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留農薬の問題に加え、フェアトレードやバーチャルウォーター、フードマイレージ、テーブルフーズ、食品ロスについて知り、日本の企業や個人ができることを考え、グループで発表する。【ビンゴ】 ・クラス全員ができそうなことを見つけ、共有する。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・食料や貿易を通して他国を身近に感じ、それらの問題を「自分に関わること」と認識する生徒が増えた。 ・国や企業、個人など様々な視点から、国際問題にアプローチする姿勢を養うことができた。 ・疑似国際会議体験から、経済や技術の格差が発言権の強さに繋がっていることに気付く生徒がいた。 		
課題	総合学習の3時間しか割り当てられず、1つ1つの活動の時間が短かった。フェアトレードなどの問題はこちらで用意したものであったので、生徒たちが自ら世界の課題を調べ発表する時間を設けたかった。		
備考			

「食」を通して考える世界とのつながり

03

所属	愛知県海部郡大治町立大治中学校	実践者	伊藤 聡子
対象	中学校2年生(40名)	実践日	2018年11月～12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	6時間
ねらい	<p>テーマ【共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイと肯定的に出会い、「世界をもっと知りたい」という思いをもつ。 ・自分の食生活に関心を持ち、自分の生活が世界とのつながりの中で成り立っていることに気づく。 ・世界の国々とのよりよいつながりのために、自分たちにできることを考えて行動する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「パラグアイってどんな国?～SiO?NoX?クイズ～」</p> <p>① パラグアイのイメージを出し合う。【ブレンストーミング】</p> <p>② SiO?NoX?クイズを行う。【クイズ】</p> <p>③ ①のブレンストーミングの模造紙に、分かったことを付け加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイで購入したもの(国旗、テレセット、コイン・紙幣、民族衣装) ・パラグアイで撮影した写真(1、2、5、6回で使用)
	2	<p>「どれがパラグアイ?どれが日本?～フォトランゲージ～」</p> <p>① パラグアイと日本のどちらの写真かを考える。【フォトランゲージ】</p> <p>② どちらの国の写真と考えたのかペアグループで共有する。</p>	
	3	<p>「世界の食卓をのぞいてみよう！」</p> <p>① この一週間お世話になったものを書き出す。【リスト】</p> <p>② どこの国の食卓の写真なのかを考える。【フォトランゲージ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『写真で学ぼう!地球の食卓 学習プラン10』開発教育協会
	4	<p>「『食』マッチングゲーム」</p> <p>① 写真の人物になりきって一日の食事を紹介する。【ストーリーづくり】</p> <p>② 写真の人物の一日の摂取カロリーを予想し、低い順に並び替える。</p> <p>③ 食べもののマッチングゲームをする。(例:小麦パン、カカオチョコレート)</p> <p>④ マッチングゲームで組み合わせたものが、食卓に届くまでの道のりを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーター・メンツェル「ほか」『地球のごはん』TOTO出版 ・山本茂『もったいない!感謝して食べよう』少年写真新聞社
	5	<p>「『食』から世界とのつながりを知ろう！」</p> <p>① 「食」に関するクイズを行う。【クイズ】 (食料自給率に関するクイズ、お好み焼きの材料はどこから?)</p> <p>② 輸入が止まった半年後のメニューを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『世界の食料』、『どうなってるの?世界と日本』JICA 冊子 ・農林水産省「につぼん食べもの事情」ニッポン食べものカ見つけ隊」
	6	<p>「世界の国々とのよりよいつながりのためにわたしたちにできること」</p> <p>① パラグアイの食事に関する写真から物語を作る。【ストーリーづくり】</p> <p>② 世界とのつながりがなくなったらどうなるかを書き出す。【派生図】</p> <p>③ 世界とのよりよいつながりのためにできることを、「自分」「仲間」「国」の3つの視点から考える。【行動計画づくり】</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・回数を重ねるごとに、日本にも世界にも興味をもつ生徒が増え、楽しみながら活動することができた。 ・参加型学習を取り入れたことで、一つ一つの活動が活発になり、普段、グループ活動にあまり参加しない生徒が積極的に参加する姿が見られた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で参加型学習を取り入れると、学び方に慣れることができるので、活動がスムーズに進むと感じた。 ・年度当初に計画を立てて学年全体で取り組んだり、各教科と関連させて取り組んだりしていきたい。 ・行動計画を立てた後、計画だけに終わらないよう行動するところまでの手立てを考える必要がある。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本実践の他にも、道徳の授業実践の中にパラグアイで体験してきたことを取り入れた。『明るい人生』の資料「ガランチード」(愛国心)では、パラグアイで暮らしている人々が思う日本人のよさを紹介し、「引き継いでいきたい日本人のよさ」としてピラミッドランキングを作成する活動を行った。 		

学校に行けない？

所属	三重県伊勢市立伊勢宮川中学校	実践者	浦田 美穂
対象	中学校2年生（100名）	実践日	2018年9月～2019年1月（3月）
実践教科	総合的な学習の時間・英語	時間数	11時間（14時間）
ねらい	テーマ【学校に行けない子どもたち？】 ・他国と肯定的に出会い、「知ること」からその国の良さを知るとともに日本の良さに気付く ・「学校に行くこと、行けること」から世界の課題に気づき、自分たちに何ができるかを考える		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【世界を知ろう】-中国 貧困のために学校へ行けない 【中国からのゲストによる講演】(総合)	クイズ http://www.las.osaka-fu-u.ac.jp/~kiyohara/quiz.html 負の連鎖資料 JICA
	2	【中国を知ろう】(総合) ・班メンバーの共通点・相違点を探そう(アイスブレイク) ・中国についてのイメージマップを作る(イメージマップ) ・都会の中国での生活と農村地帯の写真をみて二つの写真の違いを考える(フォトランゲージ) ・クイズを通して中国を知ろう(クイズ) ・身近な食べ物を示すことで日本とのつながりを知る。また中国と世界のつながりを中国がもつサッカーチームやスマホを紹介することで知る。 【中国語であいさつしよう・地理歴史を知ろう】・中国語学習(国語)・(社会)	
	3～4	【貧困のために学校へ行けない？】(総合)	DVD: あの子をさがして
	5	「この子をさがして」を見て、学校に行けない子どもたちの現状を見る(ビデオ視聴) ・学校に行けないことから起こる負の連鎖(因果関係図) ・断ち切るために何ができるかを考えよう	エルサルバドルについて 外務省
	6～8	【世界を知ろう】-エルサルバドル 戦争のために学校へ行けない 【アメリカからのゲストとの交流】日本の文化を伝えよう(折り紙・習字・日本語)(英語) ・自分を色に例えると(アイスブレイク) ・日本の文化紹介…折り紙、習字、日本語を教えよう(体験)	クイズ JICA・学研キッズネット
	9	【エルサルバドル 少年・少女兵学校へ行けない】(総合) ・エルサルバドルを知る(クイズ) ・日本とのつながりを知ろう ・少年兵・少女兵について知ろう ・自分たちたちができることを考えよう	
	10～11	【JICA ユネスコ】 ・それぞれの活動を知ろう(ビデオ+講義)	
成果	振り返りシートから、中国、アメリカからのゲストに来ていただいたことで、生徒は様々な国と肯定的な出会いにより興味を持つことができた。その後、自分たちが当たり前のように通う学校に行けない子どもたちの現状を知ることで、自分たちの生活を振り返り、当たり前でない世界を感じる事ができた。さらに自分の生活と照らし合わせながら、自分たちに何ができるのか、新しい出会いを重ねるごとに増えてきた生徒が多かったと感じた。3年生で修学旅行で訪問する JICA、ユネスコに対する興味・関心をもつことができた。		
課題	自分自身の知識不足、さらには「気づきから行動するためのスキル」の不足を感じた。		
備考	【今後の予定】・「興味のある国」を選んで英語で書く(日本とのつながり)・2月26日「アフリカ」、ウガンダからのゲストによる話。・アフリカでの貧困問題を考える(JICA 参加経験教諭による)・総合の授業で谷川俊太郎の「そのこ」を題材に児童労働について考える・英語で少年兵士(Aki RA)についての学習・国際協力エッセイ(国語)～3月実施予定【使用教材】外務省、JICA 資料、ユネスコ、DVD「この子をさがして」		

自分を活かす！ 貴方を活かす！ 組織も活かす！ ~Keep ourselves alive!

05

所属	愛知県大府市役所	実践者	大島 将嗣
対象	一般 10~20人程度	実践日	2018年 11月 30日
実践教科	所属部署勉強会	時間数	90分間
ねらい	<p>テーマ【組織内における自己有用感に気づき、チームワークを育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセンサス学習を通じて、自分のグループ(組織)への関わり方(参加の仕方の傾向)を知る。 ・自分のグループ内での役割や影響に気づく。 ・相互の役割を認め合うことにより自己有用感に気づき、課題へのより良い参加方法を話し合う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1 コンセンサス学習の説明とグループ分け(1グループ4~6人)</p> <p>2 アイスブレイキングとワークへの導入</p> <p>(1)カミングアウト自己紹介 ジョハリの窓を使って①他者も知っている自分の性格、②自分は知っているが他者の知らない意外な自分の一面を紹介</p> <p>(2)ジョハリの窓の説明</p> <p>3 グループワーク【コンセンサスゲーム(砂漠)】</p> <p>①ゲームのやり方とルール説明 ②グループワーク ③正解発表後、グループ順位を決定 ④ゲームの感想を話し合い各グループ代表が発表</p> <p>4 ふりかえり</p> <p>(1)ふりかえり用紙記入 ①自分は十分に意見を言えましたか？十分に相手の意見を聴けましたか？ ②グループ内で何が起こっていましたか？各自がどのような役割を担っていましたか？自分と違う考えにどのように対応していましたか？ ③話し合いの中で、自分も含めてどのような発言がありましたか？その発言は、グループにどのような影響を与えましたか？</p> <p>(2)①②③について順番に全員が発表しフィードバックを行う。</p> <p>(3)感謝カードの交換とグループ内での共有 ①お互いの良かった所を感謝カード(ポストイット)に書き交換 ②感謝カードを模造紙に貼り付け、グルーピングしてタイトルをつける。</p> <p>5 フィードバックの自己評価</p> <p>(1)ふりかえり用紙や感謝カードを利用し、他者から見た自分で、自分の知っていた、又は知らなかった自分を認識し、ジョハリの窓の③、④に記入</p> <p>(2)気づいたこと、感じたこと、自分のパーソナリティに適した役割とそれを組織の中でどう活かしていくかコメントを考えて用紙に記入し全員が発表</p> <p>6 ファシリテーターから参加者意見のまとめ</p> <p>「合意形成をしていく中で、気づかなかった自分の一面、他者の良いところを認めることができましたか？」「自己有用感を感じることはできましたか？それはどんなところでですか？」「互いに認め合いながら貢献していきましょう！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A3用紙 ・マジック1式 ・タイムキーパー ・留意点説明書 ・ゲーム問題(砂漠)と正解 ・ふりかえり用紙 ・各自筆記具 ・ポストイット ・模造紙 ・マジック1式
成果	<p>・グループワークを通じて、自分が他者にどう肯定的受け取られていたかを認識することができ、それがメンバー同士の信頼感につながった。</p>		
課題	<p>・実施時期について検討が必要である。組織のチームワークを向上させるため、年度が始まって早期に実施することが望ましいとの声もあったが、職員同士が互いの能力などをある程度把握してから(2~3ヶ月)実施した方が効果的であると思われる。</p>		
備考	<p>・コンセンサスゲーム(砂漠)をやってみて、組織内のコミュニケーションの促進のため別のメニューを実施してほしいとの要望があった。今後もハッピーファームやマネージャーゲームなどを行っていき、部署内の職員のコミュニケーション力を高めていきたい。</p>		

問題意識を形に ～ わたしの行動宣言 ～

所属	愛知県名古屋市立田光中学校	実践者	岡田 大祐
対象	中学校3年生(95名)	実践日	2018年10月～2019年2月
実践教科	美術科	時間数	18時間
ねらい	<p>テーマ【SDGsとわたし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界共通の目標 SDGs について知る。 ・SDGsを自分事と捉え、今の自分にできることを考える。 ・自分の行動宣言として作品を制作し、発表する。 	<p>SDGs(エスディーゼーズ・持続可能な開発目標)</p> <p>2015年9月に国連特別サミットで採択し2030年達成を目指す世界共通の17の目標</p>	
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>身の周りの社会問題に問題意識をもって制作された作品を鑑賞する。</p> <p>(1) 教科書の作品を鑑賞し、作者のメッセージを考える。</p> <p>(2) 作者がとらえた問題を解決するために自分にできることを考える。</p> <p>(3) 考えたことを発表し合い、自分にない考えをメモする。(4人グループ)</p>	鑑賞ワークシート
	2	<p>身の周りの社会問題に気付く。</p> <p>(1) 現在の社会問題を出し合う。【ブレインストーミング】(4人グループ)</p> <p>(2) 他のグループの模造紙を見て、共感する事項に☆印をつける。</p> <p>(3) 国連でも世界共通の目標 SDGs を定めていることを知る。</p> <p>(4) 自分たちが見つけた社会問題と SDGs との関連性に気付く。</p>	半切模造紙・ペン ピコ太郎SDGs 外務省
	3	<p>2030年までに SDGs が達成されない世界を予想する。</p> <p>(1) 我が国の SDGs 進捗状況を知る。</p> <p>(2) 目標が達成されない世界を予想する。【派生図】(4人グループ)</p> <p>(3) 他のグループの模造紙を見て、共感する事項に☆印をつける。</p>	半切模造紙・ペン SDG Index and Dashboards Report 2018
	4	<p>SDGs を達成するために何をすべきかを考える。</p> <p>(1) 目標達成のためにすべきことを考える。【因果関係図】(4人グループ) (国・民間・個人など、どのレベルでアイデアを出してもよい)</p> <p>(2) 他のグループの模造紙を見て、共感する事項に☆印をつける。</p> <p>(3) 目標を絞り込み、自分に何ができるかを具体的に考える。</p> <p>(4) 具体的な行動を盛り込んだ作品のアイデアスケッチを始める。</p>	半切模造紙・ペン SDGs logo 日本語版 国際連合広報局 National Geographic 2016～2018 25冊
	5～6	自分の具体的行動(行動宣言)を盛り込んだ作品の構想を練る。	
	7～17	行動宣言として作品を制作する。	
	18	わたしの行動宣言を発表する。(作品鑑賞会)	
成果	社会問題を SDGs に絞ったことで SDGs が生徒の間で認知された。また、行動宣言として作品を制作したことで、世界を変えるのは自分の小さな行動からという自覚が芽生えたことが大きい。		
課題	4回目の授業で、「目標達成のために何をするか」-「そのために何をするか」-「そのためにさらに何をするか」という突っ込みが不十分だったため、行動宣言にたどり着くまでに時間を要した。		
備考	作品の構想を練る5～6回目の授業にグループ活動を取り入れて、互いの構想を発表し合いながらアドバイスをもらう時間を設定すると、生徒同士がさらに高め合えた可能性がある。		

私もあなたもみんなも世界の大切な一人

07

所属	愛知県春日井市立玉川小学校		実践者	諏訪部 景子	
対象	小学校6年生(39名)		実践日	2018年7月~2019年2月	
実践教科	(国語・社会・道徳・理科・学活・外国語)		時間数	17時間	
ねらい	テーマ【共生・人権・意見の発信】 ・「国際親善」の視点を考える ・世界の人々に知ってもらうには？ ・SDGsについて知る ・国際理解人として自分にできることを考える				
実践内容	回	プログラム			備考
	1	1. 自分たちが生活の中で感じている感覚を共有する 「自分の住む世界は平和?」【4つ角意見チーム】			・意見+理由で簡単な発表をさせる ・書籍「世界がもし100人の村だったら」
	2	2. 自分と誰かの違いを知る 「私も世界の村の大切な一人」【絵本読み聞かせ】			
	3~10	3. SDGs・世界の国の事例について知る ・SDGsランキング(早く達成したいベスト3)を作ろう ・SDGsの課題を仲間分けしてみよう (時間・日本に強く関わる・人権・環境) ・立場を変えて主張しよう(行動・主張・課題から探る)【ロールプレイ】			・話し合いでは、グループ単位で模造紙にまとめる活動を取り入れる
	11~12	4. 地球上で暮らすみんなの権利を守っていくためのポイントを探る 「どんな立場でも大切な当たり前ルールってなんだろう?」 【人間イスゲーム】…人の権利を守ることが自分の権利を守ることにもつながら(モデル化) 資料:世界人権宣言 解説			
	13~15	5. より良い未来について考える・意見を発信する 「未来をよりよくするために自分にできる事」【意見文】【スピーチ】 ・学習したこと・自分・他者の考えを通して、改めて大事だと考える SDGsの目標を1つテーマに選び、意見文にまとめる。【学習後の主張】 ・発表・冊子作りで考えを共有する。 ・より良い未来への思いを共有し、みんなが幸せをつかむ行動を提案する。			[資料]6年(道徳) 「世界人権宣言ってなんだろう?」【アムネスティ・インターナショナル日本】 国際人権 NGO アムネスティ日本による、世界人権宣言についての解説 「ブータンに日本の農業を」 ブータンにおける農業協力【JICA】 西岡京治さんが行ったブータンにおける農業協力について知る。
	16	6. 理想の社会像を描く みんなの考えを集めて「どんな未来の日本にしたい?」 【ブレインストーミング】【3か条まとめ】			
	17	7. 国際親善について考える 「国際親善って?」 「ブータンに日本の農業を」を読んで【フォトランゲージ】			
成果	・世界の国について、SDGsの背景、自分たちの関わる課題について興味をもち、自分事としてとらえ考えられるようになってきている。また家族や友人、兄弟などに考えをシェアして、意識的に行動に移せた児童もいた。				
課題	・短期間では課題をとらえるのは難しかった。長期的かつ多角的に話題にできると理想的。 ・児童にむけての実践の場を設ける前に、現職教育の場で職員向けの学習会を行った。現場で実践を広げることを検討すると先生方の視野を広げる場も必要と感じた。				
備考	・担任の裁量で学習課題に逸脱のないよう、短いアクティビティーを授業内容に+αに組み入れていった。 ・グループの「話し合い」スキルは1学期に多く取り入れ、無理なく参加できるようにしていった。				

開こう！世界へのとびら

所属	愛知県海部郡蟹江町立蟹江小学校	実践者	加藤 寿恵
対象	小学校6年生（100名）	実践日	2018年5月～2019年2月
実践教科	総合的な学習の時間・外国語活動	時間数	20時間
ねらい	<p>テーマ【共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の国々に興味をもち、それぞれの国について進んで調べることができる。 世界には、異なる文化や考え方があることに気付き、その違いを認め、尊重しようとすることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	外国の人にインタビューをしよう ・ 修学旅行で外国の人にインタビューをする。	・PPTを使用
	3	世界ってどんなところ?? ・ 世界(外国)について、もっているイメージを共有し、調べてみたいことを考える。	【派生図】
	4	世界にはどんな課題があるのだろう ・ 教育と識字率の関係について、体験しながら学習する。	・世界一大きな授業
	5	パラグアイの子と交流をしよう(1) (1) 質問を考える。 (2) プレゼント作りをする(日本らしいものを描いたしおりを作る)。	
	6～8	世界の国々について知ろう (1)ルーマニア (2)パラグアイ (3)エチオピア	・青年海外協力隊OGによる出前授業
	9～20	世界の国々について調べたことを発表しよう (1) 担当する地域の中から1つまたは2つの国について調べる(5地域)。 (2) かにっこ国際会議(それぞれの地域や国の良さを討論会形式で発表をする)	・学習発表会
	21	パラグアイの子と交流をしよう(2) ・ 蟹江小学校とピラポ日本語学校の児童がそれぞれ質問を送り合い、それに答える形でビデオレターを作成して交流をする。	・ビデオレター
	22・23	なぜ日本人は、パラグアイに移住したのだろうか	・PPTを使用
24	世界の人々と仲良く暮らしていくために大切なことを考えよう	【行動計画】	
成果	<p>教師海外研修でパラグアイを訪れ、現地の写真や物を見せたことによって、児童の興味を引き出すことができた。また、実際に同年代の児童と交流することによって、その国について興味をもち、その国の歴史や日本の歴史についてより詳しく調べようとする児童の姿が見られた。</p>		
課題	<p>児童が、世界の国々に興味をもち意欲的に調べることができたが、課題解決に向けて自分ごととして捉え、行動につなげられるような構成を考えていきたい。</p>		
備考			

Smart!Phone×私(I)×コンゴ～身近なものからわたしと世界のつながりを知ろう～

09

所属	ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)	実践者	加藤 美紅
対象	一般(10名)	実践日	2019年1月26日
講座名	自主企画参加型ワークショップ	時間数	2時間
ねらい	<p>テーマ【つながり・グローバル経済・貧困】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちが身近に使っている製品から、グローバル経済のしくみと社会問題、自分とのつながりを知り、自分事であることに気づく ・消費者、市民としてわたしたちにできることを考える 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆アイスブレイク [10分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの窓 (5人1組のグループで) ①呼ばれたい名前 ②今やっていること ③このワークショップに期待すること ④私にとってスマホとは? ・スマホライン (参加者全員で) <p>◆コンゴについて知ろう! [10分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンゴ民主共和国ってどんな国?【クイズ】 <p>◆スマホが手元に届くまで(グループワーク)[20分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつもの国境を越えて製品が調達されることを知る【カード並び替え】 ・様々な材料がいろいろな国から来ていることを知る<資料> ・タンタル・コンデンサ(レアメタル)の説明 <p>◆紛争鉱物をめぐる問題(グループワーク) [20分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ部品の原料となっている鉱物調達現場を想像する【フォトランゲージ】→グループごとに想像したことを全体で共有 ・動画を見て実際の鉱山現場を知る ・児童労働、自然環境、紛争鉱物、消費者運動について説明 <p>◆コンゴの現地民が行う、わたしから始める行動 [15分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来型の支援の問題点とVOC(地域主導の持続可能なコミュニティ開発)について説明<動画> <p>◆スマホをめぐる課題を解決するために、わたしたちにできることを考えよう! [15分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12枚のランキングカードから、「大切だ」と思うカード9枚を選ぶ →「やろう!」と思う順にカード並べ、なぜそれを選んだのか、1人ずつグループで共有【ダイヤモンドランキング】 ・ふり返りアンケートシートの記入(個人)→交流 	<p>A4用紙</p> <p>パワーポイント</p> <p>教材:「スマホから考える世界・わたし・SDGs」(開発教育協会)</p> <p>写真・ワークシート</p> <p>動画:「スマホの真実(予告編)」(PARC)</p> <p>パワーポイント</p> <p>ハンガーゼロ 浅野陽子さん</p> <p>ランキングシート</p> <p>ふり返りアンケート</p>
成果	わたしたちが普段身近に使っているものから、世界をみたことで、参加者からは、「今日、知ったことを周りの人に伝えていきたい」、「普段気に留めないものを考え、知ることがよかった」、「電子工作をする際にも子どもたちと紛争鉱物について話し合うことができたらいい」など次につながるきっかけづくりになった。		
課題	課題解決のために出来ることを考えるワークにおいて、個人だけでなく、みんなで出来ることあるいは、このグループで出来ること、なぜできないと思ったか?など、行動につながるプログラムの工夫が必要であった。情報提供時でも、参加者に問いかけを増やし、意見だしの時間を多くとれるようにしていきたい。		
備考	参加者は、様々な年代の社会人の方であった。		

お隣さんは外国人

所属	愛知大学	実践者	加藤 理絵
対象	大学1～4年生(70名)	実践日	2018年11月20日
実践教科	総合科目A(教養科目)	時間数	1.5時間
ねらい	<p>テーマ【多文化共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多文化共生」をテーマとした教養科目連続講座(毎回講師は異なる)の最終回。ワークショップを取り入れて講義のまとめ(振り返り)として位置付ける。 ・各回のテーマ「外国人の概論」「教育」「労働」「相談事例」での学び(知識)の定着と、そこから学んだことを「自分ごと」として引きよせる。 ・多文化共生社会をイメージして、自分に何ができるのかを考える。 		
実践内容	時間	プログラム	備考
	10分	これまでの講義復習(外国人の概要、言葉の壁、子ども、労働)	PP 15枚 参考配布資料 (チャート1枚)
	10分	<p>ワークショップ①「外国人がたくさん暮らし始めます」</p> <p>いいこと・期待することは? 心配なことは?</p> <p>個人作業 4分⇒ グループ内共有 ⇒カテゴリー</p>	付箋、A2
	3分	補足説明(新聞記事・ニュース画像)から世論を伝える	PP
	35分	<p>ワークショップ②「お隣さんは外国人:ペルソナ(人格)を作ってなりきってみよう」</p> <p>(1)外国人登場人物の設定(個人作業) 5分</p> <p>(2)グループ内で共有&外国人主人公の決定 5分</p> <p>(3)主人公をとりまく登場人物設定(グループ作業)10分 登場人物にイラストと名前を描くこと</p> <p>(4)彼らの「悩み」「痛み」のストーリーづくり</p> <p>(5)解決案「お助け隊」の提案 15分</p>	A4 赤シール カラーペン A2複数
	15分	3～4グループ発表(各2分)講師からのコメント	
	6分	<p>個人作業 ①「わたしが考える多文化なまち」〇〇なまち</p> <p>②「多様性ある社会に大切なこと」4つ挙げる</p>	A4それぞれ1枚
	6分	数人発表 講師まとめ	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の知識をベース(在留資格や国籍等)に人格を具体的に作りあげ、なりきることで、自分の周りの外国人を意識化し、彼らの背景や思いを「想像」する力を持つことができた。 ・こうあってほしい社会(コンセプト)のため誰が何をどうやって、そして私は? という流れを作った。 	
課題	90分、70名という環境の中でワークショップを行うのは時間的にも空間的にも難しかった。ペルソナを設けてストーリーを作る時間をかけ、ロールプレイまで完成させると、立場によって様々な考え方があること、せめぎ合いを乗り越えることが多様性社会に必要であることが体験できたかと思う。		
備考	70名によるワークショップ。12グループ(6人) 各グループ長机1本 模造紙代わりにA2用紙を使用		

環境問題～私たちにできること～

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	川合 孝弥
対象	高校2年生(32名)	実践日	2018年10月
実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ	時間数	5時間(50分×5)
ねらい	<p>テーマ【環境問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とパラグアイの同一性に気づく、つながりを理解する。 ・パラグアイや世界の環境に関する課題について、共に考え、共に越える。 ・環境問題に対して、自分たちにできることは何か考え、行動する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>パラグアイに肯定的に出会う</p> <p>① 仲間探し【アイスブレイキング】</p> <p>② パラグアイの基礎情報(クイズ形式)</p> <p>③ 日本とのつながり</p> <p>ゴマ、日系社会について知る。</p> <p>④ パラグアイが抱える課題【フォトランゲージ】</p> <p>カテウラ地区のゴミ問題やカテウラ音楽団について知る。</p>	現地教材 パワーポイント
	2～4	<p>世界の環境問題</p> <p>① 世界の環境問題を知る。【ジグソー法】</p> <p>4人1グループに分かれ、海洋ゴミ、森林伐採、地球温暖化、フードマイルについての記事をそれぞれ読む。</p> <p>② 原因を考える【因果関係図】</p> <p>上記のテーマから自分たちが調べたいテーマを一つ選び、原因を考える。</p> <p>③ 原因を解決するために自分たちに何をできるかを考え、模造紙にまとめる。また、原稿を書く。</p>	写真 資料 ペン 模造紙
	5	<p>発表</p> <p>生徒全員の前でプレゼンテーションを実施する。生徒は評価シートに基づいて評価する。</p>	模造紙 評価シート
成果	教科書の内容とつながりを持たせながら、日本とパラグアイの同一性に気づくことができた。また、環境問題に対して他人事ではなく、自分事として捉えることができた。さらに、さまざまな参加型手法を通して、自分たちに何ができるかを考え、発表することができた。		
課題	すべての言語活動を英語で行うことができるとさらに良かった。今回は環境問題をテーマとしたが、語学力以上に背景知識があることが大事であると思った。		
備考	選択科目である異文化理解では、映画「クロスロード」を鑑賞し、青年海外協力隊の活動を知った。また、映画を通じて印象に残ったことを共有した。		

地球の課題と SDGs

所属	公益財団法人名古屋国際センター	実践者	川口 徹
対象	愛知大学 大学生 (80 名)	実践日	2018 年 10 月 9 日
実践教科	総合科目 8 「現場の視点から考える国際協力、多文化共生」	時間数	1 コマ 1.5 時間
ねらい	テーマ【相互依存・地球市民】 ・「地球の課題と SDGs」について、自分との関係から知る・気づく。 ・翌週以降に続く、「行動する」ための講義につなげる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>①イントロダクション:先週までの復習・今日の目標・今日の流れ 確認</p> <p>②アイスブレイク:グループで自己紹介・リーダー決め</p> <p>③WS 世界とわたしのつながり</p> <p>(1) 好きな食べ物の材料がどこから来ているのかを書き出す</p> <p>(2) 発表・解説</p> <p>④WS 『地球の課題をキャッチ』</p> <p>(1) 森林伐採に関する配布資料を読む</p> <p>(2) 前後の人(2 人 or 3 人)と共有</p> <p>(3) 発表・解説(森林伐採への加担)</p> <p>⑤WS 国際貢献・国際協力をする理由</p> <p>(1) なぜ国際貢献・国際協力をする必要があるのかを書き出す</p> <p>(2) 全体共有</p> <p>(3) 発表・解説(相互依存・地球市民)</p> <p>⑥SDGs</p> <p>(1) 説明</p> <p>(2) コバルト争奪戦に関する動画を見る</p> <p>(3) 解説(環境・経済・社会のバランス)</p> <p>⑦WS ひとつこと多い張り紙作成</p> <p>(1) グループで考えて作成</p> <p>(2) 発表</p> <p>⑧まとめとリアクションペーパー記入</p>	<p>席移動を実施</p> <p>事前に配布した資料使用</p> <p>事前に配布した資料使用</p> <p>配布 ・模造紙 (半分サイズ) ・ポストイット ・マッキー</p>
成果	目標としていた「地球の課題について、自分はそれにどのように関わっているのか、その課題に対してどのように動いて解決していくのかを考えることが大切であることが分かった」という感想が多かった。		
課題	一部の学生のみ意見を聞くことができた。一人でも多くの学生が意見を述べられるように、機会を設定していきたい。		
備考	【使用教材】公益財団法人愛知県国際交流協会「課題シート インドネシア」『国際理解教育教材「わたしたちの地球と未来」』、国際協力 NGO センター「SDG 理解促進ツールひとつこと多い張り紙」		

ウガンダとのアートマイルを通して、世界を変える担い手に！

13

所属	名古屋市立丸の内中学校	実践者	河村 有紀
対象	中学校1年生（35名）	実践日	2018年5月～12月
実践教科	総合的な学習の時間・英語科	時間数	20時間
ねらい	<p>テーマ【多様な人々と関わる力を育て、多文化共生を実行できる生徒を育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して参加型の手法を活用し、何事も建設的に話し合いができる集団を形成する ・多様な人や世界と肯定的に出会い、多様性需要力と共感力を身に付ける ・地球的課題の現状と原因を理解し、自分にできることを考え、行動する力を身に付ける 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～2	多様な暮らしと価値観に気付こう ①写真を見て気付いたことを話す【フォトランゲージ】 ②グループで5枚の家族写真にランキングをつける【ランキング】	「世界の食卓」
	3～6	私たちのふるさとの魅力を伝えよう（アートマイル前半） ①学校紹介ビデオの作成 ②6つのテーマごとに紹介したい写真選びと原稿づくり ③ウガンダ(KabalegaSS)とのスカイプ交流	Japan Art Mile
	7～9	地球的課題が自分の生活と関わりがあることに気づき、行動を起こそう ①地球環境クイズ ②西日本豪雨災害の原因を考える【因果関係図】 ③SDGsを達成するために、自分にできることを発表する【決意表明】	夏休みの課題
	10～11 12	多様な人々がhappyに暮らせる街を提案しよう【イメージ図】 「世界食糧デイ」全校でアクションを起こそう	
	13～17	ウガンダの仲間と話し合いを重ね、絵を描こう(アートマイル後半) ①世界に訴えたいメッセージを考える【ブレインストーミング】 ②メッセージに合ったデザインを考える【イメージ図】 ③ウガンダとスカイプ交流をしながら、メッセージと原画を決定 ④アートマイルの制作	
	18～20	ウガンダの仲間が喜ぶ贈り物を送ろう ①ウガンダの仲間が抱える課題を考える ②相手が喜ぶ贈り物について話し合う ③全校生徒に向けてウガンダの現状を報告し、募金を募る ④贈り物作成、購入、郵送	
成果	<p>生徒からの意見や提案を尊重しながら、実践を進めたため、達成感があったようである。保護者からの評判も良かった。また、「学校生活をよりよくするための提案」も主体的に行うようになった。毎回参加型で進めたため、話し合い活動は盛り上がり、情報発信能力も向上した。</p>		
課題	<p>「アートマイル」に継続的に参加するためには、学校のネット環境と費用の捻出が課題である。</p>		
備考	<p>完成した絵は、3月中にウガンダより本校に郵送される予定である。なお、「2019年度アートマイル国際協働学習プロジェクト」参加校の募集が開始された。</p>		

「わたし」「あなた」「みんな」に関わる力を育てるピア・サポート

14

所属	麗澤瑞浪中学・高等学校	実践者	北澤 泰子
対象	高校1年生の寮生(15名)	実践日	2018年4月～10月
実践教科	女子寮のピア・サポート研修	時間数	4回講座、計4時間
ねらい	<p>テーマ【コミュニケーション／共生／課題解決／対立解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解、他者理解といった、コミュニケーションの基本となる体験を通して、お互いを尊重し、信頼関係を築き、協力し合える関係をつくる。 ・「仲間を支援する(支える)活動」である「ピア・サポート」を、寮生活を通して自ら行動できるように意識し、そのためのスキルをつける。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>4月「新しい仲間のことを知ろう！」</p> <p>日本全国から生徒が集まり、寮生活がスタートしました。研修を通して緊張や不安を解消し、仲間づくりのきっかけをつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク「キャッチ!」、輪になって「四マス自己紹介」 ・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ①寮生活、学校生活で驚いたこと、困ったこと ②高校生活でやってみたいこと、楽しみにしていること 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4コピー用紙 ・半模造紙 ・ふせん ・サインペン
	2	<p>6月「相手の気持ちの背景を考えよう！」</p> <p>寮生活にも少し慣れてきました。同級生、上級生とのコミュニケーションの取り方を、実際の場面を想定してふりかえります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク インプロ(即興)「ワン・ワード」 ・グループワーク【ロールプレイ】 <ul style="list-style-type: none"> ①場面A:同級生編 ②場面B:上級生編 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の説明文 ・ワークシート
	3	<p>9月「悩み相談—いっしょに、課題解決をしよう！」</p> <p>人から相談、とくに課題の具体的なサポートを求めているときに、解決方法の選択肢を増やすサポート(相談の乗り方)の方法を体験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【ブレンストーミング】新しい寮を建てるとしたら、どんな寮にしたいか? ・グループワーク「課題解決の5つのステップ」に沿った悩み相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・資料
	4	<p>10月「もめごと発生—仲介者になって対立解決をしよう！」</p> <p>もめごと(けんか)を当事者同士で解決できるよう、サポートする手法(メディエーション)を体験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク「WIN-WIN 腕相撲」と解説 ・グループワーク【ロールプレイ】 <ul style="list-style-type: none"> A、B、メディエーター役を決め、メディエーションの台本に沿って対立する A、B双方の言い分をよく聞き、課題解決につなげます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディエーション練習台本
成果	<p>参加型の手法を使って、人間関係形成の知識を学び、行動するきっかけ作りとなるように意識した。実際にやってみようという意欲が示されたり、過去の経験をふりかえる機会となったという感想があった。高校2年生向けにも、2、3、4について、学年に合わせた内容で研修を行った。</p>		
課題	<p>今年度は寮生活で必要となるピア・サポートのスキルトレーニングを中心に、プログラムを組み立てたので、さらに自分達のまわりでおきていることが、SDGsのゴールに関わることに気づき、行動につなげていけるような内容に発展させていきたい。</p>		
備考	<p>日本ピア・サポート学会編(2018)「トレーナー養成標準プログラム テキストブック ver.3」 特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター編(2018)「よりよい未来をともに学び・ともに創るファンリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編 -他者に関わる力を育もう-</p>		

オープン・スペース・テクノロジーによる国際理解教育の実践

15

所属	静岡県立藤枝北高等学校		実践者	小林 祐輝													
対象	中学校1年生～高校2年生（44名）		実践日	2018年12月22日													
講座名	グローバルリーダを目指そう！		時間数	6時間（10:00～16:00）													
ねらい	<p>テーマ【多様性、コミュニケーション、異文化理解、オープン・スペース・テクノロジー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々とともにより良い社会を築いていくために自分が何をできるのか考える ・参加者が自主性を発揮する ・いろいろな人と出会い、考えたことを行動に移す 																
実践内容	2時間	<p>【午前の部】多様性ってなんだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク【壁の4隅】 ・マイノリティとマジョリティ ・母の日に何をやる！？ ・性別をこえて生きる私たちにできること 			<p>午前の部は別の教員が実施。私が実施したのは午後の部である。</p> <p>午後からは地域の外国籍住民、日本語学校生徒10名がゲストとして参加した。</p> <p>この他にもインドネシアの歌を教える講座が自主的に開かれた</p> <p>【道具】 マジック、紙、ベル</p> <p>【参考文献】 オープン・スペース・テクノロジー 著ハリソン・オーエン</p>												
	30分	<p>【午後の部】多様な人々とともにより良い社会を築いていくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍住民の紹介 （インドネシア、ミャンマー、ベトナム、ロシア、ペルー） 															
	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン・スペース・テクノロジーの説明及び3×4プログラムの議題だし 															
	90分	<ul style="list-style-type: none"> ・3×4プログラムの実施（テーマ：いろいろな人と出会う） <p>参加者から上がった以下の議題を30分間隔で4ヶ所で実施した</p> <table border="1"> <tr> <td>出身国と日本の違い</td> <td>英語 Skill up! 英語で雑談</td> <td>インドネシアのおどりをおしえたい</td> <td>日本の良い所 悪い所</td> </tr> <tr> <td>雑談</td> <td>日本ではやっている歌を教えてほしい</td> <td>その国独自の遊びについて</td> <td>習慣、日常生活について</td> </tr> <tr> <td>じゃんけんの違い</td> <td>スペイン語を教わりたい</td> <td>学校生活</td> <td>今年をふりかえろう&来年の抱負</td> </tr> </table>				出身国と日本の違い	英語 Skill up! 英語で雑談	インドネシアのおどりをおしえたい	日本の良い所 悪い所	雑談	日本ではやっている歌を教えてほしい	その国独自の遊びについて	習慣、日常生活について	じゃんけんの違い	スペイン語を教わりたい	学校生活	今年をふりかえろう&来年の抱負
	出身国と日本の違い	英語 Skill up! 英語で雑談	インドネシアのおどりをおしえたい	日本の良い所 悪い所													
雑談	日本ではやっている歌を教えてほしい	その国独自の遊びについて	習慣、日常生活について														
じゃんけんの違い	スペイン語を教わりたい	学校生活	今年をふりかえろう&来年の抱負														
40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり <p>「学んだこと・感想」と「明日から実行したいこと」を参加者が車座になって共有した</p>																
成果	<p>参加者自身が発信した議題なので、参加者は自主的に議題を運営し、ファシリテーターが思いもしない深い対話も参加者から出てきた。参加者が自主性を発揮したため学びも深く、異文化との肯定的な出会いをとおして、多様な人々とどう社会に参画していくか考えることが出来た。</p>																
課題	<p>参加者の自主性にゆだねる手法のため、ファシリテーターが介入すると自主性を損なうことになり、はじまってしまうとファシリテーターは介入できない。したがって、ファシリテーターが事前の準備としてテーマの設定や会場のデザインなど、枠組みを適切に設定することの難しさを感じた。</p>																
備考	<p>オープン・スペース・テクノロジーとは、テーマに対して、参加者が議題を出しより、どこでどの話がされるのかがわかる掲示板を作成し、あとは運営を参加者にゆだねる手法である。</p>																

Sustainable Development Goals! ~今日からはじめるSDGs~

16

所属	愛知県津島市立東小学校	実践者	近藤 勝士
対象	小学校1・2・3・5・6年生(計250名)	実践日	2018年10月~12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	1クラスあたり1~3時間
ねらい	<p>テーマ【SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて興味をもち、資料を読み、共有する。 ・クイズを通して、日本以外の国と肯定的に出会い、相違点をみつける。 ・自分に何ができるかを考え、行動宣言をする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『SDGsについて知り、肯定的に出会う』</p> <p>① 一言自己紹介(自分の好きなこと・好きな色・行ってみたいところ)を通して、お互いを知る。【アイスブレイク】</p>	大型テレビ ノートPC パワーポイント資料 ペン(プロッキー) A4用紙(自己紹介)
2	<p>② 動画(ピコ太郎やよしもとなど)を視聴し、SDGsについて知り、SDGsに肯定的に出会う。</p>		
3	<p>◆『エチオピアクイズを通して、自分たちと相違点があることに気づく』</p> <p>③ エチオピアクイズ大会(個人・3択10問)を通して、みんなで楽しむ。(※全問正解できたらすごい!と伝えておく。【クイズ大会】)</p> <p>④ 正解数を確認しながら、正解数が多いからいいとか悪いとかではなく、日本との相違点、自分との相違点があり、それが自然なこと考える。</p>	大型テレビ ノートPC パワーポイント資料 ワークシート	
	<p>◆『エチオピアの写真をを通して、日本との相違点を考える』</p> <p>⑤ スライドで流れる写真を見ながら、日本との相違点をたくさん個人で書き出す。【リストアップ】</p> <p>⑥ 書きだした相違点をもとに、グループで対比表(似ているところ・違うところ)を作る。【対比表】</p> <p>⑦ ギャラリー方式で見合い、いいねと思った意見や自分たちにはなかった意見に☆印をつけ、グループに戻り、共有する。【ギャラリー方式】</p> <p>⑧ 違うところに注目し、あってよい違いに○、あってはいけない違いに×をつけ、あってはいけない違いが解決していかなければいけない課題だと知る。【対比表】</p>	大型テレビ ノートPC パワーポイント資料 模造紙(対比表) ペン(プロッキー)	
	<p>◆『SDGsについて資料を読み、内容を理解する』</p> <p>⑨ 資料(「私たちが目指す世界」)をグループ(4・5人)で読み(1人3つ or 4つを担当)、グループで要点を発表し合い、共有する。</p>	SDGs冊子	
	<p>◆『自分に何ができるかを考え、行動宣言する』</p> <p>⑩ A4の用紙を9つに区切り、「自分・仲間と・国」としてできることをそれぞれ3つずつ考え、書き、発表する。【できることビンゴ】</p> <p>⑪ 本時で気づいたことや感じたことを書き、振り返りを共有する。</p>	大型テレビ ノートPC パワーポイント資料 A4用紙(行動宣言) ペン(プロッキー)	
成果	・どの学年でも、SDGsに興味をもってもらい、実践の後日でも覚えている子が多数いた。		
課題	・継続した実践を行うことができなかったことや教員向けの実践も行えていないことが課題である。		
備考	・補欠の授業で入らせていただいたときにいつでも授業実践を行えるように、準備しておくといと感じた。		

SDGs ～未来を変えるのは“わたしたち”～

17

所属	特定非営利活動法人 Earth as Mother	実践者	坂口 朋寛
対象	大学生（社会人含む）10名	実践日	2018年11月21日
講座名	国際協力と地域のグローバル化	時間数	1.5時間
ねらい	<p>テーマ【地球・環境・SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の課題を自分事として気づき理解し、課題解決に向けた実践行動を考え、共有する。 ・意見を出しあい、話し合う、パートナーシップで課題を解決する。 ・人類が共有している有限な資産“地球：自然”の今を知り、生き方考え方を見直す。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p><開発教育ってなんだろ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開発教育の成り立ち」「ねらい」「何を目指しているのか」「何を学ぶのか(学習目標)」を知る。 <p><SDGs 5つのPってなんだろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つのP:「人間」「豊かさ」「地球」「平和」「パートナーシップ」を知る。 <p><地球からのSOS></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今までに行った事がある／行きたい場所」で“千年先まで残したい”、“「守りたい場所や風景は？」との問いに対して、「そこで感じた事、思ったこと、感動したこと」「国名、場所の名前」を書き出し、伝えあう。 【アイスブレイキング】 ・『小さな地球の大きな世界』より、地球からのSOSを写真で伝える。SDGsのwedding cake図を図示。地球の生命維持システムは、自然資本から成り立っていることを知る。ハーマン・デイリーの3原則を紹介。限りある地球資源に気付く。写真を通して、現実の地球、これから予測される危機を知る。 <p><地球の課題を自分事として理解する> 個人ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『SDGsを自分事化するツール』を使用し、“2030年描く未来やビジョン”を設定し、それらに関わる課題、そして具体的な解決手段を考える。 <p><パートナーシップで課題を解決する> グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“2030年描く未来やビジョン”を達成するために、みんなでアイデアを出し「できることマトリクス ①自分でできること ②仲間とできること③大学・地域でできること」を作成する。 【リストアップ】 ・他のグループの発表を聞き、アイデアを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・書籍「小さな地球の大きな世界」 ・ワークシート「SDGsおでんの作り方」 ・油性ペン ・模造紙(ポスター裏面代用)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学生さんの感想(抜粋)「17の目標について考えてみると自分たちで出来るものがたくさんあるのだと知れた。自分事としてとらえることが第一歩だと思った」「環境問題とは個人の意識の大人数による協力が解決への大きな鍵となると感じました」と気づきの感想を頂けた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークからグループワークへのつながり、流れの説明が不十分で“個人ワークの成果”を“グループワークの成果”へ落とし込みが十分にできなかった。 ・グループワークの時間をもう少し長くし、アイデアをより深め具体化する工夫を取り入れたい。 		
備考			

多文化共生の学校づくり ～ 学校を元気にする外国人生徒の力

所属	愛知県豊橋市立東陽中学校	実践者	櫻井 美香
対象	中学校2年生（160名）	実践日	2018年12月～2月
実践教科	（総合的な学習の時間など）	時間数	12時間
ねらい	<p>テーマ【多様性共生, 異文化理解, 人権, コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に存在する外国人生徒と日本人生徒が国籍や文化を越えて, かかわる。 ・東陽中学校の課題を, 外国人と日本人生徒ともに解決していくためのプロジェクトを考える。 ・外国人生徒が, 自己有用感, 他者貢献の気持ちを高め, 学校に意欲を持つ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	<p>プレ</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p>	<p>・外国人生徒が文化祭で国際理解の教室を企画。ブラジルの文化カポエイラを披露。</p> <p>・経緯を, ユネスコの動画コンテストに応募し, ユネスコフォーラムでプレゼン。</p> <p>・日系人である自分たちのことを, ポルトガル語のピーチコンテストで, 発表。</p> <p>・地域の公民館で, 独自にカポエイラの練習を重ね, 地域のイベントなどに参加。</p> <p>どうして日本に, こんなに外国人が出稼ぎにきているの? 最近の現状を知る。 貿易ゲームをし, 経済格差の起こる原因や海外移住者が増えている現状について考える。</p> <p>もし, 自分がブラジルに突然転校することになったら? 対比表を用いて, 楽しいことと不安なことを, グループごとに書き出す。 その後, 外国人のためにどんな支援があったらいいか考える。</p> <p>小牧市で起きたエルクラノ君の事件について 愛知県小牧市で起こったブラジル人児童の殺人事件について問題の背景を知る。 「もしこんな支援や配慮があったら…」を考える。</p> <p>日本の学校で困っている転校生ジェニーさんの事例を考えよう。 ロールプレイを通して, 日本の学校に転校してきたジェニーの事例を通して, 言葉や文化の分からない当事者の気持ちを知り, どんな支援ができるか考える。</p> <p>ポルトガル語で授業を受けてみよう! ブラジル人生徒に教師役をやらせ, 日本人は授業を受ける。 どんな場面で, どう困るのか, 東陽中に転校してきた外国人の気持ちを体験する。</p> <p>多文化共生のための活動をしている人の話を聞こう! 文化祭でブラジルのスポーツカポエイラ教室を開いた生徒の発表, 地域で日本語サポート教室を開いているNPOスタッフの方の話を聞く。</p> <p>外国人って何? 「地域や学校を元気にする外国人の力」というTV番組を視聴し, そこからヒントを得て, 自分たちに何ができるか考える。</p> <p>グループで, 私たちに何ができるのか, 話しあおう。</p> <p>学校探検をし, すでに共生できているところ, 改善点を挙げ, 解決策を考える</p> <p>グループで, 私たちに何ができるのか, プロジェクトを作ろう。</p> <p>地域でサポートをしている人達を呼び, 発表会を行おう!</p>	<p>※ 当事者である外国人生徒の活用</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人生徒…校内の外国人生徒の困り感に興味関心を持ち, 東陽中の校区や学校の中で, 何か行動したい, という気持ちが高まった。 ・外国人生徒…自分たちの国に誇りを持ち, 自信が持てるようになった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2・3 学年で, 各 10 時間程度, 総合的な学習の時間に, 「国際理解教育」を行っているのだが, 学年間で, 教材などの情報の共有ができていないところがある。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は, 全校生徒の16%が外国人生徒(ブラジル, ペルー, フィリピン, ボリビア, パラグアイ)です。 		

みんなで考える、みんなの地球

所属	三重県桑名立久米小学校	実践者	清水 歩美
対象	小学校6年生(32名)	実践日	2018年11月～2019年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	7時間
ねらい	<p>テーマ【人権、共生、教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国に興味を持ち、言葉や文化を肯定的に受け入れることができる。 ・世界で起きている様々な問題に気づき、課題意識をもつことができる。 ・同じ地球で暮らす一員として、自分に何ができるのかを考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ちがいのちがい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」「どちらともいえないちがい」について考える。 	5つの場面が書かれたプリント
	2	<p>◆世界を知ろう ～パラグアイの文化・人から感じる外国の魅力～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界クイズ(国旗、名所、人口など)やパラグアイの紹介(文化、国民性、学校、活躍する日本人など)を通して世界を知ることのおもしろさを感じる。 	パワーポイント資料 パラグアイの物(ニャンドゥティ、テレレ等)
	3、4	<p>◆世界がもし32人の村だったら？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレーキング(外国について知っていること) ・世界の全体を捉える。(世界の人口、男女・年齢の割合、大陸分布、所得の分配) ・「所得が多いのはだれ？」では、世界の不平等な配当に気づき、これからどうあるべきか自分なりの感想を持つ。 	白地図 人数分のペン 役割カード 大陸用リボン 所得を表したいちごの模型
	5	<p>◆文字が読めないと、どうなるの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字が読めないとどんなことになるか予想する。 ・表記が分からず薬が買えない場面から、実際の不便さを体験する。 <p>【ロールプレイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字が読めないとどんなことに影響を及ぼすのか考え、学校教育の大切さを感じる。【派生図】 	水 食塩水(毒の代用) 砂糖水(薬の代用) 模造紙 人数分のペン
	6、7	<p>◆SDGsについて知り、自分たちの地球について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて知る。 ・班で特に重要だと思うものを9つ選び、ランキング付けをする。 <p>【ダイヤモンドランキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が最も興味のある項目を1つ選び、その理由を伝える。 ・自分たちがこれからできることを考える。【ブレインストーミング】 	SDGsカード 模造紙 人数分のペン
	成果	<p>人権学習の後に(一部並行して)この授業を行ったため、世界の不平等な現状に気付くのが早く、そこから考えられる疑問や次に起こりうる課題が子ども達の言葉で多く出たことは成果であった。世界に目を向け、「もっと知りたい」と興味を持って毎時間過ごす子ども達の姿から、授業を行った意味はあったと感じた。</p>	
課題	<p>時間の関係でSDGsを扱う時間が少なく、押さえが十分でなかったことが課題であった。調べ学習などを取り入れながら進めることで、さらに児童たちの主体的な学びにつながったのではないかと感じた。</p>		
備考			

虹～無限の色でみんなスマイル～

所属	岐阜県海津市立下多度小学校	実践者	相山 紗希
対象	小学校5年生（13名）	実践日	2019年9月～12月
実践教科	国語、社会、外国語、学級活動	時間数	6時間
ねらい	<p>テーマ【人権(互いに尊重し合う)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの文化や食を通じた世界とのつながりを知ることで、「世界の中の自分」に気付く。 ・自分とは異なる価値観や背景をもつ人たちの存在を通して、様々な人と気持ちよく過ごすために自分にできることを考えて伝え合う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆パラグアイってこんな国！〈外国の文化に親しむ〉 ・パラグアイムービーの鑑賞(アイスプレイキング) ・パラグアイクイズラリー【クイズ】 <p>→日本から遠く離れたパラグアイの文化や生活などを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの動画 ・パラグアイの写真 ・パワーポイント ・クイズ、解答用紙
	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本と世界の良さ見付け〈よりよい人間関係の形成〉 ・クイズにはなかったパラグアイの良さの情報提供【エピソードカード】 ・日本の良さとパラグアイの良さ【カード式分類法】 <p>→日本にも世界にもたくさん良さがあり、共通点もあることに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先での体験談 ・付箋、模造紙、マーカー
	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆食べ物のルーツをたどろう〈食料自給率〉 ・半年後の夕食を考えよう【イメージ図】 <p>→食料自給率の課題と世界とのつながりに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率表H29 ・5年生社会下(東京書籍) ・A4用紙、マーカー
	4	<ul style="list-style-type: none"> ◆ようこそ転入生〈よりよい人間関係の形成〉 ・ミッションゲーム【ロールプレイ】【シミュレーション】 <p>→ミッションカードに提示した状況の子が転入してきたらどのように関わったらよいか実際にやってみることで、様々な人とのよりよい関わり方を模索する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションカード
	5	<ul style="list-style-type: none"> ◆気持ちよく過ごすために〈自分の生活を見つめて意見をもつ〉 ・わたしたちにできること【ブレンストーミング】【できることビンゴ】 ・自分にできること【行動宣言】 <p>→具体的に何ができるのか意見を出し合い考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生国語(光村図書) ・ビンゴ表、宣言用紙、マーカー ・JICA「どうなってるの？世界と日本」
	6	<ul style="list-style-type: none"> ◆明日をつくるわたしたち〈意見文〉 ・意見文の作成「世界は(日本は)くらしやすいのだろうか」 <p>→自分の考えを整理し、考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA「国際理解教育実践資料集」
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に対するネガティブなイメージをもつ児童やパラグアイというなじみのない国に一步引いてしまう児童がいる中で、クイズに興味をもつことをはじめ、良さや食など世界とのつながりを見出す児童がいたこと。 ・様々な人との生活を考える時間を設定することで、自分にも他者にもよりよくらしについて見つめる機会をつくれたこと。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階や思考の流れを意識し、もう少しテーマを絞り丁寧にプログラム構成する必要がある。 ・対象児童を少しでも増やすために、他学年との連携や出張授業など積極的に働きかけたい。そのためにも、各学年の学習内容とのつながりや系統性を考えて児童の合う内容を精査する必要がある。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA「どうなってるの？世界と日本第二版」、「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」 		

わたしが見つけた SDGs !!

21

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	須古井 京子	
対象	中学校3年生女子(75名)	実践日	2018年11月~12月	
実践教科	保健体育科(保健)	時間数	8時間	
ねらい	<p>テーマ【健康 SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の学習内容が、SDGsに繋がっていることに気づく。 ・教科書の学習内容から、グローバルな視点で「健康で豊かに生きられる世界」を考える。 ・SDGsと自分との繋がりに気づき、生活の中で自分ができることを考え、実行する。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p><世界のエイズ感染の現状を知ろう!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズのホント・ウソクイズをやる。 ・世界のエイズ感染の現状を知る。 ・エイズに対して偏見をもった社会でいると… <p>【派生図】</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・水性ペン ・模造紙 ・油性ペン 	
	2	<p><世界から感染症を撲滅させるために必要なことを考えよう!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関するクイズをする。 ・世界の感染症の現状を知り、撲滅のための取組を考える。 <p>【リストアップ】</p>		
	3	<p><母子健康手帳を世界中に広めよう!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠、出産、育児に関わる日本と世界の違いに気づく。 ・日本発祥の「母子健康手帳」の役割と重要性について知る。 ・「母子健康手帳」を世界に広める取組を知り、その意義を考える。 <p>【フォトランゲージ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳 ・JICA 広報誌「mundi」 	
	4、5	<p><保健学習とSDGsとの繋がりを発見しよう!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元「健康な生活と病気の予防」とSDGsの17の目標にリンクするものを探す。【リストアップ】 ・どのようなことが、SDGsに繋がっているかを話し合う。 <p>【ブレーンストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのグループの課題とテーマを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子「わたしたちが目指す世界」 ・ホワイトボード ・水性ペン ・PC・パワーポイント 	
	6、7	<p><「わたしが見つけたSDGs!!」に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プレゼンの約束」に沿って、グループで活動する。 ・プレゼンの通し練習をし、完成度を高める。【グループワーク】 		
	8	<p><「わたしが見つけたSDGs!!」プレゼンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に、プレゼン(5,6分)をする。 ・他のグループのプレゼンを聞いて、評価し、アドバイスカードを書く。 ・プレゼンを通して、「わたしが見つけたSDGs!!」のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ ・PC ・パワーポイント 	
	成果	<p>教科横断型を目指した実践をすることができた。本学年では、総合的な学習の時間に、国際理解学習をすすめていたので、3年生ではSDGsを軸として、国語、理科、美術、保健体育で取り組んだ。総合で学んだ国際理解(SDGs)がいろいろな教科と繋がっているのだと実感できた生徒が多かった。</p>		
	課題	<p>初めて教科横断型を意識して取り組んだが、今後は、事前に教科担当で話し合い、年間計画に組み入れて実践を定着させていきたい。生徒たちが、より興味をもち、実践していけるような授業を工夫したい。</p>		
備考	<p>どの教科においても、「国際理解教育」という視点で参加型の授業に取り組むことは「主体的・対話的で深い学び」に繋がるひとつの方法だと実感した。</p>			

世界へ旅に出掛けよう

所属	愛知県名古屋立滝川小学校	実践者	高橋 泉名
対象	小学校5年生（36名）	実践日	2018年9月～2019年2月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	9時間
ねらい	テーマ【「文化交流」「多文化共生」「参加・協力」】 ・ 多様な価値観や文化を肯定的に捉え、世界に関心をもつことができる。 ・ 自ら知ろうと行動し、多面的に物事を見ることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～3	世界と肯定的に出会おう。 ・ パラグアイの友達の大切な物に関するビンゴゲームを行う。 ・ パラグアイと聞いて、イメージするパラグアイを作文に書き表す。 【ブレンストーミング】 ・ パラグアイに関するものと出会い、自分のイメージと実際の様子が同じであったかを知り、日本との違いを楽しむ。【フォトランゲージ】【クイズ】 ・ パラグアイについての写真や物を見て感じたことを、パラグアイの生活の様子や文化をまとめることで、世界の多様な価値観を知る。	・パラグアイBOX ・パラグアイの子どもがかいた「大切なものの絵」 ・パラグアイの写真
	4・5	世界の課題に目を向けよう。 ・ カテウラ地区について知ったことや、新聞やニュース、社会科の学習で聞いたことを基にして、自分自身が知っている世界の課題について確認し、世界の課題についてさらに考えを広げるために、テーマを決める。 【フォトランゲージ】課題の設定 ・ 自分で考えたテーマについて、資料を用いて調べ学習を行うなかで、その課題の背景について考え、自分たちと無関係でないことに気付く。 情報の収集 整理・分析	・資料 「世界の水問題」 「世界の子どもたち」 「砂漠化する惑星」
	6・7	課題解決の方法を知ろう。 ・ 資料を活用して知った課題の原因から、その課題を解決するための身近で行動できる方法を考えたり、調べたりする。情報の収集 整理・分析	
	8・9	自分にできることを考え、発信しよう。 ・ 自分が調べた課題の解決に向けて、自分自身で決めたテーマに沿った資料作りを行い、課題・原因・その課題解決のために自分自身ができることの3点について発表会を行う。まとめ・表現	
成果	○ 初めは世界の課題は自分たちの力では解決することができないと思う意見が多かったが、学習を通して、一人だけでなく、みんなで力を合わせれば大きな力が発揮でき、課題を解決するためのきっかけを作ることができるかもしれないという意見が増えたことから、実践前と比べると、課題解決方法を多面的に考えることができるようになった。		
課題	○ 世界の文化や暮らしを知る学習の際に、五感で感じることでできる教材をさらに増やすと、児童の意欲がより高まったと考える。 ○ 課題を解決するための方法を実践し、その実践を振り返る活動を十分に行うことができなかった。		
備考	○ 実践を通して、インターネットで調べ学習をしたり、発表会をしたりしたことで、情報モラルを守ることの大切さや、得た情報をまとめる力、相手に簡潔に意見を伝える力を伸ばすことができたと思う。		

より良い未来のためにできること～世界の現状を知ることから～

23

所属	大阪府大東市立北条中学校	実践者	高山 裕里
対象	中学校2年生(63名)	実践日	2018年11月～12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	12時間
ねらい	<p>テーマ【共生・貧困・人権・フェアトレード・SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会・地域社会をふり返り、自分たちが生きる社会の現状と課題を知る。 ・フェアトレード商品を通して、貧困問題の背景や原因に気づく。 ・SDGsについて調べ、実現に向けて自ら考え行動する力を育成する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	★写真を通して世界の現状を知ろう【フォトランゲージ】 【ポスターセッション式交流】	全授業でパワーポイントスライドを使用
	2	★わたしと世界のつながり ・今週お世話になったもの【リストアップ】 ・クイズなるほどザ・ワールド ・映像「カカオ農園で働き続ける兄弟」	『どうなってるの？世界と日本』(JICA) 映像『カカオ農園で働き続ける兄弟』
	3-4	★青年海外協力隊の方の話を知ろう 西アフリカ(ベナン)で青年海外協力隊として活躍された方のお話を聞く	JICA 国際協力出前講座
	5	★チョコレートの真実 カカオ農園での貧困から起こるさまざまな影響を体験する。 ・チョコレートクイズ ・体験！お買い物ゲーム① ガーナの家族と日本の家族【ロールプレイ】	『おいしいチョコレートの真実』(ACE)
	6	★貧困の悪循環を断ち切るために ・フェアトレードと普通のチョコレートの食べ比べ ・お買い物ゲーム② カカオの価格が下がると…《スライドで解説》 ・貧困の悪循環…カードを並べると負の連鎖に気づく ・悪循環を打ち切るためにできること【ランキング形式】	『国際理解教育実践資料集』(JICA) 『3分でわかるフェアトレード』(FAIRTRADE JAPAN)
	7	★SDGsって何？ ・映像「世界中に広めよう持続可能な開発目標」 ・SDGsカード 分担して読みとる ・SDGsとわたしのつながり(SDGs ワークシート)	『私たちが目指す世界』(PLAN)
	8-11	★SDGsプロジェクト 各班1テーマ調べる(①ターゲット②課題③対策④写真)→校内掲示	『未来を変える目標SDGs アイデアブック』(Think the Earth)
	12	★SDGsプレゼンテーション大会 調べたテーマについて発表 ・「より良い未来のためにできる3つのこと」	
	成果	写真や映像を通して、世界の現状を知り、課題に気づき、解決に必要なことを考えることができた。普段当たり前前に生活できていることが、当たり前ではないと気づき、普段の生活に感謝し、その中で何かできることはないかと考える姿が見られた。	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の総合学習としては実施期間が少し長い。⇒学期もしくは学年に分けて行う ・SDGs調べ学習では、教師が資料を準備したため、深い学びになっていない。⇒ネット環境・時間の工夫 		
備考	5・6時間目を研究発表として多くの先生方に見ていただいた。国際理解教育の例を示す機会を作ることができた。これからも続けていきたい。		

未来がよりよくあるために

所属	愛知県愛西市立八輪小学校	実践者	田口 亜紀子		
対象	小学校6年生(18名)	実践日	2018年12月～2019年1月		
実践教科	国語	時間数	9時間		
ねらい	<p>テーマ【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身近な環境から世界を取り巻く環境を知り、世界のつながりに気付く。 ・環境に関する現在の課題を知り、原因を考える。 ・未来がよりよくあるために、今の自分ができることを考える。 				
実践内容	回	プログラム	備考		
	1	<p>○ 世界の水事情(3時間)</p> <p>◆ 水と自分との関わりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水に関わる自分の思い出【アイスブレイキング】 ・日本人が1日に使う水の量を知ろう。【クイズ】 ・自分は何に水を使っているのか考えよう。【ポップコーン方式】 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～(JICA地球ひろば) ・出川澤部の見知らぬ二人が人生交換してみたら〇〇がわかった(CBCテレビ制作/TBS系全国11局ネット) ・環境なぜなぜ110番(学研サイエンスキッズ) ・砂漠化する惑星(JICA地球ひろば) ・国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～(JICA地球ひろば) 		
	2	<p>◆ ケニアで暮らす人の生活の様子を知ろう。(DVD視聴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の暮らしとの共通点と相違点を伝え合おう。(グループ) 			
	3	<p>◆ 世界の水事情 ウソ？ホント？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12の内容が事実かそうでないかに分ける。 ・12の事実の原因を考える。 			
	4～6	<p>○ 地球環境の現状を知ろう。(4時間)</p> <p>◆ 自分が気になる環境問題について調べてまとめよう。(グループ)</p> <p>「日本で使用している水の量(食品と水の関係)」 「森のはたらき」「森林破壊とは」「森がなくなるとどうなる？」 「温暖化の影響」「砂漠化について」</p>			
	7	<p>◆ 発表を聞いて、自分とのつながりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを発表する。【ポスターセッション】 ・自分に関わることに赤シール、自分が原因を作っていることに青シールを貼る。 			
	8	<p>○ 未来をよりよくするために(2時間)</p> <p>◆ よりよい未来像について意見を出し合う。【ブレインストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班と考えを共有する。【ギャラリー方式】 			
	9	<p>◆ よりよい未来にするために必要なこと、できることを書き出す。【ブレインストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班と考えを共有する。【ギャラリー方式】 <p>◆ 未来をよりよくするための行動宣言をする。</p>			
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・環境破壊が進んでいることは理解していても、自分とは無関係のことだと思っていた児童が、自分も環境破壊の原因の一端を担っていることに気付くことができた。 ・「よりよい未来」の具体的なイメージをもって、自分にできることを考えることができた。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関するいくつかの課題を知り、自分自身の行動が環境に影響することも理解できたが、今後、持続的に行動していくための意識の継続や手立てに課題が残った。 			
備考					

タロウ先生になってみよう！～多文化共生～

所属	愛知県西尾市立一色中学校	実践者	塚本 裕孝
対象	中学校2年生(40名)	実践日	2019年1月
実践教科	英語	時間数	1時間
ねらい	<p>テーマ【肯定的に出会う:多様性、共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に来ている外国の人と肯定的に出会い、日本とのつながりに気づくことができる。 ・その先生の出身国と肯定的に出会い、関心をもつことができる。 ・外国と日本では、物の見方が違うことに気づくことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>① なりきり自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親がアメリカ人、母親が日本人であるタロウ先生について、ブレインストーミングする。 →4月に自己紹介したことやこれまでの関わりでタロウ先生について知っていることを思い出す。 ・ブレインストーミングした情報をもとに、タロウ先生になりきって英語で自己紹介する。 <p>② タロウ先生の出身国であるアメリカについて考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループになって、アメリカについてブレインストーミングをする。 →アメリカについて知っている情報を共有化する。 ・アメリカについてのタロウ先生の話聞いて、ブレインストーミングしたメモをふくらませる。 →アメリカについて肯定的に出会う。 ・グループでアメリカについて順位付けをする。 <p>③ イチローの気持ちを考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチローがメジャー通算3000本安打を達成した後に同僚だったゴードン選手とハグしている写真を見て、イチローの気持ちを考える。 →国籍や人種、肌の色などに関係なく、1人の人間として尊重されるアメリカの価値観を知る。 <p>④ タロウ先生の話聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、自分は外国人だが、アメリカでは自分がアジア人であり、日本人だと認識されているという話を聴く。 →日本とは価値観が違うことに気づくことができる。外国人と共生していくためのヒントを得ることができる。 	<p>ワークシート</p> <p>写真 パワーポイント</p> <p>写真 パワーポイント</p> <p>ワークシート</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に住んでいる外国人の気持ちを理解することができた。 ・見かけだけで外国人と判断してはいけないことに気づいた。 ・日本では外国人であると認識させる人が、アメリカでは日本人と認識されることに驚いた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を1時間しかとることができなかつたので、考えを深めることができなかつた。大阪なおみ選手とも関連付けて、さらに発展させる授業を展開できるし、現在、アメリカで起きている移民排斥の動きまで考えることができれば、理想だと思った。 		
備考			

緑のプログラム～自然とわたしたちのつながり～

所属	オルタナティブスクールあいち惟の森	実践者	富塚 裕美
対象	小学校1年～中学校1年生	実践日	2018年10月～1月
実践教科	分野別学習	時間数	33時間
ねらい	<p>テーマ【環境・共生・生物多様性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生き物とふれあい、体験を通して自然を楽しむ。 ・自分に合った表現方法で、環境について考えたことを周りと共有する。 ・人と自然とのつながりについて学び、自然の大切さを考え行動できるようになる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～12	<p>○身近な植物から生まれるストーリー</p> <p>※私たちが自然界を理解しようとする方法には多くの方法があることを学ぶ。</p> <p>【植物の生きざまを知る】・植物採集と植物あてクイズ・身近な草花カード対決(ゲーム)・植物の生き残り戦略と最強伝説とは</p> <p>【植物のからだ】・野菜や雑草から色素をとり出す・葉脈を写しとる・葉から香水を作る</p> <p>【森のメッセージ】・森からの挑戦状(クイズ)、自然の中からアルファベットを探そう・オランウータン絶滅による代表者会議</p> <p>【文化遺産調査】・自分たちで自然を分類してみよう・自然物からお面を作る・自然界を表現する神話を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な草花「雑草」のヒミツ(子供の科学サイエンスボックス) ・生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験(オライリー) ・GEMS プログラム 「文化遺産調査」 ・わたしたちの地球環境と天然資源②「森」(新日本出版社)
	13～21	<p>○ウォーターサイクルと生物とのつながり</p> <p>※持続可能な水資源について話し合い、自分たちでできることは何か考える</p> <p>【世界漁業会議】・魚の耳石を探す・魚の生息環境や生息地の喪失を知る・持続可能な漁業について話し合う</p> <p>【ウォーターサイクル】・水飲みオシッコ鳥を作る・水のしずくモバイルを作る・もしも私がしずくだったらゲーム・しずくの旅日記を書く</p> <p>【風水力発電をしよう】・電磁誘導のしくみ・ペットボトルで羽根作り・スプーン水力発電機を作る・ふりふり発電機を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水のみ鳥を作ろう！(琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌) ・エネルギーと社会(PLT 日本事務局 ERIC 国際理解教育センター) ・夢風車2(サイキット) ・親子でつくる自然エネルギー工作(大月書店)
	22～33	<p>○プロジェクトワイルド鳥編</p> <p>※野鳥をテーマにした活動を通して、人と自然とのつながりについて考える。</p> <p>【野鳥観察】・近所の池(濁池、勅使池)にいる鳥の観察</p> <p>【鳥に親しむ】・鳥チームのトリビアクイズ、小鳥のペーパークラフト・渡り鳥の飛距離を地図で調べてみよう・鳥と数学(ゲーム)・バードコール作り・聞きなしをしてみよう・波乱の旅路スゴロクバージョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトワイルド Project WILD BIRDS
成果	理科が身近な社会のあらゆる事象とつながっていることをなんとなく感じられたのではないと思う。また、実際に手足を動かして行う体験型の内容が多かったので、興味を持ち、足りないところは自ら工夫して、簡単には解決できないような問題にも一所懸命に取り組み考えようとしてくれた。		
課題	いつもアクティビティを詰め込みすぎて 1 つ1つの振り返りが不十分になってしまっていた。また、クイズやゲーム形式にしたことで、競うことに熱くなりすぎてしまったので、その後に落ち着いて考えたり話し合ったりする時間を多く取れなかった。		
備考	今後3月まで続けていく中で、身近な環境から地球全体の大きな環境まですべてが、私たちとつながっていて無関係ではないと感じられるようなアクティビティを加えていきたい。		

プラスチックごみから考える私たちの未来

所属	三重大学教育学部附属中学校	実践者	中垣 尚子
対象	中学校2年生（1年生～3年生）（140名）	実践日	2018年6月～12月
実践教科	英語・国際福祉活動部	時間数	2時間+放課後時間
ねらい	テーマ【環境】 ・小笠原諸島やウミガメについて知り、プラスチックごみの問題について考える ・持続可能な社会にするために環境問題の視点から何をすべきか考える		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	（中学2年生 英語の授業） 1. 教科書 P30、31の本文の内容を通して小笠原諸島とウミガメについて知る 読解問題を通して本文の内容を読解する 2. ウミガメを通して環境問題やプラスチック汚染についてパワーポイントで紹介する 3. 【派生図】プラスチックを使い続けたらどんなことが起こるか？ （班で取り組む） ・最も危険、何とかしないとイケないと思う問題を○で囲む 【動画】refuse the straw の活動を紹介する 【派生図】最も危険な問題について、自分たちにできることを考える 【宣言】自分にできることを宣言する&キャッチコピーを考える	教科書 ノート ワークシート プロジェクター パソコン ムービー B4用紙 CDラジカセ ペン
文化祭 にて	2	（中学1～3年生 英語の授業）※放課後使用 1. ウミガメを通して環境問題やプラスチック汚染についてパワーポイントで紹介する 2. 未来ジバンクなどの動画やテレビの映像を紹介する 3. プラスチックの環境汚染についてワークシートを使って考える 4. ① 生活の中で使用されているプラスチックにはどんなものがあるか？ ② このままプラスチックを使い続けることで起こる問題は何か？ ③ 使い捨てプラスチック削減に向け、どんな動きがあるか？ （1）日本の動きにはどんなものがあるか？（2）世界の動きにはどんなものがあるか？ ④ プラスチック削減に向けて自分たちができることは何？ それぞれのテーマについてグループ（クラスごとの縦割り）ごとに模造紙に書き出す 【回し読み】アイデアを書き足していく	プロジェクター パソコン ムービー ワークシート 模造紙 ペン
	5.	プラスチックごみに関する問題と削減に向けてできること（日本の動きと世界の動き）を全校生徒に紹介する 6. 【ギャラリー方式】【シールで投票】グループでまとめた模造紙を展示し、参加者に追加情報をペンで追加してもらったり、「4. ①生活の中で使用されているプラスチックにはどんなものがあるか？」の中で、なくてもよいと思うものにシールを貼ってもらったりした。 7. 【テレビ会議】アートマイルプロジェクトを通して交流しているサウジアラビアの学校に自分たちが調べた内容について発表した。 8. 【絵でメッセージを発信】プラスチックの削減に向けて、持続可能なよりよい地球にしていこうというメッセージを込めた絵をサウジアラビアの学校と共同作成している。	プロジェクター パソコン 模造紙 シール ペン テレビ パソコン テントカラー バナー（旗）
成果	・題材がプラスチックという身近なものであったので考えやすかった。 ・タイムリーであったため生徒に紹介するのにちょうどよいテレビ番組や資料を探すことができた。 ・サウジアラビアの生徒や文化祭での発表など伝える相手がいたのがモチベーションになっていた。 ・委員会で取り組むという授業以外のスタイルでもなんとか取り組めることが分かった。		
課題	・時間がなかったため、教員の準備が多かった。もっと余裕を持って、生徒が進める活動が増やせればよかった。 ・実際に学校全体で取り組む活動を進めるところまで今回は目指せるといいと思った。		
備考	・アートマイルプロジェクトの取り組みを通しての活動でもある。		

LET'S MAKE "OMIYAGE"

所属	愛知県立瀬戸北総合高等学校		実践者	夏目 江里加
対象	高校3年生(16名)	情報創造系列	実践日	2018年7月~11月
実践教科	英語B	(ビジュアルデザインⅡ)	時間数	15時間
ねらい	<p>テーマ【異文化理解・貧困・共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンという国について知り、より深く知ろうという気持ちを持つ。 ・貧困に苦しみながら生活している人がいることを知る。 ・「自分が得意なこと」を活かして誰かの役に立つことを考える。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1・2 (7月)	日本の高校・日本文化を紹介するためのシートをパソコンを使って作成 (生徒が作成したシートを使用し、実践者が夏休み期間中にフィリピンの高校にて日本の紹介をした。その際、フィリピンの高校生にフィリピンについて紹介する文章、本校生徒に対してのメッセージを書いてもらった)	情報創造系列の生徒たちのため、フォトショップ・イラストレーターを使った紹介シートを作成するよう指示した	
	3 (9月)	9月最初の授業で、実践者がフィリピン(セブ島)での経験について話す フィリピンには厳しい環境の中で生活をしていることを伝える フィリピンの高校生からのメッセージを読み、返事を英語で書く (メッセージは現地の高校の先生を通して生徒に伝えてもらった)	パワーポイント フィリピンの高校生からのメッセージ	
	4~14 (9月~11月)	(ビジュアルデザインⅡの授業 美術の授業において作品製作) 4回目 お土産作りについての説明 ・お土産デザインについての説明 ・観光地でお土産を売っている子どもたちについて ・セブ島の観光地について ・お土産作りのガイドライン (軽く持ち運びできるもの 「欲しい」と思えるお土産) (5回~14回は美術の先生に授業をしていただいた)	パワーポイント イラストレーター フォトショップ	
	15 (11月)	お土産作りの振り返り ・自分が考えたお土産のセールスポイント、セブ島の子どもたちへのメッセージを書く		
成果	初めはフィリピンという国に興味を持たなかった生徒も、紹介シートを作成し、実際にフィリピンの高校生からメッセージを受け取ることで徐々に興味を持つようになった。また「自分が得意なこと誰かの役に立つ」ことができる喜びを感じるようになっていた様子であった。			
課題	セブ島の高校生とのメッセージのやりとりは1度で終わってしまったため、何度もやり取りができると英語を学ぶモチベーションも上がるのではないかと感じた。			
備考	本校は総合学科を有しており、今回のプログラムは教科横断を意識した。美術の先生に協力していただき、「お土産案作り」をビジュアルデザインⅡの授業に取り入れていただいた。			

未来へのアクションを起こそう！

29

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	丹羽 かよ
対象	高校1年・2年(40名)	実践日	2018年10月10日・11月28日
実践教科	図書館教養講座	時間数	90分×2
ねらい	<p>テーマ【SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを「知る」。世界の共通する課題を「知る」 ・社会で起きていることが他人事ではなく、自分にも関わりがあることに「気づく」 ・問題解決への手立てを考え、自分の将来とより良い未来を創るために「行動する」ヒントとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>①世界の現状を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の取り組み、「SDGs」を知る。ビデオ視聴 ・自分とのつながりについて考える。ワーク ・エッセイで知る世界の子どもたち【なりきり自己紹介】 <p>②世界で起きている問題について考える。(世界のSOS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6人の子どもの現状を聞き、グループで共有し、ワークシートを使って感想を話し合う。エッセイから読み取れる問題について考える【派生図】 <p>③「SDGs」ゴール達成のために私たちにできることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を描いた派生図に関連するSDGsゴール目標を書き加えギャラリー方式で回り、気づいたことを共有し、付け加える。 ・「SDGs」私にできることシートに記入、発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ ・ワークシート (自分とのつながり6人の子どものエッセイ) ・ワークシート (私の気持ち) ・半模造紙 ・プロッキー
2	<p>④「SDGs」を通して気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題から、「SDGs」ゴールとの関わりに気づき、個人で解決したいことを考える。 ・豊かな社会にとって大切なことを考える。普段から感謝しているもの、幸せを感じる時などを通して様々なものに支えられていることに気づく。 ・もしも「SDGs」が達成されなかったら？もしも「SDGs」に取り組む人がいなかったら？を考える。【派生図】 <p>⑤世界の人々の取り組みを知り、自分のできる行動を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本や新聞を通して、SDGsへの具体的な行動を知り、グループで共有する。 <p>⑥2030年の未来をかなえるために行動しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」を踏まえたコミュニティ、まちづくりをグループ考え発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」カード (SDGsから見た現状と課題) ・ワークシート (SDGs 身近な関わり) ・ワークシート (豊かな社会にとって大切なこと) ・半模造紙 プロッキー <p>新聞記事 参考図書</p> <p>半模造紙 プロッキー・色鉛筆</p>	
成果	<p>二回の講座を行えたことで、SDGsについて理解を深めることが出来たという感想が多かった。SDGsを世界の大きな問題として捉えがちだったが、自分のこととして身近に感じることができ、自分たちで出来ることを考える機会にもなり、ワークショップにまた参加したいという声もでた。</p>		
課題	<p>第1回から第2回への流れ、つながりをもっと考えたワークにすべきだった。 講座をする時間数が足りないため、他の時間を確保し、行動までつなげられるよう、今後も持続的に情報発信をしていく必要がある。</p>		
備考	<p>愛知県図書館からSDGs関連図書を借り、展示をした。 SDGsのゴールについて考えた目標を校内に掲示をした。</p>		

よりよい未来を創るための価値観・スキルを身に付けるために

30

所属	愛知県豊明市立沓掛小学校	実践者	野々山 尚志
対象	小学2年生(28名)	実践日	2018年12月~2019年1月
実践教科	学級活動・道徳・音楽科	時間数	10時間
ねらい	<p>テーマ【コミュニケーション・文化・貧困・人権】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで他者と関わり、新たな考え方を身に付ける。 ・よりよい未来を創るための価値観・スキルを身に付けるための下地をつくる。 <p>※低学年の児童に、どこまでを目指し、どのような実践だと有効かを考察したい。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	(19時間)	<p>◆ニュース!!海のふしぎはっけん…「発信する」という目的を共有した上で、「気付き、対話し、考え、発信する」学習【ブレインストーミング・ロールプレイ・ギャラリー方式・回し読み】</p> <p>◆世界に関心を向ける</p> <p>1 ・グローバルビンゴ</p> <p>2 ・地球の食卓の写真と国をつなぐ【フォトランゲージ】</p> <p>3 ・世界地図で地域や知っている国名の場所を見つけよう</p> <p>4 ・日本のお米、せかいのお米(道徳)</p> <p>◆アフリカの文化や課題を知る</p> <p>5 ・エチオピアのコーヒー文化を知ろう</p> <p>6 ・ガーナとチョコレートの真実を知ろう</p> <p>7 ・アフリカで流行りの音楽にふれてみよう(音楽)</p> <p>◆パラグアイと日本との共通点と相違点を考える</p> <p>8 ・パラグアイから考える【フォトランゲージ・対比表】</p> <p>①各自で写真を見て想像したことを伝える</p> <p>②解説カードを読んでを伝える</p> <p>③日本とパラグアイの共通点と相違点を話し合い、対比表にまとめる</p> <p>◆文化・人種・国を越えて仲良くなるために必要なことを考える</p> <p>9 ・じゃがいもさんとお友だち→世界の事実【シミュレーション】</p> <p>10 ・みんなが幸せな世界ってどんな世界?【イメージ図】</p>	<p>※昨年度6年生の実践を元に、2年生生活科で課題解決に向かう態度の育成を目指し、実践した。</p> <p>・「地球の食卓」TOTO 出版</p> <p>・世界地図(PADIN HOUSE のHP)</p> <p>・どうとく2年教科書 光村図書</p> <p>・2017年度教師海外研修のエチオピア写真より作成したスライド</p> <p>・JICA 中部グローバルBOX (エチオピア・ガーナ)</p> <p>・2017年度教師海外研修(パラグアイ)で撮影した写真より作成したカード、自作の解説カード</p> <p>・じゃがいもクラス人数分、少年兵・飢餓・食べられるものを捨てている様子の写真</p>
成果	<p>世界地図や外国の写真や本を見るなど、世界の国々に興味をもち、もっと知りたいという意欲が高まった。エチオピア・ガーナ、そしてパラグアイの学習を通して、課題や相違点を知るだけでなく、日本との共通点や関係性を知ることにより、身近なこととして捉え、自分たちに何ができるかを考えることができた。</p>		
課題	<p>高学年では、世界規模の課題を解決する方法を参加型学習で深く学び合うことができた。低学年では、考えを書く力が未熟なため、言葉による表現が難しかったり、時間がかかったりする。そのため、用いる参加型手法も限られた。低学年は、他者の意見を肯定的に受け止めたり、新たな考えを見出したりする経験を積むことと、世界の国々に関心をもち、身近に捉えられるようになることを目指すだけでも十分であると考えた。今後も、引き出しを増やし、目の前の児童生徒に適した学びの空間づくりをしていきたい。</p>		
備考	<p>参加型手法を効果的に用いることで、楽しく、主体的に、他者との関わりを通して深く学ぶことができる。開発教育・国際理解教育を効果的に実践するためにも、段階に応じた実践計画を示していく必要がある。</p>		

わたしの自慢のファッションは？

所属	名古屋市立桜台高等学校	実践者	箱山 園江
対象	高校3年生（ファッション文化科36名）	実践日	2018年10月31日
実践教科	（外国語：英語）	時間数	46分×2コマ（連続）
ねらい	テーマ【人権、環境】 ・自分のファッションがどこからきているか気づく ・人権に配慮した持続可能な社会について考える ・課題解決のために動く力を育む		
実践内容	プログラム アイスブレイキング *話し合う為の肩慣らし、雰囲気作り ①自己紹介：『最近のプチ不満』と『呼ばれたい名前』 ②『ファッションチェックしてみよう！』自分のファッションを振り返ってこだわりポイントを探す ③『その服はメイドインどこ？』服の産地をできるだけたくさん挙げて、どこにあるのか知る【ブレインストーミング】 【産地の偏りを確認（国産・外国産の割合）】⇒プロジェクターに資料投影 もしも私が〇〇だったら…『不平不満をぶちまけろ！』 【ロールプレイ】 ①役割カードを配布し、各自黙読する ②各自最初の一言を話してから、自由に発言する。 ③各自の不平不満を解決できる方法があるか、考える。 場面：外国のとある町 役割設定：NGO職員・工場長労働者・日本企業・日本の女子大生・（労働者の家族） みんなが笑顔になるファッションは？ 問題点・解決策について思いつく限りたくさん書き込む【ブレインストーミング】 実際の映像 写真・映像・SDGsなどを見せる 『行動宣言』を作ってみる【振り返り】 <服作りをする人として、服を買う人として、服を届ける仲介者として、〇〇として> なにができるか、何をしたいかを考える。 ①自分の言葉で書いてみよう。（状況を変えるために自分に何が出来るか。） ②その他、今回の授業の感想		備考 世界地図(1)、シール(2×7) 資料(東洋経済online2017.5.27) 役割カード(5役×4組、6役×3組) 『ファッション史上最悪の事故から5年、バングラデシュは変わったか』 FASHIONSNAPE.COM 2016世界中に広めようSDGs(エマ・ワトソン)
	成果	高校3年間でファッションに関する専門教科を学んできた生徒たちに対して、ファッションの背景にある環境や人権について考えを深める機会を提供することができた。今後引き続きファッションに携わっていく際に、彼女たちが様々な観点から考えて行動していくことが期待できる。	
課題	継続的にワークショップを行うことが可能であれば、さらに深めることができるのだが、カリキュラムの関係で時間の確保が難しいことが残念だ。		
備考	日常的な経済活動が世界の環境と人権につながっていることを認識していきたい。 『毎日の『買う』という積み重ねが、私たちの未来を変える力になります。誰かの笑顔につながります。(Buycottより)』		

“地球、の持続可能な使い方～1コぶんのくらしをしよう！～

32

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	濱田 蒼太	
対象	中学校3年生(145名)	実践日	2019年1月	
実践教科	理科	時間数	12時間(50分×12コマ)	
ねらい	テーマ【環境】 ・地球環境の現状や今のままの生活を続けると、どうなっていくかについて考える。 ・持続可能な環境の4原則について知り、環境問題を多面的、多角的にとらえる。 ・何世代先も豊かな地球であり続けるために、自分にできることを考え行動する意欲を育む。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	《地球って思っているよりもピンチ?!》 ①地球環境クイズを出し合う。【クイズ】 ②持続可能な環境の4原則を考え、発表する。	4原則(生物多様性、循環、有限性、低炭素)	
	2、3	《生物多様性はなぜ大事?》 ①生物多様性について知る。 ②「自然のめぐみ」には何があるか考える。【ブレインストーミング】 ③生態系サービスや生態系ピラミッドについて知る。 《守れ!生物多様性!》 ①生物多様性は今、どのような状況かを知る。【映像】 ②何が生物多様性を急速に失わせているかを考える。【因果関係図】 ③生物多様性を守るために、個人、仲間、地域・国にできることを考える。	ホワイトボード かながわ環境スクール 半模造紙	
	4、5	《循環～始まりと終わりの物語～》 ①お気に入りのものや普段お世話になっているものが、どんな素材でできていて、どこで生産され、消費した後どこにいくのかを考える。【対比表】 ②ものの始まりと終わりの物語を発表する。 《循環型のくらしをしよう!》 ①江戸時代の循環型のくらしの絵を見て、現在と比較する。【対比表】 ②何が循環を断ち切っているのかを考える。【因果関係図】 ③循環型のくらしをするための私の宣言を考える。【行動宣言】	A4コピー用紙 半模造紙 A4コピー用紙	
	6、7、8	《水と森の資源について》 ①1日にどれくらい何に水を使っているのかを考える。【タイムライン】 ②日常で使っている木製品を考える。【ブレインストーミング】 ③水と森についてのクイズを解く。【クイズ】 《エネルギー資源について》 ①日本家庭の1日の電気使用率を考える。【円グラフ】 ②どれくらい電気をつかっているのかを知る。【映像】 ③電気はどうやって作るのかを考える。【付箋リストアップ】 ④エネルギー資源(付箋)を再生可能、有限、危険に分類する。【対比表】 《持続可能な資源の使い方!》 ①再生可能、有限、危険なエネルギー資源についての使い方を知る。 ②放射線について知る。 ③さまざまな資源をこれから先も使い続けるために、できることを考える。	ホワイトボード 半模造紙 かながわ環境スクール	
	9、10	《二酸化炭素をなるべく出さない生活をするには…?!part1》 ①地球温暖化について知る。【映像】 ②気温が1℃上昇すると、どうなるかを考える。【派生図】 ③どんな行動をすると二酸化炭素が発生するかを考える。【リストアップ】 《二酸化炭素をなるべく出さない生活をするには…?!part2》 ①CO ₂ をなるべく出さない人のモデルを作成し、発表する。【イメージ図】	かながわ環境スクール 半模造紙 半模造紙	
	11、12	《持続可能な〇〇をデザインしよう!》 ①持続可能な環境の4原則が取り入れられた〇〇を考え、発表する。【イメージ図、マッピング】	模造紙	
	成果	持続可能な環境を実現するためには、4原則を意識して生活する必要があることに気付いた。また、4原則について、それぞれ違った枠組みで環境問題を捉えたり、原則間のつながりを感じたりすることができた。参加型の手法を用いて、どうすれば持続可能な環境を実現できるかを主体的に対話しながら考えると、行動していく意欲につながった。		
	課題	持続可能な環境の4原則を学ぶ際には、原則間のつながりを考え、学習する順番を工夫する必要がある。理科の正しい知識を確実に習得させながら、進めていく方法をさらに工夫する必要がある。また、学習活動を精選し、シェアリングから深い学びにつなげていく授業の工夫も必要である。		
	備考	本校では、総合的な学習の時間とともに、教科横断で国際理解教育に取り組んだ。理科だけではなく、さまざまな学習の中に国際理解の観点やSDGsとのつながりを感じる取り組みを目指している。		

Think Globally, Act Locally—世界の中の日本とわたしたち—

33

所属	三重県四日市市立笹川西小学校	実践者	藤川 純子
対象	小学校6年生(54名)	実践日	2019年1月~2月
実践教科	社会科および総合的な学習の時間	時間数	17時間
ねらい	<p>テーマ【多文化共生、地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々について本物の情報を収集し、わかったことを伝え合う。 ・笹川で暮らす人々の思いや願いを知り、自分も友だちも大切な存在であることに気づく。 ・世界と日本、自分自身とのつながりを実感し、自分自身にできることを考え、行動しようとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	0	学習に向けてのアンケート(各学級) …12月中	
	1	オリエンテーション 本単元のねらい、M先生よりフィリピンの話(学年)	県適応指導員
	2	担当する国(ブラジル、中国、韓国、アメリカ、フィリピンから選ぶ)についての資料を読んで、トリビアクイズを作る。(各学級)	社会科教科書
	3・4	「グローバルクイズ」大会(学年)	愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」や「もっとブラジルと出会おう」(国土社)シリーズなど約130冊
	5	各国をテーマ(食べ物、言葉、学校、歴史、自然…など)に基づいて調べ、ポスターづくり(各学級)	
	6	ポスターセッション(各学級)	
			
	7	体験・自主学習発表デー①(学年) 児童自らの海外体験(中国・アメリカ・インド)を写真中心に発表	英語科の国際理解単元「Let's go to Italy」も同時学習
	8	純子先生の話聞いてもっとブラジルとアルゼンチンのことを知ろう。(学年)	
	9	世界的な課題にも目を向けよう考えよう(学級)	
	10・11	笹川の地域づくりについて、Kさんの話を聞き、自分たちにできることを考えて「MY ACTION PLAN」にまとめよう(学年)	JICA まんが資料シリーズ
	12	Cさんの話を聞いて、ブラジル人の心を知ろう(学年)	多文化共生サロン
	13	体験・自主学習発表デー② 児童自らの人権作文(ブラジル人の宗教観)や海外体験(フィリピン、ペルー)を発表(学年)	職員(児童保護者) 児童保護者
	14	「MY ACTION PLAN」をみんなで読み合おう(学年)	
	15	人権啓発漫画から「カヌンキル」から在日コリアンの課題を知ろう。	
	16	N先生のチャングを聴こう(学年)	本校職員
	17	JICAパンフレット三重県OBOG編を読んで、日本の国際協力について知ろう(学級)	「エルクラノはなぜ殺されたのか」(明石書店)より
18	エルクラノ少年リンチ殺人事件から考える わたしたちはなぜ「考え」、「行動する」のか…学習全体をふりかえろう(学級)		
成果	外国ルーツの子たちが生き生きと調べ学習を進めることができた。みんなが海外体験の写真などを持ってきたり保護者にゲストに来てもらうよう頼んでつないだりして、学習を主体的に作り上げることができた。ヘイトクライム「エルクラノ少年リンチ殺人事件」(1997年)をとりあげ、自らの生き方について真剣に考えることができた。学んだことを生かし、家庭科の調理実習でフィリピンのスープ「シニガン」を調理した。		
課題	大量の情報の伝達だけで終わってしまうのを避けるため、あえてコンピュータ室を使わせなかったが、児童の「パソコンも使いたい」という声にうまく応えられなかった。家庭で調べる際の使用は許可した。		
備考	6年生54名のうち外国にルーツのある子は約46%(ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、アルゼンチン)。実践者は、JICA日系社会青年ボランティアOV(ブラジル国、2000-2002年派遣)。		

(仮想) 動物裁判: “That’s enough!” 人間ども訴えてやる!!

34

所属	愛知県立熱田高等学校	実践者	前田 昌美
対象	高校2年生(44名)	実践日	2018年1月
実践教科	コミュニケーション 英語Ⅱ	時間数	3時間
ねらい	<p>テーマ【環境 絶滅危惧種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自分の行動が環境、特に野生動植物の絶滅に関係していることを知る。 ・地球上のすべての生命は相互依存の関係にあることを知る。 ・小さな行動が大きな変化につながることを知り、自分の行動を変える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『Precious Life on the Earth』</p> <p>① 動物占い【アイスブレイク】</p> <p>“What is the meaning of “the Circle of Life“?”</p> <p>② なりきり自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の写真を見て自己紹介をしよう!【フォトランゲージ】 <p>What is the name of the animal? Where does it live? What does it eat?</p> <p>③ クラス全体で写真をシェアし共通点を見出す。</p> <p>◆『Why are they endangered? なんで彼らは絶滅危惧種なの?』</p> <p>④ これらの動物がなぜ絶滅の危機にあるのか考える。</p> <p>⑤ 英文資料を読み写真の動物が危機的状態にあることを知る。</p> <p>⑥ extinct, critical endangered, endangered, vulnerable など絶滅の危険度を表す言葉を学ぶ。</p>	<p>CD</p> <p>カラーペン</p> <p>学習プリント</p> <p>写真</p>  <p>英文ストリップ</p>
	2	<p>◆『Animal court 仮想動物裁判! 訴えられる人間たち』【ロールプレー】</p> <p>⑦ 原因となる単語 hunting, climate change, poaching, overfishing, desertification, deforestation などの語を学び、何がそれらの原因になっているか話し合い書く。</p> <p>⑧ 原告としての動物たちが、被告人間に対する訴えを作成する。</p> <p>⑨ 被告として人間が、自分たちの言い分を作成する。 (グループ内で裁判官:原告の動物、被告の人間役を決める。)</p> <p>⑩ グループで仮想裁判を行う。</p> <p>⑪ クラス全体で発表する。(教師が裁判官役) Guilty or Not guilty</p>	<p>英単語カード</p> <p>A3 用紙</p>
	3	<p>◆『What can we do to save the animals?』</p> <p>⑫ 仮想裁判で知ったことをもとに具体的に人間に何ができるか考える。</p> <p>⑬ 数週間前に最後のオスが死んだシロサイの話を書く</p> <p>◆『My Action Plan』を書き、行動宣言をする。</p> <p>⑭ 個人で絶滅危惧種を守るため自分ができることを3つ書き発表する。 * the Circle of Life を聞いて生命の持続について考える。</p>	<p>A4 用紙</p>
成果	<p>動物が人間を訴えるという裁判の設定は、Play の要素がありのびのびと授業を楽しむ様子が見られた。裁判の通して、動物になることで動物も人間と同じ生き物で、よく生きたい、命をつなぎたいという感情に共感できると同時に、人間の言い分を考えたとき、自然や動物を軽視する自分勝手な姿も浮き彫りになった。最後の一匹のシロサイの雄の話は、衝撃だったようで生徒の表情が一変し動物の絶滅が身近に感じられたようである。生徒からは毎回ここの授業にして欲しいと言われてしまった。</p>		
課題	<p>本校の英語科では、新カリに向け Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習) CLIL を模索中である。ただ生徒の英語力は限られており、実際は英語と日本語の両方で授業を行った。生徒は非常に前向きで英語で積極的に発言しようと辞書やスマホを英語を書いていた。</p>		
備考	<p>教材作りは大変だったが、これは伝えたい知ってほしいという気持ちがあるが普通の授業とは比べものにならないほど強かったし、生徒の反応が非常によかったので、今年度また開発教育の授業をやるつもりである。</p>		

世界授業「いいね！」っていいね！

35

所属	愛知県津島市立東小学校	実践者	宮川 勇作
対象	小学校1年生(29名)	実践日	2018年7月~1月
実践教科	学級活動・道徳	時間数	10時間
ねらい	<p>テーマ【共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者のちがいに気づき、肯定的に受けとめ、認め合うことができる。 ・自国と他国の文化や環境のちがいを知り、課題に対して仲間と共にできることを考える。 ・日頃の生活の中で感じている当たり前のことにはたくさんの支えがあるということに気づく。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『1日の生活をふりかえろう』</p> <p>①毎日の生活の中で、朝起きてから、夜寝るまでの間にしていることを1項目1枚の付箋に自由に書き出し、グループで共有する。【カード式整理法】</p> <p>②書き出した付箋を〈1人でできること〉と〈1人ではできないこと〉に分類する。</p>	付箋 模造紙 ペン
	2	③〈1人でできること〉は、誰に支えてもらってできるようになったのか、また、〈1人ではできないこと〉は、誰に支えてもらって行なっているのかを考える。	
	3	④日頃から自分を支えてくれている人やものに向けて、感謝し、サンキューレターを書く。	
	4	<p>◆『パラグアイってどんな国？』</p> <p>⑤パラグアイについて初めて知ったことや日本との共通点とちがいについて、気づいたことを共有する。【リストアップ】</p> <p>⑥私たちとパラグアイの繋がりを知り、パラグアイを身近に感じる。</p> <p>⑦世界の国々には、解決しなければならないたくさんの課題があることを知る。</p>	大型テレビ パワーポイント資料 写真・動画
	5	<p>◆『食べるものって、どこからきているの？』</p> <p>⑨食べ物を捨てている国と食べるものがなくて困っている国があることを知り、飢餓をなくすために自分たちができることを個人で1つ書き出す。</p>	写真 リスト用紙 模造紙
	6	⑩書き出した考えをグループで共有し、「みんなで頑張りたい順」に並べ替え、全体に発表する。【ランキング】	ペン JICA資料
	7	<p>◆『学校に行けない子どもたち』</p> <p>⑪ロールプレイを通して、文字が読めない不便さを気づき、世界には学校に行けない子どもたちがいることを知る。【ロールプレイ】</p>	ペットボトル 大型テレビ 写真・動画
	8	⑫世界中の全ての子ども達が学校に行けるようにするために自分ができることを考え、グループで1枚模造紙に書き出し、全体に発表する。【指標作り】	模造紙 ペン
	9・10	<p>◆『SDGs～主役は私たち～』</p> <p>⑬SDGsを知り、興味がある目標の一つを選んで、達成するために大切なことを考える。</p>	SDGs掲示物 動画
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにとっての「当たり前」は、たくさんの支えがあって成り立っていることを感じる事ができた。 ・世界の文化や生活環境などを知り、さまざまな違いを寛容的に受け止める事ができた。 ・グループ活動を通して、「いいね！」を合言葉に、どんな意見も認め合える関係性を築く事ができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グループから全体への発表では、自己主張の強い児童が何度も発表者となる事があったため、全体観をもった役割分担で、できるだけ多くの児童に発表する機会を与えるべきだった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本プログラム以外の授業でも、話し合い活動のなかで友達の意見を「いいね！」と受け止めることができるようになった。この他、全校に向けて、パラグアイクイズやSDGsなどを盛り込んだ海外研修帰国報告を行った。 		

共に生きる

所属	岐阜県可児市立桜ヶ丘小学校	実践者	三宅 聡子
対象	小学校5年生（34名）	実践日	2018年9～12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	12時間
ねらい	<p>テーマ【共生・福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を通して、視覚障がいについて理解する。 ・外部講師の話や、調べ学習を通して自分たちにできることについて知る。 ・共生社会に生きる一員としての在り方を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>（目が見えないってどんな事？）【ブレインストーミング】</p> <p>①朝から寝るまでにすることを書きだす。 ②もし目が見えなくなったらどうなるかを想像する。 ③折り紙でやっこさんを折る。アイマスクを付けてやっこさんを折る。 ④体験してみて何が困ったかグループで交流。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク ・折り紙 ・ワークシート
	2・3	<p>（目が見えないってどんな世界？）【派生図】</p> <p>①アイマスクをして日常生活の体験をする。 ②やってみて感じたこと・気づいたことについて話し合う。 ③体験活動を通して、学習のめあてを考える。（課題設定）。</p>	<p>体験した内容 衣服の着脱 お金の種類当て 手渡された物を描く 水をコップに注ぎ乾杯</p>
	4・5	<p>（前が見えないってどんな世界？）</p> <p>①アイマスクをして、ペアで歩く。 ②白杖について知る。 ③白杖を使ってペアで歩く。 ④どんなことに困ったか・どんな助けが必要か考える。 ⑤サポートの仕方を学び、再び歩く。 ⑥関わり方について理解したことを交流する。</p>	<p>アイマスク 白杖 障がいのある方への配慮マニュアル（資料） ワークシート</p>
	6・7	<p>（調べ学習）</p>	<p>PC・市立図書館本参照 ワークシート</p>
	8	<p>（講師の先生の話）</p>	<p>ワークシート</p>
9・10	<p>（未来をデザインしよう）（自分宣言）【イメージ図・行動宣言】</p> <p>①学んだことから、グループで暮らしやすい社会をデザインする。 ②グループでデザインしたことを交流する。 ③福祉の学習を通して、これからの社会で自分がどんな人間で在りたいか宣言をする。</p>	<p>A3用紙 ワークシート</p>	
成果	<p>参加型の手法を取り入れることで、どの児童も生き生きと活動し、「福祉」について学ぶことができた。「未来をデザインする」では、学んだことを想起し、どのような場所や物ができると生活しやすいか相手の立場になって考えていた。また、講師の話や聞くことで、障がいがあることで全てを悲観的に考えるのではなく、自分の生きがいを見つけ、自分のしたいことをあきらめない生き方についても学んでいた。</p>		
課題	<p>参加型の手法が児童の学習意欲を高めていたが、アクティビティの時間が予想以上にかかってしまい、まとめが不十分だった。ゆとりをもってアクティビティの時間配分を設定したり、入れるアクティビティの数を考えたりするなど授業計画をしていきたい。</p>		
備考	<p>一年を通して、共生・福祉について学習している。今回の授業後、視覚障がいに限らず自分でテーマを決め様々な福祉について調べ、社会の一員として自分たちにできることを考える活動を進めていく。</p>		

「わたし」と「社会」はつながっている！

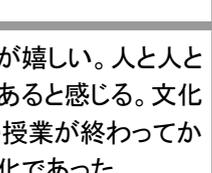
37

所属	愛知県立瀬戸北総合高等学校	実践者	村上 偉代
対象	高校1年生（40名）	実践日	2018年12月～2019年2月
実践教科	科学と人間生活	時間数	7時間
ねらい	<p>テーマ【コミュニケーション・共生・課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の考えを他者に表現する力を養う。 ・他者の考えに触れることで、いろいろな価値観、いろいろな良さがあることに気づく。 ・自分の持つ力に気づき、他者と協働し社会の課題解決のためにできることを主体的に考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～2	<p>動画『地球・46億年の大変動(1) 生命の誕生』視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球は数々の奇跡が重なってできた！を実感 	動画
	3	<p>地球は「大切」！では、わたしの「大切」・あなたの「大切」って？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が大切にしているモノ・大切にしているコトって何？ ・私が大切にしているモノ・コト Best3 を選ぼう！ どうしてそれを選んだ？ ・クラスのメンバーにインタビューしてみよう！ ・大切なものを大切にできない未来を想像してみよう。どうなってしまう？ <p style="text-align: right;">【派生図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切なものを大切にするために必要な行動を考えよう。【箇条書き】 	授業プリント A3用紙 マーカー
	4	<p>「カッコいい」探し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休み中に目にした「カッコいい！」と思った人物(身近な人でも芸能人でもOK)を挙げよう。その人のカッコいいポイントは何？ ・隣の人に紹介しよう！ 私が「カッコいい！」と思う人 ・パラグアイで先生が出会ったカッコいい人紹介！ 	授業プリント パラグアイ写真
	5	<p>わたしにパワーをくれるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは日々どんなものにパワーをもらっている？自由に書きだそう！ ・パワーをもらえると、どんな気持ちになる？ ・「音楽の力」でこどもたちに希望を！カテウラ音楽団のハーモニーを聴こう♪ 	授業プリント 動画
	6	<p>わたしの力で未来を切り拓こう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの力・長所って何だろう？どんなところで活かせるかな？ ・力を結集！みんなで「先生」になって学校を創っちゃおう♪【イメージ図】 	授業プリント A3用紙 マーカー
	7	<p>「困りごと＝課題」について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な「困りごと」を考えよう。 ・社会にはどんな「困りごと」がある？放っておくとどうなる？【派生図】 ・困りごと＝課題の解決に向けて、わたしたちにできることは何？ 	授業プリント A3用紙 マーカー
	成果	<p>動画からの導入はやや強引ではあったが、動画を観て「地球って奇跡の星！」という意識ができた生徒も一定数いて、その後のワークに積極的に取り組む場面が見られた。この授業実践を通して、「自信」「頑張る」「前向きに」などの言葉が生徒の感想に増えてきたのは大きな一歩だと感じた。</p>	
課題	<p>全体のモチベーションを上げていくための授業の導入の仕方やワーク中の声のかけ方について、もっと経験値を上げたい。コミュニケーションに不安を感じる生徒が多い集団であるため、みんなが「肯定的な場」と感じられるようになるための環境作りには時間を要する。学校全体で取り組む意識は必須と感じる。</p>		
備考	6時間目・7時間目については、2月実践予定		

SDGs クイズで授業をしてみよう

所属	石川県金沢市立北鳴中学校	実践者	MORI Keiko
対象	中学校1～3年生と支援員(7名)	実践日	2019年9月～12月
実践教科	生活単元・道徳・社会・英語	時間数	23時間
ねらい	<p>テーマ【貧困・教育・安全な水、etc.】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の子どもたちの生活について興味を持つ。 ・開発途上国への「実りある援助」についての事例を学習し自分たちのできることは何か考える。 ・到達目標：通常学級でSDGsに関する授業ができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	0	<p><開発途上国ってどんなところ?>①</p> <p>T 写真や動画を使用し、体験を交えながら開発途上国の様子を紹介 Q.&A.をはさみながら、生徒の表情に合わせて、ゆっくり進めていく。</p>	<p>IPad カレンダー パワーポイント</p>
	1	<p><開発途上国ってどんなところ?>②</p> <p>【ブレインストーミング】 開発途上国の「ないものさがし」 S 自分の考えで、言葉や絵にしてみる。(10分間) 【グループワーク】 意見交換 模造紙にみんなの考えを貼り、たりない言葉や絵がないか、話し合い → 付箋を追加 → グルーピング</p>	<p>付箋 マーカー 模造紙</p>
	2～18	<p><開発途上国ってどんなところ?>③</p> <p>T 各回(#1から#17まで)1枚のSDGsカードを見せる。 S 写真から何が読み取れるかを考え、意見交換。 SDGsサイト(UNDP)を参考に、SDGs#1から#17までの写真を見て、説明文を読み、自分なりの解釈をする。 各自のキーワード探し 模造紙に貼り、グルーピング 【派生図】 みんなの意見の中から一番気になる言葉を抜き出し模造紙の中心に置く。連想ゲームの要領で、関連する言葉をつないでいく。 【グループワーク】 自分にできることさがし</p>	<p>A4 上半分が写真 下半分は説明 IPad, projector UNDPのHP 模造紙 付箋 マーカー</p>
	19	<p><どのように開発途上国のようすをほかの人たちに伝えればよいか></p> <p>S SDGsクイズを作ろう A4の用紙にクイズを書いていく(答えを暗記)</p>	<p>A4用紙 マーカー</p>
	20	S PCルームでパワーポイントづくり	
	21	S 授業予定を作成し、時間を計りながら練習	
	22	S 2年生が1年生の学級の道徳の授業でSDGsクイズを実施	<p>大型テレビ スライド</p>
	成果	<p>授業のしめくくり、2年生の2名(男子1名+女子1名)が、自分たちで作った「SDGsクイズ」をA4の紙に書き、1年生の道徳(単元:リヤカーは海を越えて)の授業をすることができた。「まとめ」は1年生からも担任からも、印象に残るものだったと、おほめの言葉をいただき、2名とも、自分に自信を持つことができた。</p>	
課題	<p>IQ40やダウン症の生徒を含む特別支援学級(知能)での授業で、同じ課題で授業を進めていくことは不可能なので、毎回異なる授業課題を設定する必要があった、何か少しでも学ぶことがあってほしいが、それを確認することができない。</p>		
備考	<p>支援員さんが授業内容をご家庭で話し、それをもとに応募したお子さんの作文が県で上位入選。シティカレッジ後期授業「国際協力とグローバル人材育成」でSDGs#4教育に関する講義を実施</p>		

わたしの世界のお友だち、〇〇さん～世界のお友だちとの出会いから、2年生にできることを考える

所属	三重県松阪市立中原小学校	実践者	森本 真央
対象	小学校2年生（17名）	実践日	2018年10月～11月
実践教科	道徳・学級活動の時間	時間数	11時間
ねらい	<p>テーマ【共生・コミュニケーション・人権・平和】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と世界がつながっていることに気づき、世界に興味を持つことができる。 ・様々な価値観に出会う中で、「違い」を肯定的に捉え、その違いを楽しむことができる。 ・世界の子ども達が抱える課題を知り、自分の生活について改めて考え、行動することができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「当たり前ってなんだろう？」～どひゃー！びっくり！世界の当たり前～</p> <p>①動物の鳴き声クイズ②世界のあいさつ ③世界の国旗クイズを通して、自分が思っている価値観は決して当たり前ではないことについて考えた。</p>	<p>パワーポイント</p> 
	2-3	<p>お弁当のヒミツ～世界とのつながりを考えよう～<実体験></p> <p>お弁当のおかずを考えることを通して、そのお弁当の中身のほとんどは世界から輸入されているものであり、私たちは知らず知らずと世界とつながって生きていることを学んだ。一方、世界には十分に食事が食べられず、栄養失調や餓死している人がいることや、そんな中で私たちはまだ食べられるものもたくさん捨てていることについて考えた。</p>	
	4-5	<p>バーチャルツアーで体験！国際交流フェスティバルに行ってみよう！</p> <p>道徳『行ってみたい』の題材を発展させ、国際交流フェスティバルに参加し、その中で4人の子どもたちに出会い、それぞれの国の文化や習慣について学んだ。<ロールプレイ><プレーンストーミング></p>	
	6-7	<p>世界の子どもたちツアー<ロールプレイ></p> <p>前回のツアーで出会った4人のお友達の実際の生活の様子や困っていることについて学んだ。それぞれのお友達が抱える貧困や教育、水と衛生の問題を、ゲームや体験を通して体感的に考えた。</p>	
	8-10	<p>ワークショップ『世界がもし100人の村だったら』⇒ 群読『世界がもし100人の村だったら』の発表(人権なかよし集会にて)</p> <p>他にも世界の子どもたちの現状と課題をゲームをしながら学んだ。また、たくさんの写真や映像を使って、</p>	
	11	<p>幸せってなんだろう～2年生から世界を変える！わたしたちができること！～</p> <p>世界の子どもたちと出会いから、あらためて自分の生活についてふり返った。</p>	
	成果	<p>外国に興味を持って、「自分とは違う」ということを肯定的に捉えられるようになったことが嬉しい。人と人との出会いの中で、世界のことを自分事に捉えられるようになったことが何よりの成果であると感じる。文化や言葉が違って、人間としては同じで通じ合えることができるという意見も出たり、この授業が終わってから、給食の残飯が無くなったり、水や電気を大切に使うようになったりしたことも嬉しい変化であった。</p>	
課題	<p>対象学年が2年生ということで、どうしたら世界と肯定的に出会えるか、どんな内容であれば伝わるのか悩みながらワークショップの内容を考え、作成したが、内容を盛り込みすぎたという点と、世界が抱える課題については少し難しい内容もあったように感じた。だが、2年生なりに感じたものも大きかったように思う。</p>		
備考			

SNS利用について考えよう

所属	大同大学大同高等学校	実践者	森 友紀乃
対象	高校1年生(35名)	実践日	2018年12月
実践教科	総合的な学習の時間・LHR	時間数	2時間
ねらい	テーマ【メディアリテラシー】 ・SNSを通じた犯罪やトラブルが身近に起きうること気づく ・普段のスマートフォンやSNSの利用方法を振り返り、より良い使い方について考える		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	SNSの使い方を振り返り、メリット・デメリットに気づこう ・【アイスブレイク】名刺で自己紹介(3~4人のグループ) ・ブレインストーミング『スマートフォンでできること』をたくさん書き出す ・ブレインストーミングで出し合った内容をもとに、スマートフォンやSNSのメリットとデメリットを対比表にまとめる ・4つの異なるニュースを1人1つずつ読み、大事だと思う3か所に下線を引く。担当したニュースについてメンバーに要約して伝える ・今後スマートフォンやSNSをどのように使おうと思うか、自分の意見をふせんに書き、模造紙に貼っていく ・「私のスマホ・SNS利用3か条」を作成する	ペン・紙 模造紙 ワークシート 付箋 ワークシート
2	人それぞれの感じ方の違いを学び、身近に起きうる問題について考える ・【アイスブレイク】メンバーの共通点は？グループでたくさん書き出し、一番ユニークなものを発表する ・普段スマートフォンで一番多く時間を使っていることについて、グループ内で1人1つ発表する ・“ネットにアップされたら嫌な写真は？” 「自分の寝顔」「自分の変顔」などと書かれた書かれたカード5枚の中から、公開されたら嫌なものを1人1枚ずつ選び、その理由を発表する ・“ネットにアップしても問題ない順番” 高校生が撮りそうな写真例を5枚用意し、グループで話し合ってネットにアップしても問題ないと思う順番に並べ替える ・“デジタルタトゥー”について学ぶ。実際に社会問題となったSNSの写真や事例を紹介する。 ・「ネットに情報を公開する際にどんなことに注意したら良いか」について考え、グループ内で発表する	ペン・紙 カード カード パワーポイント	
成果	・何気なく使っているスマートフォンやSNSについて、日頃の使い方を振り返り、より良い使い方を考えることができるようになった。 ・グループワークを通して、他人と自分とでは感じ方・考え方が異なることを学ぶことができた。		
課題	・今回の2時間の授業で終わりではなく、今後も継続してメディアリテラシーを身に着けたり、他人の気持ちを理解したりするための時間をとっていきたい。		
備考			

たくさんの水！どれくらいの水？

所属	三重県桑名市立久米小学校		実践者	保田 知里	
対象	小学校1年生（24名×2学級）		実践日	2018年12月～2019年1月	
実践教科	（生活科，特別活動）		時間数	5時間（45分×5）	
ねらい	テーマ【環境(水)】 ・自分たちが生活する中で，たくさんの水を使っていることに気づく。 ・世界の水問題について知る。 ・水を大切にするために自分にできることを考える。				
実践内容	回	プログラム			備考
	1	■わたしたちの 生かつと水 ・今朝起きてからしたことを話す。(アイスブレイキング) ・生活の場面で水を使う場面を書き出す。【リストアップ】【ブレーンストーミング】 ・生活の中で使っている水の使用量が，ペットボトル何本分に値するのか知る。 ・地球上の水には限りがある事を知る。			・半模造紙 ・各自ペン1本 ・ペットボトルの図 ・資料『ぼくら地球調査隊』(JICA 地球ひろば)
	2	■アフリカの 子どもたちは いま！？ ・バケツに入れた水を運んでいる子どもの写真から，何をしているのか想像する。 ・アフリカの子どもたちの生活を知る。			・資料『飢餓一くりかえされる苦しみからの脱出』(大貫美佐子著 ポプラ社)
	3	■水をはこぶって 大へん！たいけんしよう。 ・バケツやペットボトルに水を入れて運ぶ。			・バケツ ・ペットボトル ・水
	4	■どうして あんぜんな水をつかえるの？ ・アフリカの子どもが使っている水と，自分たちが生活で使っている水の違いについて考える。 ・日本の浄水，下水システムについて知る。 ・水を大切にするためにできることを考える。【ブレーンストーミング】			・半模造紙 ・各自ペン1本
	5	■かぎりある水！大せつにつかおう！ ・水を大切にするために，自分にできることを書き出す。【カード式整理法】 ・書き出したものを順位づけする。【ランキング】			・各自A3用紙1枚 ・付箋(2色)
成果	水の量をペットボトルに置き換えて考えることでたくさん水を使っていることに，気付くことができた。ブレーンストーミングは，他の授業で練習したためスムーズに行うことができた。アフリカの子どもたちが，大変な思いをして水を運んでいることを体感し，水を大切に使うために自分にできることを考えることができた。				
課題	第5時でのランキングで，「個人でできること」「みんなですること」の付箋の色分けをしたが，区別が難しかったり，「みんなですること」が出にくかったりした。低学年で知識や経験も少ないので，たくさんの種まきが必要であると実感した。				
備考	ブレーンストーミングのあと，ギャラリー方式でいいなと思うものに，印をつけていくことは1年生でも楽しそうに活動していました。また，印をつけてもらったのを見て嬉しそうにしている姿もありました。				

「SDGsに向かおう！」～私が感じた世界の問題を発信しよう！～

42

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	山口 郁子
対象	中学校3年生（145名）	実践日	2018年10月～12月
実践教科	美術	時間数	9時間
ねらい	<p>テーマ【SDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心と向き合って、問題提議(SDGsの目標)していく内容を自分の見方、感じ方、考え方をまとめてテーマを探求する。 ・自らの主題(SDGsの目標)に対しての思いを、形や色彩に託して独創的な発想で構想し、自分の“自分のメッセージ”を創意工夫して表現する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p><作者の叫びを感じ取ろう！></p> <p>①教科書の問題意識を形にした作品を鑑賞して作者が訴えたい主題を感じ取る。</p> <p>②過去の生徒作品を鑑賞し点描画の技法を学ぶ。</p>	<p>資料：私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」～2030年までの17のグローバル目標～</p>  <p>大型テレビ ノートPC 自分の作品 ワークシート</p> 
	2	<p><SDGs17の目標から自分の主題を見つけよう！></p> <p>①SDGs17の目標をもう一度読み返す。</p> <p>②SDGsの目標から自分が考えた疑問や問題の資料を収集し主題(SDGsの目標)を考える。</p>	
	3	<p><さあ！SDGsに向かおう！></p> <p>①画面構成を自分なりに工夫して鉛筆で画用紙に下描きを完成させる。 ※持続可能な目標を実現させるという願いを込めて明るい未来を表現する。</p>	
	4-8	<p><自分のメッセージを制作しよう！></p> <p>①一点一点想いを込めて点描画で細部を丁寧に書き込んで画面を完成させる。</p> <p>②題名に自分の心のメッセージを書く。SDGsの目標番号を貼る。</p>	
	9	<p><自分のメッセージを伝え合おう！></p> <p>●作品を鑑賞し合い、友だちの問題提起や意図していることや心情などを感じ取る。</p> <p>①自らの作品について感じたことや考えたことを1分間発表する。 ※SDGsの目標を達成するために自分ができることも伝えよう！</p> <p>②造形的なよさや美しさ、主題と表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。</p>	
成果	<p>3年間総合学習の時間で積み上げてきた国際理解教育を、生きた学びにするため、SDGsの目標を自分の問題意識として絵に描いて思いを表現することができた。SDGsの目標から自分の主題を生み出していく学習活動は、美術を通して人間的な成長へと繋がる。絵を制作しながら考える思考過程では自分の価値観や生き方も深まっていく題材であった。</p>		
課題	<p>今回はじめての授業実践ということもあり、グループワークを行うことよりも、主題を明確に意識付けさせ、作品制作に意欲を高めさせることに重点をおいたので、活動を入れる時間が取れなかった。導入の段階で参加が型手法を取り入れたアクティビティを入れると、深い学びができたのではないかと考える。</p>		
備考	<p>この作品を後輩に伝えていけるよう、ビデオや写真に納めデータを編集し今後につなげていければと考えている。</p>		

水について考えよう～水はつながっている～

43

所属	愛知県名古屋市立植田東小学校	実践者	脇田 佐知子
対象	小学校5年生(117人)	実践日	2018年10月～12月
実践教科	総合的な学習の時間、社会	時間数	9時間
ねらい	<p>テーマ【共生・環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ライオンキングの舞台であるサバンナのあるケニアについて肯定的に知る。 ケニアの水事情から、世界の水事情について知り、水には限りがあること、水は大切な資源であることを知る。 わたしたちの身近な水についても考え、これからもきれいな水を持続させるために、自分たちのできることを考え、行動を起こす。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ ケニアについて知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイキング【4つのコーナー】…多面的に見ることの大切さ ・【ケニアにまつわるウソ・ホント〇×クイズ】…ケニアに興味をもつ 	A4用紙・世界地図・クイズシート(愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」より)
	2	<p>◆ ケニアについてもっと知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊としてケニアにいた方の話を聞こう…スワヒリ語のあいさつ・有名な歌・食事・サバンナの動物・水について 写真・動画 	加藤友嵩さん・プロジェクター・パソコン・スクリーン
	3	<p>◆ ケニアの水事情・アフリカの水事情から、世界の水を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケニアの水事情、アフリカの水事情について知ろう！…安全で十分な水を簡単に得ることができない人々がいる ・限りある水・日本の水について知ろう！…飲み水として使える水は、0.01%、日本は大量の食料を輸入しているから、世界の水を使っている。 	動画: Plan Japan、Unicef、ACJapan プロジェクター・パソコン・スクリーン・スライド
	4	<p>◆ わたしたちの水の使い方について考えてみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイキング(環境にいいこと・悪いこと)…環境に対する自分の意識 ・昨日使った水はどのくらい？半分に減ったら？…1日にどのくらいの水を使っているのか。水が半分に減ったらどれをやめるか ・500mlで手を洗おう！…普段の水の使い方を振り返る。 	A4用紙・カラーペン・500mlペットボトル
	5・6	<p>◆ 日本の川について考えてみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水が汚れるとどうなる？【派生図】…水が汚れると命に係わる ・鴨川・堀川・公害・なぜ川が汚れるのを知ろう！…生活排水が大きな原因 ・天白川はどうか？…見た目はきれいだが、汚れている ・うまく循環しているところはないかな？…滋賀県針江の川端 	模造紙・カラーペン・東海テレビ CM・社会科教科書・プロジェクター・パソコン・スクリーン
	7・8・9	<p>◆ これからもきれいな水を持続させるためには何ができるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな水のある持続可能な未来の町を考え、発表しよう！【イメージ図】…今までの学習をもとに考える ・きれいな水を保つためにわたしのできること【行動宣言】…実際の行動につなげる 	B4用紙・A4用紙・カラーペン・プロジェクター・パソコン・スクリーン
	成果	クイズや実際に生活していた方の話などを通して、ケニアに興味をもつことができた。世界の水事情について学習したり、限られた水で手を洗ったりしたことで、水の大切さについて気付くことができた。イメージ図や行動宣言などにより、給食は絶対に残さないなど、自分たちのできることから行動をする姿が見られた。	
課題	うまく水が循環しているのを日本一例しか紹介することができなかった。そのため、その後のイメージ図には、日本の水に対するアイデアが中心となってしまった。もう少し様々な世界の水に対する取り組みを紹介することで、イメージ図のアイデアも膨らんだのではないと思う。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸会で「ライオンキング」を演じたことをきっかけに、取り上げる国をサバンナのあるケニアにした。 ・3学期は、世界の国々に興味をもつことができるように子どもたちが1人1か国を担当して、調べてまとめる予定である。 		

VII 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2019年2月9日(土) 10:00～18:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：受講者 40名、JICA 3名、NIED 6名 合計 49名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第4回のねらい

★ 評価と展望 開発教育・国際理解教育の可能性と学びの好循環

- ① 研修での学びを基にした各自の実践と課題を共有する。
- ② 1年間を通じた研修を振り返り、開発教育の意義と可能性を確認しあう。
- ③ 開発教育について学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を築く第1歩を共に踏み出す。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修のふりかえり」 2/9 10:00～10:51

1. 主催者挨拶 10:00～[05]

◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言した。

2. 本研修全体および第4回のねらいの確認 10:05～[04]

- ◇ 翌日に行う「実践報告フォーラム2019」の概要と、現在の申し込み状況を共有した。
- ◇ レジュメを基に本研修全体の目的と第4回のねらいをファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング、自己紹介～Good&New 10:09～[10]

◇ 第3回から今日までの間に起こった良い出来事と新しい出来事をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

4. 第1回～第3回研修のふりかえり 10:19～[32]

- ◇ 第1回～第2回研修について、ファシリテーターから内容の振り返りを行った。
- ◇ 第3回の記録を配付、個人で読み、内容を確認した。
- ◇ 第1回～第3回を次の視点で振り返り、グループ内で共有した。
 - ① 研修に参加しようと思った理由
 - ② 研修を通して学んだこと
 - ③ 研修を通して起きた自分の中の変化
 - ④ 最終回にあたり言葉にしておきたいこと
- ◇ ファシリテーターコメント…今実践していることの量を変える(増やす)のではなく、質を変えよう。この研修で得たことを明日の実践報告フォーラムの参加者に伝え、開発教育・国際理解教育の輪を広げよう。



● セッション2 「実践の共有①」 2/9 10:51～12:15

1. 実践報告フォーラムの流れ 10:51～[08]

◇ 「実践報告フォーラム2019」の全体の流れをファシリテーターが説明した。

2. グループ替え 10:59～[14]

- ◇ 実践対象者の年齢が近い者同士で4人×10グループになるよう、指定のテーブルに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 実践報告資料集を配付、グループメンバーの実践を個人で読み、実践の概要を確認した。

3. 実践の報告 11:13-[62]

- ◇ 翌日の実践報告フォーラム2019の準備も兼ね、本番と同様の時間配分にてグループ内で順に報告を行った。
- ◇ 実践を聞いてみたい受講者のいる机へ移動し、4人×10グループを作り、グループ替えを行った。

<実践報告の時間配分>

発表者の持ち時間 14分/1人×3回（9分以内でプレゼンテーション、残りの時間～14分までで質疑応答）

－ 休憩 － 12:15-[60]

● セッション3 「実践の共有②」 2/9 13:15-14:22

1. 実践の報告 13:15-[67]

- ◇ グループメンバーの実践を個人で読み、実践の概要を確認した。
- ◇ セッション2と同様に、発表と質疑応答を行った。

－ 休憩 － 14:22-[08]



● セッション4 「実践の成果とネクストステップの共有」 2/9 14:30-15:35

1. グループ替え、自己紹介 14:30-[14]

- ◇ あまりグループになっていない人同士で4～5人のグループを作り、グループ替えを行った。
- ◇ 「自分にとって懐かしい音」または「セッション1-4：第1回～第3回研修のふりかえり-④最終回にあたり言葉にしておきたいこと」のうち、グループでテーマにしたい方を選び、自己紹介を行った。

2. 開発教育・国際理解教育の可能性～実践を通じた成果・よい影響（自分/学習者/周囲） 14:44-[24]

- ◇ 研修参加と実践を通して、①自分自身、②学習者・参加者、③周囲（同僚・保護者・地域など）の3つの視点で開発教育・国際理解教育の可能性として得られた成果・よい影響を振り返り、グループで模造紙にまとめた。
- ◇ 模造紙の回し読みにより共有し、個人で特に良いと思うアイデア3つに☆印を付けた。

【 開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分/学習者/周囲）成果例 】

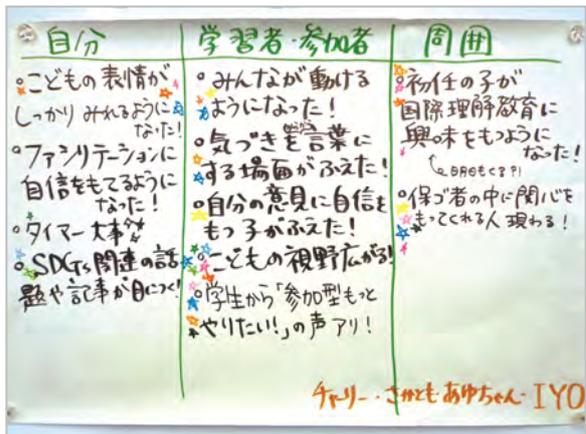
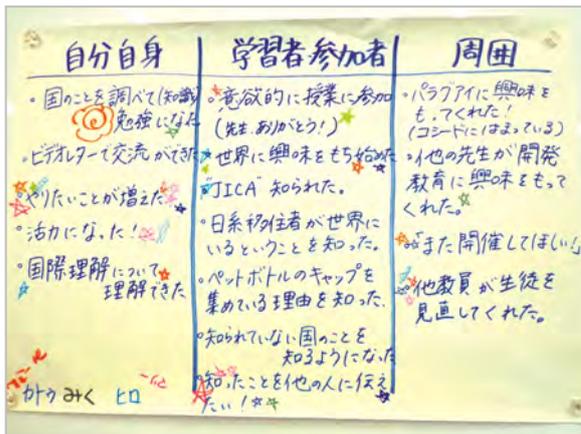
① 自分にとって

- ◇ 子ども・生徒・子どもの表情をしっかりと見られるようになった/子どもへの投げかけ方（言葉の大切さ）/子どもに寄り添う気持ちが出てきた/生徒の可能性に気づいた
- ◇ 実践・指導観の変化/「ねらい」と「目的」の大切さがわかる/引き出しが増え、子ども主体で進められた/参加者を信じてワークを任せる（信頼）/他教科でも参加型活用/時間管理が大事/ファシリテーターの言葉のチョイスの大切さを自覚した/学習者の反応がモチベーションにつながった
- ◇ 知識・視野の広がり…国の事を調べて（知識）勉強になった/SDGs 関連の話題や記事が目につくようになった/国際理解について理解できた
- ◇ 自分自身の変化…好奇心が増えた/今まで興味のなかった物へのアンテナ/もっと知らなきゃという気持ちになった/自分の中に「伝えたい!!」という気持ちが出てきた/やりたいことが増えた/「やってみよう」とフットワークが軽くなった/頭で考えたことが言葉に出ない→頭が硬い自分を知った/自分も理解度を把握・深くできる/活力になった/ファシリテーターとしてもっと学びたい
- ◇ 出会い・つながり…いろいろな人と出会った/つながりの大切さ

② 学習者・参加者にとって

- ◇ 意識・行動の変化…みんなが動けるようになった/気づきを自分から言葉にする場面が増えた/知ったことを他の人に伝えたい!/課題を自分事として捉えられるようになった/世界は自分の力で変えられる/今の生活に感謝するようになった/給食を残さなくなった/笑顔が増えた
- ◇ 知識・視野の広がり…世界に興味を持ち始めた/日本文化に関心を持った/どの授業でもSDGsのつながりがあると気付いた/SDGsに関わるPRに敏感になった/人権に敏感、思い込みからの脱却
- ◇ 自尊心・人間関係…意見を言えるようになった/自分の意見に自信を持つ子が増えた/人の意見を聞くことができ良かった/「それもいいね」と言えるようになった/発言しやすくなる・安心してできる（否定されないルール）

- OK)／認めてもらえて嬉しかった／認め合うことで雰囲気はよくなった／コミュニケーションが増えた／自分1人でも行動する勇氣
- ◇主体性・学生から「参加型もっとやりたい！」という声が挙がった／意欲的に授業に参加（先生ありがとう！）／主体的に考えられるきっかけができた
- ◇成果・新しい発想が生まれやすい（インスパイアされる）／アウトプットは楽しい（学びを深くする）／達成感がある／質問に対する「正解」を持たない
- ③ 周囲（同僚・保護者・地域など）にとって
- ◇理解・他教員が生徒を見直してくれた／校長先生が応援してくれた
- ◇成果・保護者が子どもの学びの様子を把握できる／進路を考えるきっかけを作ることができた／総合の時間の内容が変わった／国際理解教育の可能性が広がった
- ◇興味・関心・初任の教員が国際理解教育に興味を持つようになった／保護者の中に興味を持ってくれる人が現れた／「また開催してほしい」という声／大人もやりたいと言われた
- ◇行動・職場の仲間と一緒に研修に参加した／担任が自発的に行動するようになった／同じ学年の先生たちが、自分が考えた内容で同じように実践してくれた
- ◇広がり・子どもが家庭で話す→お家の人の意識の変化／市の発表で拡散された／興味を持ってくれる人が増えた→フォーラムに来てくれる／やりたいことがあればできるという、若手に対するメッセージ
- ◇つながり・人間関係・職員間の雰囲気↑／ネットワーク



- ◇ ファシリテーターコメント…☆印がつくと、その意見を受け入れてもらったという気持ちになる。肯定的な雰囲気の中で学び合えるような環境を作ろう。参加型の実践で得られる成果と開発教育の可能性を、明日の実践報告フォーラムの来場者にも持ち帰ってもらいたい。

3. ネクストステップの共有 15:08-[27]

- ◇ SDGs ゴール 4 をファシリテーターから紹介。
- ◇ 1 グループに 50 音を 1 行ずつ割り振り、持続可能なよりよい未来を築くための教育の担い手として大切な心得をグループで考え、割り振られた五十音を頭文字にした文章にまとめた。

<SDGs ゴール 4>
質の高い教育をみんなに：すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

【教育の担い手としての「あいうえお」成果】

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| あ：新しい気づきをしよう | か：関わろう、つながろう、世界のみんなと |
| い：一緒に話し、考え、チャレンジしよう | き：きっかけはどこにでもある |
| う：ウリを見つけ、個性を認めよう | く：暮らしを変える、あなたの気づきと行動 |
| え：笑顔いっぱい伝えよう | け：決して否定しない。肯定的に受け止めよう |
| お：思いやり、自分にもみんなにも | こ：こんな発見！！すてきな考え共有しよう |

さ：サステイナブルな世界を目指してやってみよう！	た：楽しく学べば深まるね！
し：知ろう、学ぼう、行動しよう、自分自身が	ち：知恵を出し合う参加型
す：スキルをつけよう、ファシとして	つ：つながるうれしさエネルギー
せ：世界を広げよう	て：手と手を取り合い考えよう
そ：そうぞうしよう！！	と：共に創ろう持続可能な未来を！
な：仲間と共に一人ひとりが主役	は：「はっそうじゃん！」の発想力！
に：21世紀の世界を創る担い手を育てる	ひ：ひとりの100歩より100人の1歩
ぬ：盗んじゃえ！！参加型のテクニック！！	ふ：不安な時は、助けて！と言おう！
ね：年齢立場を超えて	へ：「へ〜」で知り、気づいて、相手をリスペクト
の：ノリと勢いでみんなを巻き込もう！	ほ：本質を見失わない
ま：まだ間に合う！今日からすぐに始めよう	や：やってみよう！
み：みんなで一緒に小さな一歩を広げよう	ゆ：ゆっくり行こう。みんなで遠くへ！
む：無理せずに小さなことからコツコツと	よ：よりよい未来を信じて！
め：芽が出ると信じてずっと続けられ	
も：もっとすてきな世界ができるはず！	
ら：Love yourself, myself and our planet	わ：わたし（「私」と「渡す」）意識で！
り：Reaction! Don't miss it!!	を：相手「を」尊重！respect！
る：Looking for something good and new	ん：ん？の疑問を大切に！
れ：Let's challenge and start	
ろ：Low ost, good quality	

◇ ファシリテーターコメント…関心と課題を共有すると協力が生まれる。おもしろい！と思ったら人は参加してくる。

－ 休憩 － 15:35－[10]

● セッション5 「実践報告フォーラム2019の準備①」 2/9 15:45－17:07

1. 実践報告フォーラム2019の進め方と各自の動きの説明 15:45－[21]

◇ 配付資料「実践報告フォーラム2019のプログラム」と昨年度の写真およびパワーポイントを基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。

2. 実践報告フォーラム2019についての確認事項 16:06－[39]

◇ 実践体験ワークショップ担当メンバーから、プログラムの概要説明を行った。ワークショップを担当しない受講者から、実施に向けてエールを送った。

◇ 実践報告フォーラム2019の最後に挨拶をする受講者代表者を、受講者同士の推薦により決めた。

3. 参加者に持ち帰ってほしいこと、期待すること、自分が貢献できること 16:45－[22]

◇ 実践報告フォーラム2019を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」「自分が明日に期待すること」「自分が明日貢献できること」をA4用紙に書き出し、グループ内で発表し共有した。

◇ 実践報告フォーラム2019に向け、最終の質疑応答を行った。

● セッション6 「フォーラムのための準備②」 2/9 17:07－18:00

1. 有志ワークショップ／教師海外研修報告／個人の実践報告の準備及び相談 17:07－[53]

◇ 実践体験ワークショップ担当者および教師海外研修発表者は別の会場に移動し、それぞれ打ち合わせを行った。

◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。

★ 18:00 終了

VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2019

■ 開催概要

第1部「実践報告フォーラム」

- ◆ 日 時：2019年2月10日(日) 10:00～15:20
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：一般参加者164名、受講者40名、JICA7名、NIED7名、合計218名
(一般参加者内訳：教員102名、学生17名、JICA・NPO関係者8名、その他37名)
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

- ◆ 日 時：2019年2月10日(日) 15:30～17:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：過年度受講者30名、受講者40名、JICA11名、NIED7名、合計88名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2019のねらい

第1部「実践報告フォーラム」

- ①【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】 開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

- ① JICA 中部が過去16年に亘り“開発教育支援事業”の一貫として提供してきた「開発教育指導者研修(上級編・実践編)」の受講者有志が集まり、持続可能な未来の鍵となる開発教育・国際理解教育の中核的指導者として、自らの実践を続け深めつつ、つながりを築いていくための手立てを共に考える。

■ プログラムの内容

● 第1部「実践報告フォーラム」 10:00-15:20

1. あいさつ・概要説明 10:00-[15]

- ◇ 主催者(JICA 中部課長 内島)が主催者挨拶を行った。
- ◇ 開発教育指導者研修(実践編)および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントでJICA 中部木村職員が説明した。
- ◇ 実践報告フォーラム 2019 のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。



2. 教師海外研修報告 10:15-[20]

- ◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、次の流れで、現地の写真と音楽と共に研修報告を行った。
- ① パラグアイダンスと音楽



- ② パラグアイ基本情報クイズ
- ③ 各訪問先の紹介と印象に残っていること
- ④ 本研修の目的と現地研修で得た学び、気づき、自分自身の変化

3. 実践 40 事例ポスターセッション (実践報告) 10:35-[100]

◇ 奇数番号を前半、偶数番号を後半に分け、拡大した実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。14分間を一つの区切りとし、1人3セッションの報告と質疑応答を行った。



4. 午後の部の説明 12:15-[5]

◇ ポスターセッション終了後、「午後のプログラム」「実践体験ワークショップのテーマと会場」「昼食」について説明した。

- 休憩 - 12:20-[60]

5. 実践体験ワークショップ 13:20-[90]

◇ 4つの会場に分かれ、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- 分科会 1 : A1 会場…「オランウータンからの手紙」(地球環境) / 定員 48 人
- 分科会 2 : A2 会場…「もっと世界と出会おう！」(肯定的な出会い) / 定員 36 人
- 分科会 3 : B1 会場…「幸せが長続きする豊かな世の中へ」(豊かさ・SDGs・グローバルな生き方) / 定員 36 人
- 分科会 4 : B2 会場…「あなたのファッション ヤバくない!？」(人権) / 定員 36 人



- 移動 - 14:50-[10]

6. ふりかえり・閉会 15:00-[20]

- ◇ 実践報告フォーラム 2019 のふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 一般参加者、受講者それぞれ 3~4 名から、本日の実践報告フォーラム 2019 の感想を全体へ発表した。
- ◇ 受講者を代表して近藤勝士さんが、閉会のあいさつを行った。



★ 15:20 終了

● 第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」 15:30-17:00

1. ねらいの確認と JICA 中部「開発教育指導者研修 (上級編・実践編)」16年間のデータ 15:30-[10]

- ◇ レジュメを基に第2部のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。
- ◇ ホワイトボードにファシリテーターが年度を書き、受講年度に手を挙げて人数をカウントする形で、第2部参加者の16年間の受講者数データを共有した。

2. 参加者はどんな人？ 会場アンケート 15:40-[10]

- ◇ 受講年度に続き、「地域」「所属」「教師海外研修参加経験」「研修リピーター経験」「参加活動団体※」について、ファシリテーターの問いに当てはまるものに挙手をし、参加者の属性などを確認した。※JICA 中部の当該研修受講者が関わっている開発教育・国際理解教育団体



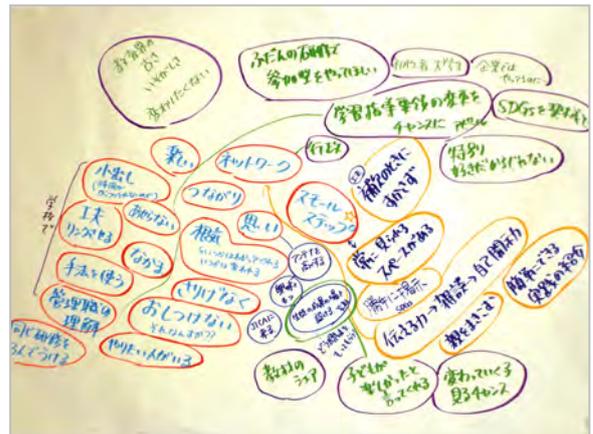
3. 開発教育・国際理解教育を続ける＆広げるために必要なコトモノ ～ワールド・カフェ方式で自由に話そう！ 15:50-[50]

- ◇ 自分自身に「○○な」といった説明をつけ、グループ内で自己紹介を行った。
- ◇ 開発教育・国際理解教育を続け、広げるために必要だと思うことやものを考え、ワールド・カフェ方式で意見を出し合い、模造紙に書き出した。
- ◇ 10分間の話し合いの後、グループ替えを2回行い、同様に話し合いと模造紙への書き出しを行った。グループ替えは、メンバーのうち1人が「カフェ・マスター」となってグループに残り、新しいメンバーに話し合いの内容を伝えた。



<ワールド・カフェとは>

- ・「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される。」という考えに基づいた話し合いの手法。(1995年、アニータ・ブラウンとデイビッド・アイザックスが開発提唱)



4. 中核的指導者として、開発教育・国際理解教育を実践し続け、周りにも広げていく手立て5カ条 + JICA 中部に期待すること 16:40-[20]

- ◇ ワールド・カフェを振り返り、次の2点についてグループで意見を出し合い、模造紙にまとめた。
 - ① 中核的指導者として、開発教育・国際理解教育を実践し続け、周りにも広げていく手立て5カ条
 - ② JICA 中部に期待すること
- ◇ 模造紙を回し読みし、他グループの意見のうち共感・納得したものに★印をつけた。

【「中核的指導者として開発教育・国際理解教育を実践し続け、周りにも広げていく手立て5カ条」の成果】

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1.実践している人と交流 | 1.情報を共有できるよう発信する |
| 2.みんなで、ゆっくり、遠くまで | 2.仲間とつながり一緒に Do |
| 3.楽しむ | 3.周囲が自然に体験しちゃってるシカケを作っちゃおう |
| 4.理解者を増やそう | 4.自分自身が楽しんじゃう |
| 5.でも無理をしない | 5.対象者の変化を発信する、表現する |
| ----- | |
| 1.楽しむ！ | 1.情熱 (指導する側) |
| 2.仲間と一緒に！ | 2.ツール化 (手法、教材の共有) |
| 3.できる範囲でコツコツ！ | 3.学ぶ者同士のつながり |
| 4.「誰にでもできる」環境を！ | 4.カリキュラムを位置付ける |
| 5.より良い未来を信じ抜く！ | 5.国際理解教育実践-できるかも!!と思わせる- |
| ----- | |

- 1.人間力を高めておく、好かれておく
- 2.研修等を受けられる心の余裕
- 3.チャレンジ精神
- 4.成果の見える化
- 5.プログラムのパッケージ化

- 1.誰もがカンタンに使えるコンテンツ
- 2.心のゆとりを感じる
- 3.情報交換の場
- 4.楽しさを知ってもらう
- 5.環境を整える

- 1.楽しく、長く、少しずつ！
- 2.仲間と話してつながりを！
- 3.子どもの力を信じよう！
- 4.流行に乗せて広げよう！
- 5.Be positive! Be passionate! Be healthy!

- 1.細く、長く！
- 2.伝える力
- 3.仲間を作る！
- 4.学ぶ機会を大切に
- 5.「自分が」「自分も」楽しむ

- 1.見せて見られてモチベーションUP☆
- 2.チェンジがチャンス！！
- 3.「それなんすか〜？」に負けない
- 4.好きならばやっちゃえ！！
- 5.やっぱりほしい、仲間・つながり♥

- 1.管理職の理解
- 2.無理をしない
- 3.仲間を増やす
- 4.資料の共有、成果のフィードバック
- 5.子どもも教員も楽しむ

- 1.仲間と出逢う、つながる、増やす
- 2.勇気を出してはじめての一步を踏み出す
- 3.誰にでもできる、いつでもできることから実践
- 4.参加型＝主体的・対話的な深い学び
- 5.楽しむ、楽しませる、わくわくを育む

- 1.楽しむべし！
- 2.キーパーソンを巻き込むべし！
- 3.手軽に取り組めるものにすべし！
- 4.価値や有用性を知らしめるべし！
- 5.続けるべし！

- 1.自分達が楽しむ
- 2.同じ志を持った仲間を増やす
- 3.研修やフォーラムなど集う場所と機会
- 4.子ども達が楽しみ変化する→保護者から学校へ要望
- 5.三代目いちえるを作る

- 1.指導要領とSDGsが仲良く
- 2.教師も子ども・生徒も楽しくワイワイ！！
- 3.すさまの時間を有効に！
- 4.つながろう、広めよう、共師の輪
- 5.巻き込もう！管理職も仲間に(^)

- 1.つながる…研修で人(同志)とつながる
リソースパーソン
- 2.育てる…身近にもう一人仲間をつくる
生徒に関心を持たせる
- 3.交渉力…環境を変える、流行に乗る
- 4.発信力…公開授業、発表の場→メディアへ
- 5.あそび、わくわく
…働きすぎない、研修に楽しんで参加

- 1.いろんな立場の人を巻き込む！
- 2.情報のシェア！（インプットもアウトプットも）
- 3.流行モノと結びつける！
- 4.できるところからスモールステップで
(時間は工夫して作る！)
- 5.楽しい！（学習者も！ファシリテーターも！）

【 JICA 中部に期待すること例 】

- ◇つながりの構築…ネットワークの中心として！／学校間交流の仲介／研修の場所と機会と情報をたくさん
- ◇地域格差解決…田舎にも来て！／JICA 中部から市町村への発信を！／自治体とつながりを！／ミニ講座を地方で開催して／中部から他地方へ活動内容や成果を伝え、地元 JICA で研修を受けられるようにしてほしい
- ◇教育機関との連携…教育委員会への売り込み／教育現場へのアピール・協力要請／校長会と仲良くしてほしい
- ◇教材・情報提供…『開発教育・国際理解教育虎の巻』再出版、無料配布／教材貸出型ライブラリー
- ◇活動・取組…開発途上国だけでなく国内の課題にも目を向けてアイデアを出してほしい／管理職向けの講座
- ◇研修…教師海外研修に元青年海外協力隊も行かせてほしい／この研修（開発教育指導者研修実践編、教師海外研修、実践報告フォーラム）をなくさないで／他の支部にもこの開発教育指導者研修を広める→そして全国に

★ 17:00 終了

■ 実践教材体験ワークショップの内容

●分科会 1 の記録 (A1会場)

テーマ	地球環境	タイトル	オランウータンからの手紙
ねらい	① 自分の生活と環境がつながっていることに気づく。 ② 持続可能な環境のためにできることを考える。		
参加者	合計 30 人(内訳:参加者 24 人、提供者 5 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:25	1. アイスブレイキング・自己紹介(a) ◇「生命カード」を 1 人 1 枚配付。「好きなお菓子」「生命カード」で自己紹介をする。 ◇アクティビティ「つながりのひも」で生命同士のつながりを確かめる。 ①カードに書かれた動物について、つながりがある動物を持っている人にひもを渡していく。(b) ②「どんぐりの木が絶滅した」という事件が起こる →どんぐりの木の人ひもをゆする。 「オランウータンが絶滅した」という事件が起こる →オランウータンの人ひもをゆする。 ③感想を共有する。(c)	(a)最初は静かだったが、自己紹介が始まるとすぐに柔らかな表情になり、どのグループも笑顔が見られた。 (b)相談しながらひもをつないでいく。関係ある動物がつながるごとに歓声が上がる。どのグループも、5 分の制限時間で、10 本～15 本ほどつながった。 (c)感想「どんぐりの木が揺れたら、それが伝わってきた」	
13:45	2. パーム油について知ろう! ◇パーム油が使われているものクイズ(a) ◇パーム油について資料で知る(b) ・『RSPO』動画 (https://www.youtube.com/watch?v=ABvAFWRBRCU) ・『mundi』12 月号	(a)植物油脂の表記の半分くらいはパーム油と聞き、うなづいていたりメモを取ったりする人多数。 (b)興味深そうに視聴する。資料を一生懸命に読む。	
14:00	3. オランウータンからの手紙 ◇オランウータンが登場し、手紙を届ける。 ◇ファシリテーターが手紙を読み上げる。	<手紙の内容> 「アブラヤシの木が植えられ熱帯雨林が減少。オランウータンが絶滅しそう。助けてほしい。」	
14:02	4. 持続可能なパーム油のための円卓会議 ◇役割カード等資料を配付。 ◇与えられた役割になりきり、「環境と人権に配慮した持続可能なパーム油生産について」の会議を行う。(a)【ロールプレイ】 ◇それぞれの役割の立場からできることを模造紙に書いていく。(b) ◇全体で模造紙を見て回り、成果を共有する。(c)	<役割カード> アブラヤシ生産者・小売業・環境 NGO・製油業・銀行・政府機関・開発 NGO (a)どのグループもなりきって熱心に話し合っている。 (b)すぐに書き始めず、解決策を具体的に考え、書き出した。 (c)成果物をカメラに残す人もいた。	
14:50	5. ふりかえり・感想共有 ◇グループで感想を共有する。(a)	(a)「つながっていくことが大事」「連携が必要」	

●分科会 2 の記録 (A2 会場)

テーマ	肯定的な出会い	タイトル	もっと世界と出会おう!
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のいろいろな国について知る。 ・ステレオタイプを塗り替える。 		
参加者	合計 37 人(内訳:参加者 31 人、提供者 5 人、スタッフ1人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:25	1. アイスブレイキング ◇次の 4 つの項目について自己紹介し合う。(a) ①行ってみたい国 ②行ったことがある国 ③住んでみたい国 ④食べてみたい料理のある国	(a)一人一人の紹介に反応したり、拍手したりし、盛り上がった。	
13:37	2. この国はどこ? ~5 枚の写真から~ ◇グループごとに 5 枚の写真(都市)を見て、どの国の写真かを考え、理由を共有する。(a) ◇同じ国の別の写真を見て、予想を深める。(b) ◇提示された 10 カ国名の中から、写真の国を予想する。 ◇正解を知り、感想を共有する。(c) ◇写真の説明を聞く。	(a)理由を共有しながら、写真の国を予想している。 (b)写真の細かいところまでじっくりと見て予想している。「これは民族衣装かなあ」「箸を使ってるよね」 <正解>フィリピン・パラグアイ・ルーマニア・ケニア・イラン <他>インド・ロシア・ブラジル・ベトナム・ガーナ (c)「1 枚の写真(都市)からでは全然想像できないが、食べ物や街並みの写真を見ると次のアイディアが出てきて楽しかった。」	
13:50	3. 世界の文化を体験しよう! ◇フィリピン・パラグアイ・ルーマニア・ケニア・イラングループに分かれ、それぞれの国の文化を実際に体験する。(a)	(a)どのグループも、ファシリテーターが紹介する各国の文化にとっても興味をもって体験していた。	
14:10	4. クイズで学ぼう世界のこと! ◇各国の「〇〇にまつわるうそ? ホント? クイズ」に個人で答え、各自で答え合わせをする。(a) ◇それぞれが印象に残ったクイズの中から、グループで出すクイズを 2 つ選び、全体に出す。(b)	(a)「へえ～」という驚きの反応がたくさんある。「正解だったけど、裏の説明を見て、へえ～と思った。」 (b)グループで話し合って答え、クイズごとに拍手がわく。	
14:35	5. 気づきを共有する。 ◇「世界の国々と出会うと・・・」から意見を派生させ、思いつくことを模造紙に書く。【派生図】(a) ◇まわし読みをして共有する。「自分もそうだ」と思ったことに☆、「なるほど」と思ったことにハートマークをつける。(b)	(a)参加者の意見「現地に行って自分の目で確かめてみたい。」「思い込んでいたことと違うことがわかる。」「日本についても考えるようになる。」 (b)印をつけながら「いいね、いいね。」と肯定的な意見がたくさん出る。	
14:47	6. ふりかえり・感想共有 ◇今日の感想を 2 人に聞く。(a) ◇ファシリテーターから「楽しく出会うことができたどうか」の問いかけと、プログラムのねらいを伝える。(b)	(a)「知らない世界を知れて、行ってみたいになった。」「他のグループからリアクションがあると共有できた実感があってうれしい。」 (b)「他の国や文化に肯定的に出会えることができたなら自死など悲しい事件は起こらなかったかもしれない。肯定的に出会えば、それはその子や周りの人にとっての強さ、しなやかさ、優しさにつながっていくのではないか。」	

●分科会 3 の記録 (B1 会場)

テーマ	豊かさ・SDGs ・グローバルな生き方	タイトル	幸せが長続きする豊かな世の中へ
ねらい	①地球の課題について知り、自分事であることに気づく。 ②自分たちに何ができるかを考える。		
参加者	合計 44 人(内訳:参加者 36 人、提供者 6 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:20	1. アイスブレイキング・自己紹介 ◇次の 2 つのテーマで自己紹介をする。(a) ①行ってみたい国とその理由 ②これまでの人生で出会った一番印象深い風景	(a)和やかに、楽しく自己紹介した。	
13:33	2. SDGs を知り、仲間と共有する ◇SDGs の紹介動画を観る。 ◇SDGs 資料「私たちが目指す世界」を配付。グループで分担して読み、内容を伝え合う。(a)	<動画>ニッセイ SDGs ジャパンセレクトファンドの冒頭部分 (a)SDGs の理解を深めようと、グループメンバーの発表を前のめりで聞いていた。	
13:52	3. 自分事であることに気づく ◇表に普段生活のなかで何気なく行っていること、裏にその行動が役立っている SDGs のゴールが書かれたカードをグループに 1 セット配付、表面を上机に広げる。 ◇自分が普段の生活で行っていること・心がけていることを選んで取り、それがどのゴールにつながっているかをグループで意見を出し合い考え、裏面のゴールを読む。(a)→感想を共有(b)	<カード例> 表:私は残業をしないようにしています→裏:ゴール 8 適切な良い仕事と経済成長 (a)ゲーム感覚でワークを進め、楽しみながら普段の生活と SDGs とのつながりを知っていた。 (b)「自分たちの生活に近いことが SDGs につながるものが分かってよかった」「SDGs が身近なことだと分かった」	
14:08	4. 課題をとらえる ◇「SDGs に誰も取り組まなかったら世界はどうなってしまうか」を考える。【派生図】(a) ◇派生図を回し読みして全体共有。いいなと思った意見に☆印をつける。(b)	(a)意見交換しながら多くの意見を書き出した。 (b)他グループの意見を、納得、共感しながら読んだ。	
14:27	5. 自分たちに何ができるかを考える ◇ワークを振り返って、SDGs の取り組みとして個人でできることを A4 用紙に書き出す。(a) ◇グループの半数が隣のグループに移動して席替えをし、書き出した行動宣言とワークショップの感想をグループ内で伝え合った。(b)	(a)普段の生活を個人で振り返りながら、何ができるかを深く考えた。 (b)「とても楽しく SDGs について学んだ」「いろんなところでつながっている、ちょっとしたことで世界は変えられる。今日の気づきを周りの人に伝えていきたい。」	
14:40	6. ふりかえり・感想共有 ◇グループで感想を共有する。(a) ◇ファシリテーター 6 人も一人ずつ行動宣言する。 ◇「SDGs のうたー未来人 feat. SDGs オールスターズ」の動画を視聴する。	(a)「身近にできることがたくさんあった。SDGs は思っているより難しくないかもしれない」「自分がいまやっている身近なことが SDGs のゴールにつながっていることが理解できて楽しかった。」	

●分科会 4 の記録 (B2 会場)

テーマ	人権	タイトル	あなたのファッション ヤバくない!?
ねらい	①ファストファッションの安さの背景にある人権や環境の課題に気づく ②買い物で社会を変えることができることを知る		
参加者	合計 33 人(内訳:参加者 27 人、提供者 5 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:20	1. アイスブレイキング・自己紹介(a) ◇次の 2 つのテーマで自己紹介をする。 ①今日のファッションポイント ②声を大にして言うほどはないプチ不満	(a)自身のことを紹介して盛り上がった。	
13:35	2. 私の服は made in どこ? ◇自分の来て来た服がどこの国から来たかを発表する。 ◇世界地図に発表された国の場所にシールを貼る (a) ◇世界の衣料品に関する資料を読む。	(a)「ネパール」「中国」「日本」「イングランド」などの答えがでた。	
13:42	3. 不平不満をぶちまけろ ◇バングラデシュの縫製工場の関係者(NGO、労働者、日本企業など)になりきり、人権がテーマの対立、環境がテーマの対立をグループに割り振り、その対立をウインウインで解決する方法を見つける。【ロールプレイ】(a) ◇与えられた役から離れ、グループで感想を共有し、全体で紹介する。(b)	(a)それぞれの役の立場からの意見があり各グループとも盛り上がっていた。 (b)「立場が違ってみんな正しい、なかなか一つにまとまらなかった」「折り合いがつかずもどかしかった」「労働者が死にそうだけど、今の状況が悪いことにも気づいておらず、どうしようもないので、支えてくれる人が必要だと思った」「消費者が安ければよいという考えに問題があると考えた」	
14:09	4. Happy 工場起業家コンペディション ◇どの立場の人も Happy になれ、投資家からお金が集まる服を製造・販売する工場を考え、イラストや文字で表現し、プレゼン内容を考える。(a) ◇グループごとに考えたプレゼン内容を全体に向けて発表する。(b) ◇全員が投資家となり、よいと思ったプレゼンに 1 人 2 票シールで投票し、1 番投票を集めたグループを発表する。	(a)模造紙を囲み活発に意見交換しながらグループで模造紙にアイデアをまとめた (b)「有害物質のない工場」「安全・快適な工場」「研修制度がある」「効率的な機械化」「環境にやさしい工場」「生産者が分かる工場」「大学×企業×工場」「デザインに特徴を持たせる」「オーガニックの素材を使う」「手作り・手作業」「」などの意見を含めたプレゼンテーションがあった。 (b)他のグループのアイデアに「なるほど～」「すごい」などと声があがった。	
14:43	5. ふりかえり・感想共有(a)	(a)「消費者が力を持っているので、自覚を持って行動していきたい」「ロールプレイでなりきってしゃべることで相手によりそって、話を聞いたりすることが改めて大事だと思った」	

●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。()内は記入者の属性

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 本気で取り組んでいるエネルギーのある人がたくさんいる。(教員)
- 様々な実践をしている人、肯定的に認めてくれる人が日本にたくさんいる！と分かった。(教員)
- 国際理解教育を通じて生徒の成長を感じている先生方に刺激をもらった。(教員)
- これからの教員人生に新たな光を見出すことができた。(教員)
- 国際理解教育にいい形で出会えた事が今日一番の喜び。(教員)
- 同じ志や考えをもっている先輩方がいると分かって安心した。(学生)
- いろいろな取り組みを聞いて、こんな先生が私の学校にもいたらって思った。(学生)
- 教員同士、それに関わる人たちがつながることができる可能性が見えた！(その他)
- 学校ではどのような開発教育、国際理解教育に取り組んでいるかを知ることができた。(その他)
- 子どもに伝えるためのいろいろな方法を知ることができた。(教員)
- 教えるためのスキルを見つけることができた。(学生)
- 様々な実践報告を聞き、授業作りの参考になった。(その他)
- 国際理解教育は小1でもできるとわかった。(教員)
- 実践は単発ではなく計画的に流れを作るしかけが必要。そのアイデアづくりのきっかけを得ることができた。(教員)
- 他国のことを学ぶときに、自分ひとりではなく他者と共有しながら学ぶことが大事だと感じた。(教員)
- 自分のことと関係付けをさせると学びがより深くなることがわかった！(学生)
- 様々な新たなテーマから、世界を見たり感じたりすることができた。(学生)
- 世界について知ることができたことはもちろん、参加した人と話せたことも嬉しかった。(教員)
- 思いもよらなかった意見やアイデアを参加者との意見交換のときに聞くことができた。(教員)
- 学校の先生が現地で学んで肌で感じた出来事を子どもに伝えるってとてもステキ。学生の立場から見て一番興味のわきやすいやり方だと感じた。(学生)
- 学生時代に開発経済学を学んで以降、このような教育の機会がなかった。今日の全てが学びだった。(その他)
- 世界の事を知ることで「豊か」になる。豊かになると自分が「強く」なれる。その強さが人に優しくできる、優しくなれることを、今日改めて感じた。(教員)
- 世界の国について知らなかったことがたくさんあり、発見だらけの1日だった。その国の良さを知ること課題を知ること、同じように大切。(教員)
- もっと世界に行きたい自分を発見した。(教員)
- 世界に行くたくさんの事を学べる。やっぱり私も実際に行きたいと思わされた。(教員)

「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- ここに来ると元気をもらえる！(教員)
- 国際理解教育の授業ってやっぱりワクワクする！(教員)
- 前に一緒に学んだメンバーが進化し続けていて感激！私もがんばる！(教員)
- 以前と変わらず活発に研修に参加している人が大勢いる。輪が広がっている。(行政・教育関係)
- 子ども達、未来のために行動する仲間と会える場が熱く持続している。(その他)
- 年々受講者の指導レベルがUP。とても参考になる。(教員)
- 発表者の強い「願い」を感じた！願いから生まれた実践の数々。明日から使えそうな実践もあり、また取り組みたいと思った。(教員)
- クラス、学年、学校と広げている実践をみる事ができた。(教員)
- 教科を越えて横断して授業をしていて、つながりをもって実践することの効果は大きいと感じた。(教員)
- どの教科の視点でも国際理解教育は可能だと気づけた。(教員)
- 実践の向こう側に、児童・生徒が興味関心をもって取り組む姿が見えてきた。(教員)
- 少しずつ自分に自信を持って進もうと思えた。(教員)
- 実践体験ワークショップに参加して純粋に子どもに(生徒に)戻ったみたいで感動した。(行政・教育関係)
- 教師海外研修の報告を聞くことができて嬉しかった。(教員)

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- たくさんの授業の事例。わくわく＆発見の連続だった！(教員)
- 実践の可能性。(自分のこの単元や教科でこれできそう！)(教員)
- つなげていく授業をすることの大切さ！(教員)
- 仲間の発表から学べるものがたくさんあり、発見が多かった。(教員)
- 他の受講者の実践を聞いて、「こうすればよかったんだ」「次はこれやりたいな」と次への意欲がより湧いた。(教員)
- 素敵な発表がたくさんあって素敵な発表をする仲間がいる。(教員)
- チームで実践体験ワークショップを作り上げ、大成功！とても嬉しかった。(教員)
- 多くの人が実践に関心を持ってくれた。嬉しい！(教員)
- 様々な立場の人が足を運んでくれた。(教員)
- 発表→質問を受けて、実践したことが深まった。(教員)
- 参加者の声。「いいね」「楽しかった」「こうやってやればいいんだ」「クラスでやってみよう」「参加するっておもしろい」(教員)
- 認めてくれる人の存在に気づける大切な機会だった。「失敗してもいい！」という気持ちを大切に前に進んでいきたい。(教員)
- アウトプットの立場にならないと分からないことがたくさんあった。行動や実践が大切。(教員)
- 校種や業種をこえて“世界の幸せ”について話げできた。(教員)
- 思いは同じ。170人の仲間に出会えた！(教員)
- 良い影響は広がっていくことの再確認。(教員)
- 無限の可能性。(その他)

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 国際理解教育を実践したい。(教員)
- 他者、多文化とのつながり。学んだことの実践。(教員)
- まずはやってみる!(教員)
- 今日学んだことを学校で実践し、広めていきたい。(教員)
- 生徒にも、自分と他人は違うことを実感できるように、教材、授業を考えていきたい。(教員)
- 国際理解教育を自分のクラス(小1)でも実践したい!(教員)
- 授業に余裕のある科目がある。何かプランニングしてみる。(教員)
- もっと周りに目を向けて引き出していきたい(ALT、文化交流先、地域課題、様々な人生経験を積まれている先生方など)。(教員)
- 入り口を分かりやすく、楽しく、身近に提供する。(その他)
- 今のこの気持ちを無駄にしないために、自分自身が国際理解教育について情報収集したり教材を調べたりしていきたい。(教員)
- 総合的な学習の時間を、生徒達にとってより学びある時間にしたい。(教員)
- 「私は世界の中の1人」を、子どもと一緒に考えたい。(教員)
- 自分の持っている教材を改良し、「いつまでも使える」状態にしていきたい。それを使うように働きかけていきたい。(教員)
- 多文化共生のボランティア活動の場にも活かしていきたい。(その他)
- 企業でCSR・CSU、環境教育・職場体験を担当。前者では、さらなる活動の強化・行政とのつながり、後者では、今日実施したカリキュラムの内容を中学生に向けてできれば。(その他)
- 国際理解教育をちゃんと伝える教員になりたい!(学生)
- 実践体験ワークショップ「肯定的な出会い」はとても大切。これからの日本社会で是非取り組んでいきたいこと。(その他)
- 自分にできることを考えてみる。(教員)
- 実践体験ワークショップでの行動宣言を実践していきたい。(教員)
- 自分も活動して感じたことを積極的に発信できたらいいな。(学生)
- これからも参加しているいろんな人とネットワークを作って新しい考え方を学ぶ。(学生)
- 知りたいと思ったこと、やりたいと思ったことを追求する。(学生)
- 世界の国を肯定的に知る→まわりに伝える、自分の人生に活かす。(学生)
- フェアトレード商品を買う。(行政・教育関係)
- 企業、政府、NGO等、様々な視点からニュースを捉え、考えていきたい。(その他)
- もっと出来ることの幅を広げて行こう!と思った。(その他)
- これからの世界とは何か?を真剣に考えていきたい。(その他)
- 知ることを続けて、できることから行動する。(その他)
- 世界の国の良さ、問題があるということを、家族、友人にも伝えていきたい。(その他)
- 自分の興味外の分野も積極的に学びたい。つながっていることもあるから。(その他)
- 受講者が実践していた手法を学んでみたい。(教員)
- この研修に参加したい。(教員)
- 青年海外協力隊に参加したい。行けたらいいなと思った。(教員)

「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 楽しく、ゆるく、細く、長く、広く、国際理解教育を続ける。(教員)
- やめない(辞めない、止めない)、あきらめない、背負い込まない。(行政・教育関係)
- 未来を考えるきっかけを作りつづける(仕事、家庭)。(教員)
- 私たち自分自身が願いをもって行動していく。(教員)
- 時間がないとか、いろいろ考える前に“やってみる”が大事。(教員)
- 指導が一方向的にならないよう、“参加型”大切にします!(教員)
- 国際理解教育の道を学校に作っていきたい。(教員)
- 自分の役割に今日学んだことの導入!(その他)
- みんなの意見や違った考えを知るのは楽しい!そんなことを子ども達にも感じてもらえる機会をたくさん与えたい♥(教員)
- 自分事として捉え考えて行動することができる授業を作る。(教員)
- 子ども達が自分の考えを言葉にできる活動を増やしたい。(教員)
- 大学院での学習の中で、「参加型の教育」を軸として持つ。(教員)
- 自分もやれることをどんどんやっていきたい(業種を越えて、つまり差別をなくしたい)。小さな一歩でも前に進めよう。(行政・教育関係)
- このワクワクする思いを共有できる仲間を増やす!(教員)
- 同様の事を行う人々に、フォーラムの存在を伝えたい。(その他)
- 地域のコミュニティを大切に。周囲の人達を巻き込んでいく。(教員)
- 国際理解教育を継続できるよう、場を設ける。(行政・教育関係)
- 来年度、研修に参加したい!もっと学びを深めることができる、つなげていくことができると思った。(教員)

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- どの教科でも「参加型」を取り入れたい!(教員)
- 3年間を通した取り組みをやりたい!やります!(教員)
- 点、線、面、つながりのある教育ができるように頑張る。(教員)
- 実践報告で見た「知らなかった!」を盗む!つなげる!(教員)
- ファシリテーションを学ぶ。経験を積んでいきたい。(行政・教育関係)
- 一人ひとりの可能性や個性を引き出し、柔らかな発想でしなやかに生きていける人づくりに取り組む。(行政・教育関係)
- 知っていく努力、楽しみを持ち続けたい。(その他)
- とにかく子ども達に伝えていきたい。そして共に考えていきたい。(教員)
- 子ども達が抱える課題は黙っていてもなくなる。「伝えたいこと」「気づいて欲しいこと」を意識して子ども達と向き合っていきたい。(教員)
- 子ども達にとって「肯定的な場」を作っていくために大人の「横のつながり」も必要。アウトプットを繰り返して仲間を増やしていきたい!肯定的に関わる力を自分自身も磨いていきたい!(教員)
- 後輩も巻き込む!子ども達が成長している様子を見せる!(教員)
- 仲間を増やし、学年全体で取り組んでいきたい。(教員)
- 地域のNPOなどつながって小さくても一歩踏み出したい。(教員)
- 今のつながりを続ける→さらに輪を広げる。実践を多くする→自分の国際理解、世界への理解を深める→さらに良い実践へ。(教員)
- 来年のフォーラムに仲間を呼んで国際理解教育を広める。(教員)
- いつか教師海外研修にも行って、この目で見てみたい。(教員)

IX 研修全体のふりかえり・評価

※受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（97%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（95%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（92%）が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（85%）、「満足できた」（10%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	38	97%
2	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	37	95%
3	自らの視野や能力を研鑽する	36	92%
4	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	30	77%
5	世界の現状や日本とのつながりを知る	25	64%
6	その他	4	10%
	全体	39	100%

設問2；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	33	85%
2	満足できた	4	10%
3	ある程度満足できた	2	5%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体（無回答1名除く）	39	100%

■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の95%が、「受講後（より）関心が高まった」と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	33	85%
2	受講前はあまり関心なかったが、受講後関心が高まった	4	10%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	2	5%
4	受講前はあまり関心なかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	39	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての理解」したり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よくわかった」と「わかった」を合わせて100%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて83%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問4,5】。

設問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりがわかりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よくわかった	24	62%
2	わかった	15	39%
3	ある程度はわかった	0	0%
4	あまりわからなかった+わからなかった	0	0%
	全体	39	100%

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	24	62%
2	考えるようになった	12	31%
3	ある程度は考えるようになった	3	8%
4	あまり考えるようにならなかった+考えるようにならなかった	0	0%
	全体	39	100%

その他、地球市民として、具体的に受講者が気づき、考えるようになった主な内容を以下に示す。

設問6；その他、地球市民として、何に気づき、何について考えるようになりましたか。（主な回答内容）

<知ること、きっかけの大切さ>

- ◇誰もがきっかけさえあれば、自ら変わる力、周りを変える力を持つ。
- ◇地球上に生きる一人として、自分も実践・行動に移す意識をもつことに加えて、みんなで一歩踏み出すためのきっかけづくりをすることが大切。 ◇知ることの大切さを改めて痛感した。

<教育現場のあり方、可能性>

- ◇知識をたくさんため込むことよりも、行動と実践が成果を生むことがわかった。
- ◇世界の課題を解決するための方法や世界の課題の実態を、子どもたちに知ってもらいたいと思うようになった。
- ◇教育を通して、日本の子どもたちにいろいろな投げかけをしていくことは、世界の子どもたちに投げかけていくことと同じであり、世界のためになっていくのだと改めて気づき、考えるようになった。
- ◇教育現場にいることは、学んだことや感じたことを広めるチャンスがある立場にあることを再確認した。持続可能な社会のために生徒に伝えられること、教員仲間に伝えられることなど、伝えていきたい。

<自分と世界とのつながり、当事者意識、効力感>

- ◇今起きている世界の問題はその国の問題なのではなく、地球市民として考えなければならない。
- ◇自分が生きていることは、世界のいろいろなものや人とつながっていて、世界の多くの課題とも無関係ではないことを意識していかなければならないと考えようになった。
- ◇自分が使っているものが地球にどんな影響を与えているかを考えるようになった。
- ◇「自分からアクションを起こす！」という当事者意識がさらに高まった。
- ◇自分自身が行動しないと、課題の解決に進まない、自分自身が動くことで課題の解決につながることもある。
- ◇原因は私たち・私にあるということ、そこから出来ることを見つけ行動に移すことの大切さ。
- ◇自分の小さな行動でも、何か変わるかもしれない。

<自分と他者とのつながり、周りへの発信>

- ◇自分の考えや行動を広げるために、人との繋がりを大切にしたい。
- ◇国際協力が身近に感じられる（身近なことから、誰でもできることがある）と、より多くの人が実感できるように、発信していきたい。また、周りを巻き込んでいけるようになりたい。

<暮らしの価値観の変化、消費行動の変化>

- ◇持続可能な暮らしはどうあるべきか考えるようになった。
- ◇消費行動や人との関わりなど、教えるだけでなく自分でも、無駄のないように小さいことから行動しようと

考えるようになった。

◇地球環境、海洋汚染を考え、無駄な物や地球を汚染する原因となるものをできるだけ買わない、使わない。

◇簡単なことからでも「継続は力なり」「ちりも積もれば山となる」で、続けていくことが大切。

<生き方・人生の価値観の変化>

◇どのようなことにも肯定的に出会うことが、これからの時代に非常に求められている。

◇日本のこと、世界のこと、地球のことを大切だと考え行動するためには、自分自身のことが大切だと考えられるようになることが重要だということに気づいた。

◇「自分の意思」を他人事にせず、責任を持って自分の人生を生きるのだという感覚が不可欠。

◇結局のところ、「自分はどう生きるのか」が、そのまま「地球市民としての生き方」に繋がるのかもしれない。

◇自分が学ぶだけでなく、次世代の人たち（学生や生徒）に伝えていくことが大切。

<自分にできることの発見、今後のアクションへの意欲>

◇持続可能な社会のために私たちにできることはたくさんあり、身近な取り組みがたくさんある。

◇既に行動していたこと、行動している人が身近にたくさんいたことに気づけた。

◇自分にも子どもたちにも何かできること（小さな一歩）がある。

◇勇気を出して一歩踏み出すことの怖さと、ワクワク感と、喜びを大切にしたい。

◇自分の生活（仕事や身の回りのこと）だけのことを考えがちになってしまうが、ライフワークとして何か別の活動を継続してやってみたい。

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の開発教育・国際理解教育の実践時間は、「10～14時間以上」が12人（31%）と最も多く、次いで、「5～9時間」が9人（23%）、「1～4時間」と「20時間以上」が各7人（18%）となっている。平均では11.2時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問7】。

前年度との対比では、「前年度より増加した」が32人（82%）であり、大半の受講者が前年度よりも多い時間の実践をしている【設問8】。

増加した主な理由としては、次ページのとおりであり、本研修の受講が、開発教育・国際理解教育の実践時間を前年度より増加させた大きな契機にもなっているといえる【設問9-1】。一方、実践時間が減少した主な理由も列記した【設問9-2】。

設問7；開発教育・国際理解教育の延べ実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～4時間	7	18%
2	5～9時間	9	23%
3	10～14時間	12	31%
4	15～19時間	4	10%
5	20時間以上	7	18%
	合計実践時間数	437	時間
	1人当たり平均実践時間	11.2	時間／人

設問8；前年度に比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	前年度より増加した	32	82%
2	前年度と変わらない	3	8%
3	前年度より減少した	4	10%
	全体	39	100%

設問 9-1；実践時間が増加した理由は何ですか。(主な内容)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| ◇研修を通して当該教育の深さ、面白さを知ったから | ◇研修で実践報告をすることが決まっていたため |
| ◇研修を通して当該教育を行う自信がついたため | ◇昨年度は全く行っていなかったため |
| ◇当該教育を広めたいという思いが強くなったため | ◇同僚や管理職の理解と協力があつたため |
| ◇SDGs をテーマに位置づけたため | ◇教科の時間の話題があつたため |
| ◇担当教科だけでなく部活動などにも広げたため | ◇新しいグローバル人材事業を立ち上げたため |
| ◇研修を通してこれまでの授業実践の内容不足に気づいたから | ◇年度当初から年間計画に位置づけたため |
| ◇本年度総合的な学習の時間で国際理解をテーマにしたため | ◇学年が3年生から1年生になったため |
| ◇特定のプログラム（アートマイル等）に参加したため | |

設問 9-2；実践時間が減少した理由は何ですか。(主な内容)

- | | |
|---|----------|
| ◇日程の確保が困難だったため | ◇転勤直後のため |
| ◇昨年度は時間が多く取れる総合的な学習の時間で行ったが、本年度は道徳と学級活動で行ったため | |

● 実践内容

前年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」54%、「深まった」23%、「ある程度深まった」18%との回答が得られ95%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 10】。

増加した主な理由としては、以下のとおりであり、本研修の受講が、開発教育・国際理解教育の実践の内容を前年度より深めることに寄与しているといえる【設問 11-1】。一方、実践時間が減少した主な理由も列記した【設問 11-2】。

設問 11-1；実践内容が深まった理由は何ですか。

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ◇参加型手法やグループワークを知り、授業に取り入れたため | |
| ◇ファシリテーションについて教わつたため | ◇2年目の受講で実践力がステップアップしたから |
| ◇研修を通して実践に対する意欲が高まつたため | ◇SDGs を目標にしたため |
| ◇フォーラムでの発表を意識してより良いものを行おうとしたから | |
| ◇研修での授業実践のシミュレーションでイメージできたから | |
| ◇他の受講者と情報交換ができアドバイスがもらえたらから | |
| ◇児童・生徒が関心を持ち、自分事として考えられるようになったため | |
| ◇児童・生徒の反応を見ながら進めることができたようになったから | |
| ◇ねらいを持った流れのあるプログラムづくりの大切さがわかつたため | |
| ◇自分の考えが広がり、実践内容の見立てが立てられたため | |
| ◇同僚に協力してもらい、授業案を考え教科横断的に取り組めたから | |
| ◇早めの授業準備や資料集めなど計画的に実践できたから | ◇これまで実践していなかったため |

設問 10；前年度に比べて本年度の実践内容はどのようなになったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	21	54%
2	深まった	9	23%
3	ある程度深まった	7	18%
4	あまり深まらなかった	1	5%
5	深まらなかった	0	0%
	全体	39	100%

設問 11-2；実践内容が深まらなかった理由は何ですか。（主な内容）

- ◇考える・行動するにつなげるには、時間不足だったから
 ◇学習対象が6年生から2年生に変わり、実践時間も少なくなったから
 ◇自分自身のファシリテーションの勉強不足 ◇テーマやカリキュラムを決めかねて教材研究が遅れたから

● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを3つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1つ目の指標「気づきから行動へつなげるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」13%「作れるようになった」39%、「ある程度作れるようになった」41%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 12】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」21%「使えるようになった」33%、「ある程度作れるようになった」44%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問 13】。

設問 12；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつなげるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	5	13%
2	作れるようになった	15	39%
3	ある程度作れるようになった	16	41%
4	あまり作れるようにはならなかった	3	8%
5	作れるようにならなかった	0	0%
	全体	39	100%

設問 13；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	8	21%
2	使えるようになった	13	33%
3	ある程度使えるようになった	17	44%
4	あまり使えるようにはならなかった	1	3%
5	使えるようにならなかった	0	0%
	全体	39	100%

3つ目の指標「理解・実践した参加型の手法」については、「アイスブレイキング」95%、「ブレインストーミング」72%、「派生図・因果関係図」62%、「フォトランゲージ」54%、「ロールプレイ」49%といった主要な参加型手法については半数程度以上の受講者が実践している。一方、「対比表」31%、「指標づくり」33%の活用はやや低くなっており、手法により実践度に高低差が見られた【設問 14】。

その他、受講者が「場づくり、学習者の主体性、学習者同士の学び合いを進めるファシリテーターとして、あなたが心がけたり、実践したりしたこと」に関する主な回答は、次ページのとおりである。

設問 14；次の参加型の手法のうち、進め方を理解し、実践した手法はどれですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合	No.	選択肢	回答者数	割合
1	アイスブレイキング	37	95%	6	カード式整理法(KJ法)	15	38%
2	ブレンストーミング	28	72%	7	ランキング	15	38%
3	派生図・因果関係図	24	62%	8	指標づくり(○箇条づくり)	13	33%
4	フォトランゲージ	21	54%	9	対比表	12	31%
5	ロールプレイ(なりきり紹介)	19	49%	10	その他	10	26%
					全体	39	100%

設問 15；場づくり、学習者の主体性、学習者同士の学び合いを進めるファシリテーターとして、あなたが心がけたり、実践したりしたことを教えてください。（主な内容）

<参加への関心・意欲を高める>

- ◇興味を引くような活動、実態に応じて楽しいと思える活動を入れる。
- ◇班に1枚ホワイトボードシートと4色のペンを準備し、ことある事に活用した。
- ◇またやってみたいと思える余韻を残す。

<テーマへの関心・意欲を高める>

- ◇ゴール（ねらいやSDGs）を学習者が常に意識できるようにしておく。
- ◇自分と世界とのつながりにリアリティを持つための工夫（好きな食べ物の原材料の原産地を考える）。
- ◇課題を自分事として捉えるために、自分の意見や考えを書きだしたり、主張したりする時間を設けた。

<プログラム構成・進行の工夫>

- ◇知り→気づき→考え→行動するプログラムの流れ。 ◇目的を意識してアクティビティを伝える。
- ◇学習者の理解度、進み具合に応じて、授業計画を見直したり、手法を変更したりするなど、判断して変更することに躊躇しない。
- ◇学習者が前向きに取り組めるような問いかけや働きかけ（言葉に気をつけて学習者と対話する）。
- ◇作業を理解しやすいように具体的に提示。例を挙げる場合は、それに引っ張られすぎないように注意する。

<肯定的で安心感のある雰囲気づくり>

- ◇笑顔が出る場づくり。
- ◇違った意見っておもしろいということがわかるアクティビティ。
- ◇学び合いができるような学習集団作り。学習者同士がお互いにまずは仲良くなること。
- ◇いきなり話し合いや交流を行うのではなく、ある程度の時間はアイスブレイキングを行い、人とかわり合いながら学ぶことの楽しさを実感できるようにした。
- ◇仲間に否定的な発言をしない、平和的な話し合いのルールを確認してから進める→児童が進んで発言をすることができるようになった。
- ◇間違いや失敗を責めず、そこから学び取ろうとする意識をもてるあたたかい雰囲気づくり。
- ◇プラスの言葉を意識して使う！（明るい未来を信じて！）
- ◇肯定的な声かけ（ざわざわした時に⇒「うるさい！」ではなく「ねえねえ話したいことがあるから聞いて！！」）

＜自己肯定感を育てる・高める＞

- ◇学習者それぞれの持ち味が発揮されるようなアクティビティを考える。
- ◇話し合いの中で出た意見を肯定的に捉え、受講者の良いところを引き出すように意識した。
- ◇学習者がいろいろなこと（批判的なことも含む）を言ってきても、受け止める。
- ◇普段から意識して、様々な意見は間違った意見と正しい意見には分かれなことを伝えていった。
- ◇誰の意見も間違いはないことを伝えた。「こんなのでもいいんですか」と聞く子どもに対して、必ず認めていった。

＜主体性を育てる・尊重する、学習者同士の学び合い＞

- ◇教師による説明よりも、学習者が活動をするなかでの気づきを大切にするための準備をした。
- ◇説明や指示を簡潔にする。適切な資料を選び、子ども達同士が互いの考えを伝え合える時間を割く。
- ◇「答え」を与えるのではなく、答えに気づく「きっかけ」を作る、という視点を持つ。
- ◇参加型の手法を使う。一人一人の考えがふくらみ、その後の全体交流で児童が進んで挙手することができた。
- ◇共同作業を促す（意見を一人に集中させない）。
- ◇考えをたくさん共有する時間を設けた。
- ◇ふりかえりの時間を必ず設けて、それをお互いに話す時間も設けた。

＜学習者との接し方・関係性＞

- ◇学習者のワクワクを邪魔しない。一緒に楽しみながら学んでいく。
- ◇自分と他人の力を信じる。学習者を信じる。焦らない（追い立てない、待つ、聴く）。
- ◇自分の考えを押し付けないけど、アサーティブに言いたいことは伝える。
- ◇地球課題に関係がある「自分」を理解しておく。（当事者意識をもっておく）
- ◇学習者もファシリテーターも楽しむ！

■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の100%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問16】。

より良い変化の中身については、次ページのとおり、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」75%、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」72%、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ち育った」58%、「自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった」58%が上位で50%を超えている。また、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」44%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」42%「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」36%といった変化の実感があった受講者も1/3以上となっている。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定

設問16；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	13	33%
2	変化があった	19	49%
3	ある程度は変化があった	7	18%
4	あまり変化はなかった	0	0%
5	変化はなかった	0	0%
	全体	39	100%

感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問 17】。

設問 17；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	27	75%
2	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	26	72%
3	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	21	58%
4	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	21	58%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	16	44%
6	自分出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	16	44%
7	自らの生き方や共生について考えるようになった	15	42%
8	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	13	36%
9	その他	5	14%
	全体	36	100%

● 開発教育・国際理解教育以外の活動への波及

受講者の92%が開発教育・国際理解教育における参加型の手法や考え方何らかの活動に取り入れている。具体的には、「コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた」33%、「研修に取り入れた」33%、「学級の決め事に取り入れた」28%、「ミーティング・会議に取り入れた」25%となっている【設問 18】。

設問 18；参加型の手法や考え方を、自分の活動に関係することに取り入れましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた	12	33%
2	研修に取り入れた	12	33%
3	学級の決め事に取り入れた	10	28%
4	ミーティング・会議に取り入れた	9	25%
5	その他	5	14%
6	どこにも取り入れていない	3	8%
	全体	36	100%

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は全員であり、全受講者合計で605人、1人あたり約16人に伝えたとしている。このことから本研修は受講者により他の教職員への波及効果も得られていることがわかる。その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が67%と一番多く、次いで「研究発表(公開授業など)で伝えた」38%、「共同で教材を作成する際に伝えた」31%などとなっている【設問 19】。

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「とても理解している」、「理解している」、「ある程度は理解している」を合わせて82%と、多くの受講者は周りの理解のもと実践活動ができている。その一方で、18%の受講者は理解が得られていない環境で実践を余儀なくされているという実態もある【設問 20】。

設問 19；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	26	67%
2	研究発表（授業公開など）で伝えた	15	38%
3	共同で教材を作成する際に伝えた	12	31%
4	その他	12	31%
5	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	8	21%
6	どこにも伝えていない	0	0%
	全体	39	100%
	伝えた人数合計	605	人
	1人当たり平均	15.5	人／人

設問 20；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても理解している	9	23%
2	理解している	12	31%
3	ある程度は理解している	11	28%
4	あまり理解していない	5	13%
5	理解していない	2	5%
	全体	39	100%

● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICA が直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、JICA 施設訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、養成された開発教育を進める中核的な指導者が研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると、下記のとおり単年度当たり 21.4 倍となった。さらに、継続年数を加味すると、還元効果は 20 倍にも 30 倍にもなると考えられる。このほか、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、そのことによる一定の還元効果も見込むことができる。

これらのことから、直接提供事業と比較して、本研修による学習者への還元効果は単年度実績として 20 倍以上、複数年、他の教職員への波及効果を加味すると、より多くの還元効果があるといえる。

◇研修受講者による延べ還元量（2018 年度）＝30,422 人・時間／年

※（実践した児童・生徒数×実践時間）の受講者 39 人分の合計

◇研修で受講者に対して行った還元量＝開発教育指導者研修（実践編）受講者数 43 人×研修時間数 33 時間＝1,419 人・時間／年

◇還元効果（倍）＝30,422 人・時間／年÷1,419 人・時間／年＝約 21.4 倍

● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1 年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、ほとんどの受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」82%、「フォーラム参加者」33%、「実践を通じたネットワーク」13%となっている【設問 21】。

また、現在および今後の開発教育・国際理解教育を実践・推進する団体への加入以降について聞いたところ、46%の受講者が既に「参加している」とし、「参加していないが、機会があれば参加したい」の 49%と合わせると、受講者のほとんどが継続的なネットワークへの加入意向が見られた【設問 22】。

設問 21；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	32	82%
2	フォーラム参加者とできた	13	33%
3	実践を通してネットワークができた	5	13%
4	その他	5	13%
5	できなかった	1	3%
	全体	39	100%

設問 22；当該教育を実践・推進する団体等※に関する状況や意向を教えてください。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	当該教育団体やネットワークに参加している	18	46%
2	参加しているが、他のところにも参加したいと思う	9	23%
3	参加していないが、機会があれば参加したいと思う	19	49%
4	参加していないし、今後とも参加したいとは思わない	0	0%
5	その他	1	3%
	全体	39	100%

■ 全体を通して

● 最も大きな学びや変化

「受講者の1年間の研修を通じた最も大きな学びや変化」についての回答は、以下のとおりである【設問 23】。

設問 23；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？

<学ぶ喜び、知ることの大切さ>

◇目からうろこ、学び感じることの喜びを実感した。 ◇まずは「知ること」「伝えること」の大切さ。

◇協力することの喜びやよさを得た。 ◇自分事として課題が捉えられると大きな学びにつながる。

<持続可能な社会の実現に向けた意識・行動>

◇持続可能な社会のために、自分にできることを意識しながら生活するようになった。

◇日常生活の中にも自分が持続可能な世界づくりのために役立てることがあることに気づいた。また、それを教師という立場で子ども達に授業実践しながら、子ども達と共に学びを深めていくことができると感じた。

<参加型学習プログラムの作り方、実践スキル>

◇ねらいを明確にすることが、ぶれないプログラムを作るためには大切であることがよく理解できた。

◇学習者の主体的な参加が基本にあるということを学んだ。

◇「知る、気づく、行動する」を柱に、誰もが楽しく、深く学べる参加型の授業の作り方を学べた。

◇普段の授業を組み立てる際に、流れ（起承転結）を考えるようになった。

◇学級経営を参加型で行い、生徒の主体性を育てることに重きをおいた。→生徒の力を信じる事ができた。生徒の意見や思いを具現化する力を身につける事ができた。

◇自校で行っている教育活動をどのようにしたら参加型にできるか意識するようになった。

◇どのような場面でどのような参加型の方法を使うと良いか分かってきた。たくさんの実践を見てより多くの指導方法を学ぶ事ができた。

<実践の経験、効果の実感>

◇組織開発的なワークを1回実践しただけだが、課内のまとまりが良くなり、職員のコミュニケーション力がより向上したように感じた。

◇課題や改善点はあるが、活動部（委員会活動）でもなんとか実施できることが分かった。

◇学校、学年全体で取り組むことが生徒に還っていくと実感した。もっと国際理解教育を進めていきたい。

＜研修レポートの効果の実感＞

- ◇ファシリテーターの言葉に昨年度よりも感動した。学んだ手法や言葉がけを実践すると、ファシリテートしやすくなった。生徒の学びの質も向上し、昨年度よりも主体的に楽しんで学習していた。
- ◇昨年学んだ内容を今年は身近なアプローチとして、必要に応じて使えるようになった。

＜自己肯定感の高まり、自分の自信へのつながり＞

- ◇安心安全な場所で、自分をそのまま表現してよいのだと思えると、不思議といろいろな思いやアイデアが湧いてきて、それを他の人と共有できるのがすごく楽しかった。自分の中に起こったこの嬉しい変化を、職場の生徒や同僚にも波及させたい。
- ◇自分が実際に参加型の手法を通して学び、他の受講者に認めてもらうことで、自分の殻を破ることができた。
- ◇現場で生かせる学びをたくさん蓄えることができた。それを実践したことで、生徒に学びがあったと実感できたことが嬉しかった。そして「もっと学びたい」と言う生徒もいたことで自信につながった。
- ◇「思い切ってやってみよう」と思えるようになった。
- ◇実践している教育活動において、理論を知ったことで、この考えで進んで大丈夫という自信になった。
- ◇向上心やモチベーションが上がり、仕事がより充実した。

＜仲間との出会い＞

- ◇同じことに興味を持つ仲間がたくさんいるという気づき。
- ◇すばらしい仲間との出会いの中で、自分の役割を実感することができた。
- ◇出会い・仲間との広がり大切さを実感できた。
- ◇現場で浸透させるのはまだまだ難しかったが、同じように実践している仲間同士でネットワークができ、相談ができるようになった安心感が得られた。

＜教育への心構え、実践環境づくり、今後のアクションへの意欲＞

- ◇肯定的な出会いでスタートすることの大切さ。国際理解教育だけでなく、新しい人やモノと出会う時にもとても重要だとわかった。
- ◇子どもたちの未来のために、自分もしっかり学びたい。
- ◇国際理解教育を行おうと思ったら、多少忙しくても時間を取ることが大切であるということ。
- ◇多くのことを学ぶことができたので、今後どのように実践していこうかと楽しみができた。
- ◇来年度、職場で先生方に広げていくための仲間づくりと自分自身が伝えていくための知識やアイデア。
- ◇他にも環境や人権に関する講習会や講座を教えてもらい、参加してみるようになった。

＜教師海外研修同時受講からの学び＞

- ◇開発教育・国際理解教育の理解が深まった。教師海外研修を通して実際にそれを肌で感じることができた。
- ◇児童とともに日本とパラグアイの歴史を関連付けながら学習することができた。パラグアイでの共生をヒントに、日本で外国人との共生について考えられるのではないかと考えるようになった。

● 研修で得られた気づきや学びの今後を活かし方

研修で得られた気づきや学びを今後どのように生かしていくかの意見は以下のとおりである【設問 24】。

設問 24；具体的にどのように活かしていきたいと考えていますか。

<学びの還元>

- ◇事業を組み立てる中で、中心となる考え方として、活かしていきたい。
- ◇子どもたちの授業に還元していきたい。研修後さっそく世界に目を向けられるよう、本を紹介したり、フェアトレード商品を見せて仕組みを話したりした。
- ◇生徒の「もっと学びたい」と思えることを、生徒を信じて積極的に実践して行きたい。
- ◇授業を宣伝し、開発教育・国際理解教育に触れるきっかけを増やしたり、様々な切り口から話題を提供し、自分のことや社会のことを考えるきっかけを作ったりしていきたい。

<実践の継続、参加型の導入、国際理解教育の教育現場への普及>

- ◇来年度以降の授業実践に繋げていきたい。職員の研修でも行いたい。
- ◇参加型の授業を他の教科でも活用していきたい。
- ◇ホームルーム活動で、英語の授業で、さまざまな活動で取り入れていきたい。
- ◇開発教育・国際理解教育を浸透していくことと、それ以外でも参加型手法を使っていきたい。
- ◇今年度は研修で学んだことを自分なりにアレンジしてこれからも続けていく。それを多くの人に広めていく。
- ◇学級の子どもたちをつなぎ、認め合うことで子どもたち同士の関係づくりに努めたい。

<他者との共有、他者への普及>

- ◇学んだことを周囲の人に様々な方法で細く長く広めていきたい。
- ◇これからも実践を続けるだけでなく、実際の自分の行動を変えたり、他の人にも広めたりしていきたい。
- ◇国際理解教育・開発教育・SDGsなどを「よく知らない・難しそう」と思っている人にも簡単などころから少しずつ広めていきたい。

<地域社会への普及>

- ◇職場（自分の勤務する学校）や地域（職場のある地域）に広めたい。コミュニティーでも実践していきたい。
- ◇自分の職場だけでなく、市町や地区により影響を与えていきたい。
- ◇地域で、多文化共生のイベントやワークショップをやってみたい。

<学びの継続、スキルアップ、教材開発>

- ◇開発教育・国際理解教育の視点で活動をしている団体のイベントにもどんどん参加して、自分自身の見識を深めていきたい。
- ◇ファシリテーターとしての場づくりや言葉選び・声かけを、場を踏むことでスキルアップできるようにしていきたい。
- ◇開発教育に興味を示してもらうためにも、さっと使えるような教科の学習に関連付けた教材について考えていきたい。

<同僚仲間との共有、組織全体の取り組みとなるような働きかけ、実践環境づくり>

- ◇他の教職員にも校内研修で、参加型の楽しさを実感してもらい広めていきたい。
- ◇来年度以降も国際理解教育の実践をどんどん行い、職場に仲間を増やしていきたい。
- ◇開発教育・国際理解教育という枠組みではなく、学校教育全般に、開発教育・国際理解教育が目指すねらいや参加型手法を取り入れられるように実践し、発信していきたい。

- ◇自分が得られた前向きなエネルギーを、職場に波及させる。
- ◇学年全体を巻き込んで国際理解教育を進めていきたい。どんな教科でもできることを自ら進んで示していければと考えている。
- ◇同様のワークを年に数回行うことで、組織の一体感がより増すのではないかと。さらに実施していきたい。

<次世代の人材育成>

- ◇職場の若手教員に、参加型の手法や国際理解教育の進め方を伝えていきたい。
- ◇「伝えたい」という気持ちになる、経験や実践の場をいかに若者に提供していけるかを考え続けて事業を組み立てていきたい。

<仲間づくり、ネットワークづくり>

- ◇自分ひとりでなく、他者を巻き込み、動かすことを意識したい。
- ◇広げて取り組むことが必要。仲間を増やしたい。
- ◇団体内や参加している集まりで実践を深めていきたい。様々な手法を活かし、理解者実践者を増やしたい。

■ 研修・実践報告フォーラムをより良くするための提案

● 開発教育指導者研修(実践編)をより良くするための提案

主なものは以下のとおり。

<良かったところ>

- ◇今年の中身の濃さに圧倒されました。
- ◇全ての点で受講前の予想を超えるクオリティーで毎回驚きがいっぱいでした。
- ◇今年度の研修は実践を重ねている方々にとってはより高度な内容として充実した研修となっていたと感じた。
- ◇とてもたくさん工夫してくださっているのが伝わってきました。
- ◇今年度のように、有志によるワークショップについて話し合う日時が、初めから決まっていたことが良かった。その日に、自分の実践についても相談できて良かった。

<研修内容に関する提案>

- ◇金沢工業大学のSDGsカードゲームが昨年9月に一般公開され、冬にはマニュアルも公開された。クラウド型で誰でも無料でダウンロードできる(ただし2次利用は禁止)ので、研修で体験するとよい。
- ◇手法の共有などもう少し時間があれば、初めて参加する方々にとっては実践内容などもより取り組みやすくなるのではないかと感じた。
- ◇理解力に差がある公立小中学校では、資料の読み取りなどを元にした実践は難しい。実践方法について学ぶ機会があると良いと思う。
- ◇受講者がファシリテーターとしてワークショップを行う時間があると、より学びが深まるのではないかとと思う。研修スタッフからの具体的なアドバイスが得られるので、こんな幸せなことはないと思う。
- ◇自分が作った授業を体験してもらいフィードバックが欲しい。
- ◇毎回の解散の前に、全員の「宣言タイム」があったらよかったかも。

<研修の日程・枠組みに関する提案>

- ◇月1で年間通して10回くらいあってもいいのではないかと考えた。遠い人は大変だけでも。
- ◇9月からフォーラムまでの間に、集まれるチャンスはこれからも残してほしい。
- ◇8月以降に相談の時間が設定していただいたのはよかったので、継続できたら良いと思う。

◇中学校の教員にとっては7月の研修の日程に3年生の引退試合に重なることが多く、「全日程参加」の条件だと難しい場合が多いので、日程をずらせると、中学校の教員は参加しやすくなると思う。

<研修の受講者・募集に関する提案>

◇先生たちとの交流の中で、私のような教員ではない違うフィールドで教育に関わる者との情報交換や視点は参考になると言ってもらった。「学校」という空間を超えた指導者たちがともに学ぶ場であることも、参加型学習の組み立てにおいて深みが出るのではと思った。

◇参加型の手法を学ぶ研修は他にはなく、とても充実していると感じているので、もっとたくさんの人に受講してもらいたい。遠方の県からも参加があったのは素晴らしいと思う。

◇管理職や教育委員会の方にもっと、きてもらったらどうですか。

◇学校制度や方針により、研修自体が伝わりにくい環境があると聞いている。より多くの受講対象となる方々に伝えて欲しい。

◇研修スタッフのみなさんの人柄、スキル、実践をより良くするためのアドバイスなど、どれを取っても最高でした。もっとこの研修のことで研修スタッフの団体のことをたくさんの方に知ってほしいと思った。

◇本当に素晴らしい研修です。中部のみならず、ぜひ関西でも開催してほしい。

<情報共有に関する提案>

◇有志ワークショップで作った資料などを、全体で共有できると良い。

◇過去の実践者の実践事例を実際に体験しながら学ぶ機会があると良いと思う。

◇受講者同士の実践を共有する機会があまりなかったので、第3回までに実践を共有する機会があるとよい。

◇受講者一人ひとりともっとじっくりお話したかった。

<その他>

◇今後とも継続して、NIED・国際理解教育センターが研修を担っていくことが大切だと思う。

◇引き続き、伊沢令子さんにファシリテーターをしてほしい。

● 実践報告フォーラムをより良くするための提案

主なものは以下のとおり。

<教師海外研修>

◇海外研修の発表はとてもよかったと思うが、もし現地で授業をしていたとしたら、その様子をもう少し詳しく聞きたかった。スライドや写真をパネルにしたものを、会場内に貼ってもらえたら、もう少し情報を得ることができたと思う。

<ポスターセッション>

◇ポスターセッションをすることによって、興味のある実践を、資料などを見ながら、まじかで話を聞けるのはとても良いことだと考える。

◇昨年度から発表の回数が減ったが、今年度の回数が妥当なように思う。

◇自分の発表（ポスターセッション）に対する参加者からのフィードバックがいただけると参考になる。

◇研修メンバーの実践を聴く時間がもっとあったらよかったと思った。研修後になって、お互いに「聴きたかったです（泣）」と言い合うことに。

◇全部のポスターセッションを見たかったので、時間のないのが残念でした。

◇もっといろいろな人の実践報告が聞きたかった。

◇受講者の番号の付け方には工夫があっても良いと思った。以前は校種別になっていたと思うが。

◇展示を「小学校」「中学校」や「環境」「人権」など、カテゴリー別にできると分かりやすかったり、移動しやすかったりするのかなと思った。

◇もう少し早めに、発表で使うことができるものが段ボールかホワイトボード化を知ることができると、事前の準備がしやすいように感じました。

<実践体験ワークショップ>

◇午後のワークショップ、SDGs への関心の高さが際立った。今後、数年はその傾向が続くと思われるので、大人数を収容できる A1 に SDGs 関連を割り当てるか、SDGs 関連ワークショップを複数準備するといいかもしれません。

◇実践体験ワークショップでのプログラムを受講者やフォーラム参加者が持ち帰って使用できるようにデータをまとめられるとよいと思う。

◇実践体験ワークショップをファシリテーターとして参加できたことも勉強になったが、他のワークショップにも参加したかった（時間が足りないと思いますが。）。

<ネットワーク会合>

◇過年度受講者の方々との交流会では、いろいろな年齢・立場の方と話をすることができ、勉強になった。

◇過年度受講者との交流はよかった。来年は過年度受講者としてフォーラムに参加できると思うと楽しみである。

◇来年度も過年度受講者との交流機会があると嬉しい。

◇過年度受講生との繋がりや、大変よかった。来年度以降も実施してほしい。

◇過去の実践者との交流ワークショップは大変よかったが、もっと実践を聞けると良いと思った。

<その他>

◇じっくり考えたり感じたりする価値があることが盛り沢山な中で、それができたのか、または右から左へ流れてしまってまた忙しい日々に戻ってってしまうのかでは、来場者一人ひとりに残るものが変わってくるのかなと感じた。ポスターセッションや実践体験ワークショップの時間を数分減らすだけで、プログラムの間に余裕が生まれるかもしれない。

◇司会進行も参加者が分担してはどうか。

◇フォーラムに参加していただいた企業の方から、「こんなに先生方が一生懸命にされているとは知らなかった」というお言葉をいただいた。一般参加には教員や国際理解に興味を持つ人以外に生徒や保護者なども参加できるようになると良いと思った。

◇教育委員会の人とかにもっと来てもらいたい。

2018年度 開発教育指導者研修 報告書

発 行 2019年3月

発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA中部）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

Tel : 052-533-0220 (代表) Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>
